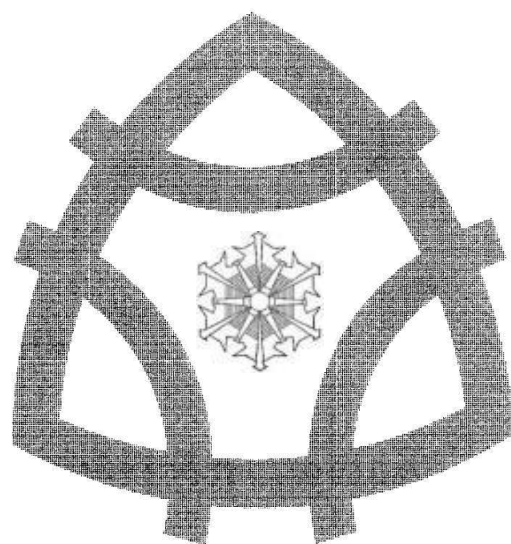


令和6年版

消防年報



三木市消防本部

令和7年刊行

は　じ　め　に

この年報は、令和6年中における三木市の主な消防事情について収録し、今後の消防行政の参考に資するとともに、広く一般に紹介するため編集したものです。

なお、この年報は、予算関係は会計年度とし、火災・救急・救助関係にあつては暦年をもって表し、その他は必要に応じ当該表の右上に基準日を表示しています。

皆様にご高覧いただき、本市消防業務に対するご理解を深めていただく一助になれば幸いです。

令和7年8月吉日

三木市消防長　　大　東　成　吉

目 次

概要編

三木市の概要	1
一目統計	2
消防の推移	3
消防の沿革	4～15
消防組織	16
事務分掌	17
管内図	18
消防庁舎の概要	19
消防相互応援協定	19
令和6年度主要行事	20～21

総務編

事務事業の現況	22
消防施設整備事業	22
消防予算年度別比較	23
消防予算に対する市民負担	23
消防予算節別比較	24
職員の配置状況	25
職員年齢構成及び階級別消防吏員数	26
職員資格取得状況	27
職員研修	28
消防表彰等状況	29

予防編

予防行政の現況	30
防火団体等の状況	30
予防広報	31
火災予防講習会等	31
防火対象物の状況	32
防火対象物の推移	33
地区別防火対象物の現況	33
消防用設備等の設置状況	34
中高層建築物の現況	35
用途別同意件数と工事別処理状況	36

建築同意処理状況	37
予防関係届出状況	37
製造所等の状況	38
危険物製造所等の推移	39
危険物製造所等の設置状況	39
地区別危険物施設設置状況	39
危険物製造所等の申請・届出処理状況	40
製造所等の各種調査及び検査状況	40
液体危険物タンクの完成検査前検査実施状況	41
手数料収入額	41
移譲事務関係の届出及び検査状況	41
三木防火協会の現況	42
会員数と予算の推移	42
令和6年度の主要行事	42

警防編

消防車両配置状況	43
消防機械器具保有状況	44
消防車両等修理状況	44
管内消防水利の現況（消火栓）	45
管内消防水利の現況（防火水そう）	45
各種届出等受理状況	46
消防活動状況	46
訓練実施状況	46
消防訓練等指導状況	47
気象情報発令状況	47
月別気象状況	48
月別降水量	48
月別平均風速	48
水防資器材備蓄状況	49

火災編

過去の主な火災	50
令和6年中の主な火災	50
火災概要（対前年比）	51
火災件数の推移	52
地区別火災件数	52
月別火災件数	53
時間別火災件数	53
署別火災件数	54
四季別火災件数	54
火災損害額の推移	55
火災損害額	55
初期消火の状況	55

出火原因別件数	56
火災による死者数の推移	57
消防部隊出動状況	57

救急編

救急出場件数	58
発生地区別出場件数	58
署別救急出場件数	58
救急出場件数の推移	59
事故種別救急出場件数	59
月別救急出場件数	60
曜日別救急出場件数	60
時間別救急出場件数	61
現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）	61
病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）	62
事故種別救急搬送人員	62
傷病程度別救急搬送人員	62
発生場所別救急出場件数	63
事故種別年齢別搬送人員	63
性別科目別搬送人員	63
高速道路における救急活動状況	64
応急処置件数	64

救助編

救助出動件数の推移	65
救助活動件数・救助人員の推移	65
救助出動状況	65
署別救助出動件数	66
地区別救助出動件数	66
発生場所別救助出動件数	67

指令編

119番受信件数	68
119番通報件数（回線区分別）	68
通信指令系統	69
通信系統図	69
高機能消防指令システム機器一覧	70～71
消防通信施設状況	72
デジタル無線	72
アナログ無線	72
火災出動体制	72
消防無線通信施設	73

消防団編

消防団の現況	74
機構	74
令和6年度消防団の主な行事	74
消防団員在職年数	75
消防団員年齢調べ	75
消防団分団・階級別実員数	76
消防団ポンプ現勢一覧表	77～80
消防団員報酬・退職・新任状況	81
報酬	81
退職事由	81
退職団員の在職年数	81
新入団員年齢別	81
消防団員出動状況	81
消防団員関係表彰状況	82

三木市の概要

三木市は、兵庫県の中南部、日本標準時子午線上に位置し、まちの中央部を東西へ加古川の支流、美嚢川が流れる沖積平野や台地、丘陵から成り立つ恵まれた自然環境と優れた伝統に培われたまちです。

昭和29年6月1日に美嚢郡三木町、別所町、細川村、口吉川村が合併して市制を施行、兵庫県で16番目の市として発足し、同年7月1日に志染村が合併し、平成17年には美嚢郡吉川町と合併しました。

三木市は、古い歴史と自然に恵まれ、古事記や播磨風土記には、億計(おけ)、弘計(をけ)2皇子の古代ロマンの物語が記されています。また、戦国時代には、東播8郡24万石を領した別所氏の居城があり、三木合戦によって荒廃した町は、豊臣秀吉の復興策によって商工業が活発化し、今日の金物産業の発展の基礎をつくりました。別所氏の居城であった三木城跡と織田方によってつくられた包囲網の付城跡・土塁は平成25年3月に国史跡指定となっています。

また、三木市は山田錦(酒米)の主産地となっており、三木金物ブランドとともに更なる発展が期待されます。

一方、市域内を中国及び山陽自動車道が通過するなど、全国的にも交通の要衝として注目され、西日本一多くのゴルフ場が立地する他、「三木ホースランドパーク」、「道の駅よかわ」(山田錦の館、吉川温泉よかたん等)など、観光資源も多彩なものがあります。

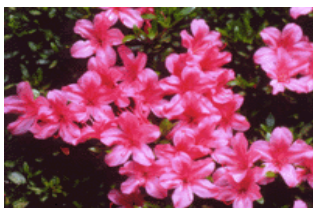
優れた交通立地を活かし、「県立三木総合防災公園」や「ひょうご情報公園都市」が整備され、将来が期待されるところです。



市 の 木 「 松 」

「松」は、三木市を取り巻く山の樹木の大部分を占め、常に山の緑を保ち、市民の気持ちをなごやかにしてくれる貴重な存在です。また、年中変わらない緑葉の若々しさ、枝ぶりの優雅さ、幹皮の力強さは、三木市の調和ある発展を象徴しています。

(昭和46年6月に制定)



市 の 花 「さつき」

「さつき」は、三木市内に数多く見られ、花は多彩、変化に富んでいます。さつきが群生し、競い合って咲いている様子は、まさに豊かに発展しようとしている三木市を表しています。

(昭和46年6月に制定)

一目統計

令和7年4月1日現在

				
面積	人口	世帯数	消防予算	署所
176.51 k m ²	男性 35,125人 女性 37,613人 合計 72,738人	34,983世帯	1,591,129千円	消防本部 1 消防署 1 分署 2

			
消防職員	消防団・分団	消防団員	消防車両
定員 93人 実員 96人 (再任用職員3名含む) 平均年齢 34.1歳	分団数 38分団 班数 103班	定員 1,080人 実員 1,050人 平均年齢 43.3歳	ポンプ車 6台 救急車 5台 救助工作車 1台 化学車 1台 水槽車 1台 はしご車 1台 指揮車 1台 その他の車両 11台

				
消防水利	防火対象物	立入検査回数	自主防災組織	危険物施設
消火栓 2,303基 防火水槽 767基	特定用途防火対象物 630棟 非特定用途防火対象物 1,990棟	一般 807回 危険物 142回	自由が丘消防隊 1	製造所 3 貯蔵所 165 取扱所 106 合計 274施設

令和6年中

				
火災	救急	救助	その他の災害	119番受信
発生件数 23件 損害額 84,873千円	発生件数 4,544件 搬送人員 4,133人	発生件数 86件 活動件数 58件 救助人員 38人	284件 警戒・偵察・風水害等	6,519件 問い合わせ・間違い等含む

消防の推移

(令和6年12月31日基準)

年次	区分	管内人口	世帯数	消防職員数	消防団員数		火災件数	損害額	死者数	救急出場件数
					三木	吉川		(千円)		
S30		38,876	7,793		1,807		14	359		
61		82,422	22,477	79	1,110	506	74	47,474	1	1,316
62		82,772	22,874	81	1,110	506	64	35,074	2	1,511
63		84,089	23,164	81	1,110	506	65	119,307	3	1,616
H1		84,401	23,800	81	1,110	506	59	100,458	3	1,612
2		85,115	24,307	80	1,111	506	69	126,846		1,728
3		85,731	24,739	81	1,112	506	53	146,294	1	1,725
4		85,983	25,217	83	1,113	506	59	109,055		1,636
5		85,886	25,516	83	1,113	506	54	74,671	2	1,754
6		86,134	25,919	86	1,113	506	70	143,646	1	1,813
7		87,177	26,696	85	1,113	506	58	108,945	3	2,374
8		87,852	27,284	86	1,113	506	66	75,083	3	2,259
9		88,193	27,826	88	1,113	506	50	94,043	2	2,173
10		88,070	28,286	90	1,113	506	47	123,228	5	2,393
11		87,615	28,525	90	1,113	506	57	91,708		2,305
12		87,165	28,728	90	1,113	506	61	125,153	2	2,478
13		86,675	29,057	90	1,113	506	63	66,033	3	2,536
14		86,351	29,400	90	1,006	506	77	68,434	4	2,631
15		85,647	29,756	90	1,006	506	54	153,585	1	2,764
16		85,568	30,034	90	972	506	34	45,214		2,783
17		85,045	30,364	90		1,375	47	125,700	5	3,094
18		84,642	30,760	90		1,363	47	108,378	1	3,040
19		83,989	31,081	90		1,369	44	128,088	3	3,077
20		83,711	31,511	90		1,367	50	174,107	2	2,980
21		82,060	31,089	92		1,342	53	119,764		3,008
22		82,383	32,007	91		1,337	48	34,189		3,195
23		81,829	32,228	91		1,337	72	103,355	2	3,323
24		81,304	32,276	91		1,337	42	72,553	3	3,314
25		80,391	32,387	91		1,332	45	28,148		3,384
26		79,768	32,566	91		1,340	35	53,772		3,416
27		79,282	32,881	91		1,331	35	21,879	1	3,597
28		78,803	33,078	91		1,326	28	18,774	1	3,755
29		78,414	33,389	90		1,328	39	99,498	3	3,784
30		77,552	33,729	93		1,321	28	80,258	1	4,036
R1		77,238	33,947	93		1,321	22	40,779		4,038
R2		76,565	34,234	98		1,344	30	17,761	2	3,622
R3		75,571	34,207	103		1,329	26	21,963	2	3,764
R4		74,872	34,459	102		1,321	47	74,269	4	4,460
R5		74,028	34,631	97		1,215	38	74,983	0	4,420
R6		72,738	34,983	99		1,069	28	84,873	0	4,544

(注) 消防職員数及び消防団員数は実数

消防の沿革

昭和22年	4月	消防団令が制定公布され、消防団が誕生。
昭和23年	7月	消防組織法が施行（S22.12.23公布）。消防事務が市町村に移管され、自治体消防制度が発足、各町村長が所管する消防団を設置。
昭和29年	6月	旧美嚢郡のうち、三木町・別所村・細川村・口吉川村の1町3村の合併により三木市が誕生。（同年7月1日に三木市と志染村が合併）昭和29年7月消防組織は旧町村単位の5団を統合、三木市連合消防団を設置。
	7月	三木市連合消防団長に魚住丑之助氏就任。
	10月	消防ポンプ自動車（トヨタ）1台購入、連合消防団に配備。
	12月	消防団常備部車両1台・人員8名を設置。
昭和30年	12月	三木市役所内に常備部消防詰所を整備設置。
昭和33年	4月	第2代連合消防団長に津村武雄氏就任。
昭和34年	10月	第3代連合消防団長に山口静男氏就任。
昭和36年	1月	消防団常備部に消防ポンプ自動車1台購入を配備。
	3月	水槽付消防ポンプ自動車（トヨタ）1台購入、消防団常備部に配備。
昭和37年	4月	三木市火災予防条例を制定。
昭和38年	10月	三木市連合消防団を発展的解消し、三木市消防団が発足。 初代消防団長に山口静男氏就任。
	12月	消防団常備部に消防ポンプ自動車（ニッサン）を配備。
昭和39年	2月	日本消防協会長表彰により表彰旗を授与。
	10月	中短波無線電話、基地局1台、移動局3台を消防署に設置。
昭和40年	4月	三木市消防本部、消防署を設置、常備消防が発足。水槽付消防ポンプ自動車1台 普通消防ポンプ自動車1台、消防職員21名で業務を開始。 消防団常備部は解散する。消防長事務取扱に衣巻顕明氏（市長）、消防本部次長 兼消防署長に今井真治氏就任。三木市消防団員定数1,566名と定める。
	5月	第2代消防団長に大林嘉三氏就任。
	10月	三木市消防団・県知事表彰受賞、楯を授与。
	12月	三木市加佐字草加野及び三木市細川町脇川（通称草加野）の両地区の消防行政を小野市消防本部に委託。
昭和41年	4月	消防職員4名採用（総数25名）三木市消防団員定数1,500名と定める。
	9月	13日午前2時10分覚知。三木市立豊地小学校から出火し、2階建校舎延べ面積1,539㎡が全焼。原因不明。
昭和42年	2月	消防ポンプ自動車（いすゞ・A-2級）1台を購入、消防署に配備。
	4月	第2代消防長に金鹿秀夫氏（助役）就任。
	6月	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。
	7月	加古川市、小野市と「消防相互応援協定」を締結。
	10月	三木市消防団員定数1,450名と定める。
	12月	第3代消防長に大原義治氏（市長）就任。
昭和43年	3月	細川地区消防団に消防ポンプ自動車1台（トヨタ・A-2級）を配備。 細川機動隊が発足。消防本部及び消防団・消防庁長官表彰を受賞、竿頭綬を授与。
	4月	三木市消防団、組織・機構改革60分団を29分団に統合整備。

昭和43年	4月	三木市消防団員定数1, 400名と定める。消防職員3名採用(総数28名)
	6月	第4代消防長に今井真治氏就任。
	10月	神戸市と「消防相互応援協定」を締結。 中短波無線電話機移動用1台購入、消防署に設置。
昭和44年	1月	救急自動車(トヨタ)1台を購入、消防署に配備し、救急業務を開始。
	4月	消防職員3名採用(総数29名)
	10月	三木市消防団員定数1, 380名と定める。
昭和45年	3月	化学消防自動車(三菱ふそう・A-2級)1台を購入、消防署に配備。
	4月	消防職員2名採用(総数30名)
	5月	三木第2分団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を配備。
	7月	吉川町、東条町と「消防相互応援協定」を締結。
	10月	三木市消防団員定数1, 280名と定める。
	12月	消防庁舎建設工事着手(三木市本町2丁目9番1号) 口吉川地区消防団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を配備。 口吉川機動隊が発足。消防救助隊発隊。(隊員15名)
昭和46年	4月	消防職員2名採用(総数31名)
	6月	消防指令台を消防署に設置、運用開始。 超短波無線電話機基地局(ほんぶ)1台、移動局4台新設、消防署に設置。
	7月	消防本部新庁舎が竣工、業務開始。(鉄筋コンクリート造・3階建)
	8月	志染地区消防団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を配備。 志染機動隊が発足。
	10月	組織・機構改革。消防署に機械係を新設。 三木市消防団員定数1, 200名と定める。
昭和47年	4月	第5代消防長に五百蔵利治氏就任。消防職員5名採用。(総数34名)
	10月	別所地区消防団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を配備。 別所機動隊が発足。三木市消防団員定数1, 140名と定める。
昭和48年	3月	屈折はしご付消防ポンプ自動車(三菱・A-1級)1台を購入、消防署に配備。
	4月	消防職員4名採用(総数39名)
	10月	消防職員1名採用(総数40名)
	11月	三木第6分団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を更新配備。
昭和49年	4月	消防職員5名採用(総数45名)
	7月	三木青年会議所から救急自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。
	8月	消防指令車1台を購入、消防本部に配備。 三木市消防団・県知事表彰を受賞、表彰旗を授与される。
昭和50年	3月	消防本部及び消防団・消防庁長官表彰を受賞、表彰旗を授与。
	4月	消防職員4名採用(総数48名)
昭和51年	4月	消防職員5名採用(総数53名)
	9月	消防署広野分署庁舎建設工事に着手。(三木市志染町広野5丁目1番)
	12月	消防ポンプ自動車(ニッサン・A-2級)1台を購入、消防署に配備。
昭和52年	1月	水槽付消防ポンプ自動車(三菱ふそう・A-2級)1台を購入、消防署に配備。
	3月	三木市消防署広野分署新庁舎が竣工。水槽付消防ポンプ自動車1台、普通ポンプ自動車1台、救急自動車1台、及び消防吏員15名で業務を開始。 組織・機構改革。消防署に消防第1係及び消防第2係を新設。 超短波無線前進基地局(ひろの)1台、移動局2台、広野分署に設置。

昭和52年	3月	査察広報車1台を購入、消防本部に配備。 13日午後1時40分覚知。三木市志染町四合谷から出火し、強風にあおられ造成予定地であった高男寺周辺の山林30haを焼失、翌朝に鎮火。
	4月	組織・機構改革。消防署に消防課を新設、消防本部総務課と2課制とした。 第6代消防長に戸田良一氏就任。消防職員6名採用（総数58名）
	9月	日本消防協会から救急自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。
	10月	消防ポンプ自動車1台をロータリークラブから寄贈を受け、消防署に配備。 三木第4分団・三木第8分団に消防ポンプ自動車(ニッサン・A-2級・BD-I型)を更新配備。
昭和53年	3月	消防パトロール車1台を購入、消防本部に配備。
	4月	消防職員4名採用(総数62名)
	10月	日本損害保険協会から、消防ポンプ自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。
昭和54年	4月	組織・機構改革。総務課に企画係・庶務係・予防第1係及び予防第2係、消防課に警備第1係・警備第2係・機械第1係・機械第2係に組織改正。 消防職員4名採用(総数64名)
	8月	加東消防事務組合と「消防相互応援協定」を締結。
	2月	水槽付消防ポンプ自動車1台を購入、消防署に更新配備。
昭和55年	4月	第7代消防長に北川真昭氏就任。消防職員6名採用(総数69名)
	3月	山之内製菓(株)から救急自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。
昭和56年	4月	組織・機構改革。消防本部総務課に企画係・庶務係・予防係・危険物係及び消防係、消防署に警備第1係・警備第2係・機械第1係・機械第2係・消防第1係・消防第2係・通信第1係・通信第2係・救急第1係及び救急第2係に組織改正。 消防職員4名採用(総数72名)
	1月	緊急用資材搬送車1台を購入、消防本部に配備。
昭和57年	4月	第8代消防長に上野成生氏就任。消防職員3名採用(総数75名)
	11月	美囊郡吉川町と三木市との間における「消防事務委託に関する協定書」に調印。
	12月	三木ライオンズクラブから救急自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。
	2月	石対交付金事業により、現場指揮自動車1台を購入、消防本部に配備。
昭和58年	3月	超短波無線前進基地局(よかわ)1台を整備、吉川町役場に設置。
	4月	三木市消防署吉川分署を開設し、化学消防自動車1台、普通ポンプ自動車1台、救急自動車1台及び消防吏員12名で業務を開始。 組織・機構改革。消防本部総務課に企画係・管理係・予防係及び危険物係を、消防署消防課に警備第1係・警備第2係・消防第1係・消防第2係・機械係・通信第1係・通信第2係・救急第1係及び救急第2係に組織改正。 消防職員6名採用(総数80名)
		中国道のうち兵庫県の区域における消防相互応援に関する協定を締結。
	5月	第3代消防団長に小山伊一氏就任。
	1月	水槽付ポンプ自動車及び消防ポンプ自動車各1台を購入、消防署に配備。
昭和59年	3月	日本自動車工業会から救急自動車1台寄贈を受け、広野分署に配備。
	5月	8日午後9時6分覚知。三木市別所町下石野屋外物品集積所から出火し、古タイヤ約20,000本が焼失、翌朝に鎮火。
	1月	化学消防ポンプ自動車(日野)1台を購入、消防署に更新配備。
昭和60年	3月	消防本部の通信指令室・食堂及び待機室を改装整備。
	4月	第9代消防長に谷川齊氏就任。消防職員2名採用(総数80名)

昭和 60 年	5 月	三木市・小野市の両市境界上の消火栓新設等に関する覚書を締結。
	10 月	三木市消防団員定数 1, 113 名と定める。
	11 月	三田市、稲美町と「消防相互応援協定」を締結。
	12 月	加古川市と「消防相互応援協定」を一部改正、締結。
昭和 61 年	3 月	消防本部の消防・救急指令台を更新配備。
	7 月	大和ハウス工業㈱から水槽付ポンプ自動車(日野)1 台寄贈を受け、広野分署に配備。
	8 月	資材搬送車 1 台を購入、吉川分署に配備。
	12 月	消防指令車 1 台を購入、消防本部に配備。
昭和 62 年	3 月	消防本部無線基地局を更新設置。
	8 月	消防本部の査察車 1 台を購入、更新配備。
昭和 63 年	3 月	「舞鶴自動車道における消防相互応援協定」を締結。
	4 月	組織・機構改革。消防本部に予防課を新設、総務課と 2 課制とし、総務課に企画係・管理係を、予防課に予防係・危険物係を置く組織改正。 消防職員 2 名採用(総数 81 名)
	6 月	日本防火協会から三木市少年婦人防火委員会へ防火広報車「火の用心」号 1 台の寄贈を受ける。
	7 月	「中国道のうち兵庫県の区域における消防相互応援協定」を一部改正締結。
平成 元年	8 月	「兵庫県広域消防相互応援協定」を締結。
	12 月	超短波無線基地(全国共通波・県内共通波)1 台を整備、消防署に設置。
	11 月	親と子の防火のつどい「幼年・少年・婦人防火安全大会」を開催。幼年・婦人防火クラブ員・消防関係者約 560 名が参加。パレードの後、文化会館において王子動物園の亀井一成氏を講師に招き講演会を開催。
	12 月	資機材搬送車 1 台を購入、広野分署に更新配備。
平成 2 年	8 月	日本消防協会から三木市消防団に広報車 1 台寄贈を受け、団本部に配備。
平成 3 年	3 月	救急自動車 1 台を購入、吉川分署に更新配備。 救助工作車 1 台を購入、消防署に配備。
	4 月	消防職員 2 名採用(総数 81 名)
	12 月	資機材搬送車 1 台を購入、消防署に更新配備。
	3 月	はしご付消防自動車(日野・30m 級)1 台を購入、広野分署に配備。 (屈折はしご付ポンプ自動車は廃棄)
平成 4 年	4 月	消防職員 2 名採用(総数 83 名)
	10 月	広野分署の無線前進基地局を更新設置。
	2 月	兵庫衛星通信ネットワーク管理運営に関する協定書を締結。
	4 月	兵庫衛星通信ネットワーク設備を導入。
平成 5 年	9 月	神戸市救急救命士養成所に三木市から職員 1 名を派遣。養成研修を開始。
	10 月	準高規格救急自動車(トヨタ)1 台を購入、消防署に更新配備。
	11 月	15 日午後 2 時 32 分消防本部覚知。中国自動車道上り 41KP 付近でタンクローリーが中央分離帯に衝突炎上、ガソリン・軽油等 20,000L が燃え、神戸市からヘリ等特別応援を要請、三木市・神戸市から 13 台が出場。
	4 月	消防職員 3 名採用(総数 86 名)
平成 6 年		組織・機構改革。消防署消防課に高度救急担当を新設。 救急救命士国家試験に合格。救命士誕生。(神戸市救急救命士養成所 1 名)
	10 月	美囊郡吉川町と三木市との間における「消防事務委託に関する協定書」の一部

平成 6 年	1 0 月	改正に調印。
	1 1 月	市民に対する応急手当の普及啓発を推進するため、普通救命講習会を開始。
平成 7 年	1 月	1 月 1 7 日午前 5 時 4 6 分震度 7 の兵庫県南部地震が発生し、三木市内も全域にわたり被害を受けた。消防本部は、2 5 日まで神戸市応援を行う。
平成 8 年	3 月	消防ポンプ自動車(CD—I 型) 1 台を購入、広野分署に更新配備。 東播磨内陸地域 5 公立病院と「兵庫県東播磨内陸地域救急救命士に対する医師の 具体的指示等に関する協定書」に調印。 小型動力ポンプ付水槽車(Ⅱ型) 1 台を消防署に更新配備。 消防ポンプ自動車(CD—I 型) 1 台を吉川分署に更新配備。 三木第 4 分団・三木第 8 分団に消防ポンプ自動車(CD—I 型)に更新配備。
	4 月	第 1 0 代消防長に大貫盛行氏就任。消防職員 2 名採用(総数 8 6 名) 組織・機構改革。消防署消防課に防災指導担当を新設。 「中国自動車道のうち兵庫県の区域における消防相互応援協定の一部を改正する 協定書」に調印。
	9 月	兵庫県消防防災航空隊の発足、三木市から隊員として職員 1 名を派遣。
	1 0 月	高規格救急車 1 台・救急救命士 6 名体制で三木市高度救急業務を開始。 消防組織法に基づく三木市消防本部消防職員委員会を設置。 三木市災害対応総合情報ネットワークシステムが整備完了、運用開始。
	1 1 月	山陽自動車道の神戸ジャンクションから三木、小野インター間が開通、日本道路 公団等と消防相互応援協定を締結、消防及び救急業務を開始。
	1 2 月	三木第 6 分団消防器具庫竣工。(鉄筋 A L C 造、2 階建延べ 8 1 m ²)
	3 月	「山陽自動車道消防相互応援協定」及び「山陽自動車道消防相互応援協定に基づ く覚書」を日本道路公団及び兵庫県と締結。 消防指令車 1 台を購入、消防本部に更新配備。(トヨタクラウン・2 0 0 0 cc)
	4 月	消防職員 2 名採用(総数 8 8 名) 組織・機構改革。消防署広野分署に救急担当を新設。
	7 月	吉川分署配備の救急車に高度救急資器材を積載し、準高規格救急自動車に整備。
	1 2 月	高規格救急自動車 1 台を購入、広野分署に更新配備。 (いすゞスーパーメディック)
平成 1 0 年	1 月	高規格救急自動車 1 台・救急救命士 4 名体制で広野分署高度救急業務開始。
	4 月	組織・機構改革。消防本部に「警備課」を新設、消防署消防課を「消防第 1 課」 「消防第 2 課」に改正。 消防職員 4 名採用(総数 9 0 名) 代表消防本部を経由して携帯電話からの 1 1 9 番通報を受信開始。
	5 月	山陽自動車道の西神線開通。「三木ジャンクション」から「神戸西インター」ま での間、関係機関と応援協定を締結、消防及び救急業務を開始。
	9 月	アポロキャブを採用。
	1 0 月	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車 1 台寄贈を受け、消防署に配備。
平成 1 1 年	1 2 月	山陽自動車道消防相互応援協定の一部を改正する協定を関係市町と締結。
	4 月	組織・機構改革。消防署吉川分署に救急担当を新設。
	7 月	3 台目の高規格救急自動車 1 台を購入、吉川分署に更新配備。(トヨタグランビ アハイメディック)救急救命士 3 名体制で吉川分署高度救急業務開始。
	1 2 月	新消防庁舎移転建設検討委員会・幹事会を消防本部内に設置。

平成11年	12月	コンピューター西暦2000年問題対策委員会を設置、危機管理計画作成。
平成12年	6月	新消防庁舎基本構想を策定。
	9月	「ガス漏れ及び爆発事故等の防止対策に関する覚書」を大阪ガスと締結。
	10月	消防ポンプ自動車(CD-I型)1台を購入、消防署に更新配備。 (ミツビシキャンター)
		広野分署梯子付消防自動車のオーバーホール完了。(日本機械工業K・K)消防 細川機動隊にポンプ自動車(BD-I型)1台を更新配備。 (トヨタランドクルーザー)
		神戸市救急救命士養成所へ三木市から事務職員1名を派遣。
平成13年	12月	資材搬送車1台を購入、消防署に更新配備。(ミツビシトラック)
	4月	別所町コミュニティ消防センター竣工。(鉄骨造2階延べ面積84㎡) 喫煙室を設置し、消防本部庁舎における分煙を実施。
	5月	査察車を購入、消防本部に更新配備。(ミツビシミニキャブ)
	7月	4台目の高規格救急車を購入、消防署に更新配備。(消防11号車を更新)
	10月	三木市消防団に兵庫県知事から竿頭綬を授与。
	12月	資材搬送車1台を購入、吉川分署に更新配備。(ミツビシトラック)
平成14年	1月	口吉川第4分団栢原班・三木第5分団加佐西班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。
	3月	細川第6分団脇川班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。
		事務連絡車1台を購入、吉川分署に更新配備(ミツビシミニキャブ)
	4月	消防職員1名採用(総数90名) 三木市消防団員定数改正。1,113名を1,006名と定める。
		組織・機構改革。予防課に「設備担当」消防課に「調査担当」を新設。
	11月	石対交付事業により、小型動力ポンプ(C-1級)2台を購入、広野分署・吉川分署に配備。
		三木市消防本部(署)防災センター設計者選定委員会設置。
平成15年	3月	新消防庁舎建設に伴う調整池工事完了。 新消防庁舎用地(防災拠点施設整備事業用地)取得。(21,439㎡) 新消防庁舎建設に伴う建築提案設計の実施及び作品の決定。 消防吏員服制準則一部改正に伴い、三木市消防吏員服制規則(別表2)を全面改正。
	4月	第11代消防長に岡本忠文氏就任。消防職員2名採用(総数90名)
	11月	三木第2分団・口吉川第2分団大島班に小型動力ポンプ(B-3級)を更新配備。
	12月	別所第3分団西這田北班・口吉川第2分団槇班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。
平成16年	1月	消防指揮車(三菱デリカ)1台を購入、消防署に更新配備。
	3月	新消防庁舎建設に伴う実施設計。 兵庫県立広域防災センター竣工式に伴い、消防本部から12名、車両4台が一斉放水訓練に参加、また、口吉川第2分団槇班による小型ポンプ操法を披露。
	4月	兵庫県消防防災航空隊に、隊員として職員1名を派遣。 消防団にアポロキャップを採用し全団員に貸与。
	7月	18日未明に発生した福井県北部の豪雨災害に、18日から19日の2日間、緊急消防援助隊として、消防隊1隊(5名)・救急隊1隊(3名)を派遣した。 (東播ブロックから明石市・加古川市・高砂市・三木市の各消防本部を派遣) 緊急消防援助隊法制化以降、初の出動となった。

平成16年	10月	20日に発生した台風23号により豊岡市で豪雨災害が発生、兵庫県下広域応援隊として、21日から22日の2日間、救急隊1隊(3名)が出動した。 (東播ブロックから明石市・加古川市・加西市・加東行政・高砂市・三木市の各消防本部が出動)
	12月	志染機動隊・別所町第3分団花尻班に小型動力ポンプ(B-3級)を更新配備。
平成17年	3月	三木第5分団加佐東班・細川第1分団に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。
	4月	消防職員2名採用(総数90名)
	8月	財団法人日本宝くじ協会から、防災整備事業助成として消火・通報訓練指導車の寄贈を受け、消防本部に配備。
	10月	「消防事務委託」を受託していた、美囊郡吉川町と合併。 三木市消防団員定数改正。1,006名を1,428名と定める。
	11月	携帯電話からの119番緊急通報が直接受信方式に変更。
	12月	高規格救急自動車(ニッサン エルグランド パラメディック)1台を購入。消防署に更新配備。
平成18年	2月	別所第4分団下石野班・ロ吉川第2分団大島班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。三木第5分団加佐東班・ロ吉川第5分団東中班に小型動力ポンプ(B-3級)を更新配備。
	3月	水槽付消防ポンプ自動車(水I-A)1台を購入、吉川分署に更新配備。 延田興業から高規格救急自動車(トヨタ グランビア ハイメディック)の寄贈を受け、広野分署に配備。 毎月10日を住宅用火災警報器推進デーと定め、住宅用火災警報器推進隊(平成23年5月まで)を発足。
	4月	第12代消防長に竹中誠一氏就任。消防職員3名採用(総数90名)
	9月	行幸啓に伴う現地警備を実施。
	10月	のじぎく兵庫国体のソフトテニス・サッカー・馬術競技会場及び、のじぎく兵庫大会障害者サッカー大会に職員延べ130名、車両延べ52台を持って現地警備を実施。 第20回全国消防操法大会が三木市の兵庫県広域防災センターで開催される。
	11月	消防本部(署)庁舎の実施設計の変更。
平成19年	2月	岩宮・花尻・保木班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。ロ吉川機動隊・三和平田・殿畑班に小型動力ポンプ(B-3級)を更新配備。
	3月	災害対応特殊化学消防ポンプ自動車(Ⅱ型)を購入。消防署に配置。
	4月	第13代消防長に常深譲氏就任。消防職員5名採用(総数90名)
	5月	第4代消防団長に中西君一氏就任。
	8月	消防庁舎建設の工事始まる。
	10月	神戸市消防局警防部救急救助課へ三木市から事務職員1名を派遣する。 はしご付消防自動車のオーバーホールを実施。
平成20年	3月	東這田・殿畑・西這田南・久次・南畑・桃坂班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。窟屋・豊岡班に小型動力ポンプ(B-3級)を更新配備。
	3月	まとい会の五百蔵幸三氏より、広報車1台と軽四輪消防車2台の寄贈を受け消防署と広野分署に配備。 自治体消防制度60周年記念式典に消防長、消防団長、消防副団長が参加。
	4月	組織、機構改革。「総務課」に管理係・企画係・指令係を、「警防第1・2課」に消防係・警防係を、また「救急救助課」を新設し救急係・救助装備係を置く。 消防職員3名採用(うち、1名は消防本部発足後、初の女性消防職員)

平成 20 年	4 月	新消防庁舎完成。 庁舎(鉄筋コンクリート造・2階建て延べ面積 2, 7 8 7 m ²) 備蓄倉庫・一般車両倉庫(鉄骨造平屋建て面積 4 9 5 m ²) 訓練塔(鉄筋コンクリート造 5 階建て延べ面積 2 9 4 m ²) 高機能消防指令システム I 型(N E C)整備。 新消防庁舎竣工式と市民見学会を実施。
	5 月	北播消防協議会総会をグリーンピア三木で開催する。
	1 1 月	口吉川機動隊に普通小型動力ポンプ積載車を配備。平井班、興治班、窟屋班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。細川第 2 分団・前田班・古川班に小型動力ポンプ(B—3 級)を更新配備。
平成 21 年	4 月	第 1 4 代消防長(理事兼防災監)に井上茂利氏就任。 消防職員 4 名採用(総数 9 2 名) 三木市消防団員定数改正。1, 4 2 8 名を 1, 3 6 0 名と定める。
	8 月	御坂班・戸田班に小型動力ポンプ付軽四輪積載車を配備。三木第 2 分団に小型動力ポンプ軽四輪積載車を更新配備。
	1 1 月	平成 21 年度秋季兵庫県下消防長会をグリーンピア三木にて開催。
平成 22 年	2 月	兵庫県下消防長会警防事務担当者会議を消防本部にて開催。
	3 月	広野分署に水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅱ)を更新配備。
	4 月	第 1 5 代消防長に高谷尚志氏就任。 消防職員 3 名採用(総数 9 1 名)
	9 月	総務省消防庁から無償貸与を受けた消防団救助資機材搭載車両を志染機動隊に更新配備。 別所機動隊に普通小型動力ポンプ積載車を配備。
	1 2 月	消防団員リーダー研修として、各地区から消防団員が各種防災知識の習得ならびに実技訓練を実施する。
		吉川分署に高規格救急自動車を更新配備。
平成 23 年	3 月	東日本大震災の被災地に、3 月 1 1 日から 4 月 2 1 日の 4 2 日間、兵庫県緊急援助隊として消火隊 1 隊を派遣し、3 3 名の隊員が捜索・情報収集・火災警戒活動にあたる。
	9 月	三木第 6 分団に普通小型動力ポンプ積載車を配備。
	1 0 月	和田班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。渡瀬法光寺班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を更新配備。
	1 1 月	細川第 1 分団・毘沙門班・新田班に小型動力ポンプ(B—3 級)を更新配備。
	1 月	資材搬送車を 1 台購入。消防署に更新配備。
	2 月	東播地区消防本部 N B C 災害対応訓練を三木山総合運動公園で実施。東播 7 消防本部・三木警察、延べ 7 5 名参加し(県広域消防相互応援協定に基づき)災害対応能力向上、連携強化を図った。
平成 24 年	3 月	消防団にワッペンを採用し機動隊に貸与。 救助工作車Ⅱ型を消防署に更新配備。
	4 月	消防職員 2 名採用(うち、1 名は消防本部発足後、初の救急救命士有資格者) 消防団に 9 隊目の吉川機動隊が発足。
	1 0 月	7 名の隊員が指揮支援隊の委嘱を受け、三木市消防署指揮支援隊発隊。 兵庫県広域防災センター、神戸空港島内訓練会場で実施された緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練に救急部隊として参加。 消防救急デジタル無線実施設計業務委託。

平成 24 年	1 1 月	グリーンピア三木グリーンピアホールにおいて、三木防火協会創立 50 周年記念式典を開催。
	1 2 月	一般社団法人日本損害保険協会から高規格救急自動車の寄贈を受け、消防署に更新配備。 三木第 3 分団久留美班、別所第 5 分団和田班、吉川第 5 分団貸潮班に小型動力ポンプ(B-3 級)を更新配備。
	3 月	小和田神社で機動隊合同林野火災防ぎょ訓練を実施。
平成 25 年		日本消防協会より消防団多機能型車両の寄贈を受け、吉川機動隊に配備。
	4 月	第 16 代消防長に森本英樹氏就任。 消防職員 4 名採用(総数 91 名)
	7 月	3 か年計画で消防救急無線デジタル化整備工事に着手。
	10 月	吉川第 7 分団上荒川班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を更新配備。
	11 月	吉川第 8 分団富岡班、志染第 1 分団戸田班、別所第 2 分団東這田班、吉川第 4 分団西奥班に小型動力ポンプ(B-3 級)を更新配備。 東京ドームで開催された消防団 120 年・自治体消防 65 周年記念大会に団長以下 18 名が参加。
平成 26 年	4 月	消防職員 5 名採用(総数 91 名) 兵庫県消防防災航空隊に隊員として職員 1 名を派遣。
	6 月	広野分署耐震診断及び耐震補強計画実施設計業務委託。
	7 月	第 25 回北播消防操法大会が兵庫県消防学校で行われ、別所第 3 分団花尻班が小型ポンプの部で優勝。
	10 月	緊急援助隊近畿ブロック合同訓練が和歌山県で行われ、東播ブロックの消火部隊として参加。 志染第 4 分団東吉田班、別所第 4 分団下石野班、吉川第 1 分団福吉班に小型動力ポンプ(B-3 級)を配備。
	11 月	口吉川第 5 分団西中班、東中班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。
平成 27 年	1 月	吉川分署に消防ポンプ自動車(CD-I 型 C A F S 装置付)を更新配備。
	3 月	東洋物産工業から高規格救急自動車(トヨタ ハイエース ハイメディック)の寄贈を受け、広野分署に配備。
	4 月	消防職員 7 名採用(総数 91 名) 三木市消防本部発足 50 周年を迎える。
	5 月	北播消防協議会総会をメゾン・ド・リヴァージュで開催する。
	6 月	三木市内コンビニ全店舗に A E D 設置事業を開始。 広野分署庁舎耐震補強工事及び庁舎改修工事に着手。
	10 月	緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練が京都府で行われ、東播ブロックの消火部隊として参加。
	11 月	三木市消防本部 50 周年記念誌を発刊。 細川第 5 分団高篠班、吉川第 1 分団稲田班に小型動力ポンプ(B-3 級)を更新配備。 小型動力ポンプ付軽四輪積載車を高木班に更新配備。
	12 月	広野分署に消防ポンプ自動車(CD-I 型 C A F S 装置付)を更新配備。
平成 28 年	2 月	広野分署庁舎耐震補強工事及び庁舎改修工事完了。
	4 月	第 17 代消防長に藤原秀行氏就任。 消防職員 3 名採用(総数 91 名) 熊本地震の被災地に、4 月 16 日から 22 日の 7 日間、兵庫県緊急消防援助隊として後方支援隊 1 隊を派遣し、6 名の隊員が活動にあたる。

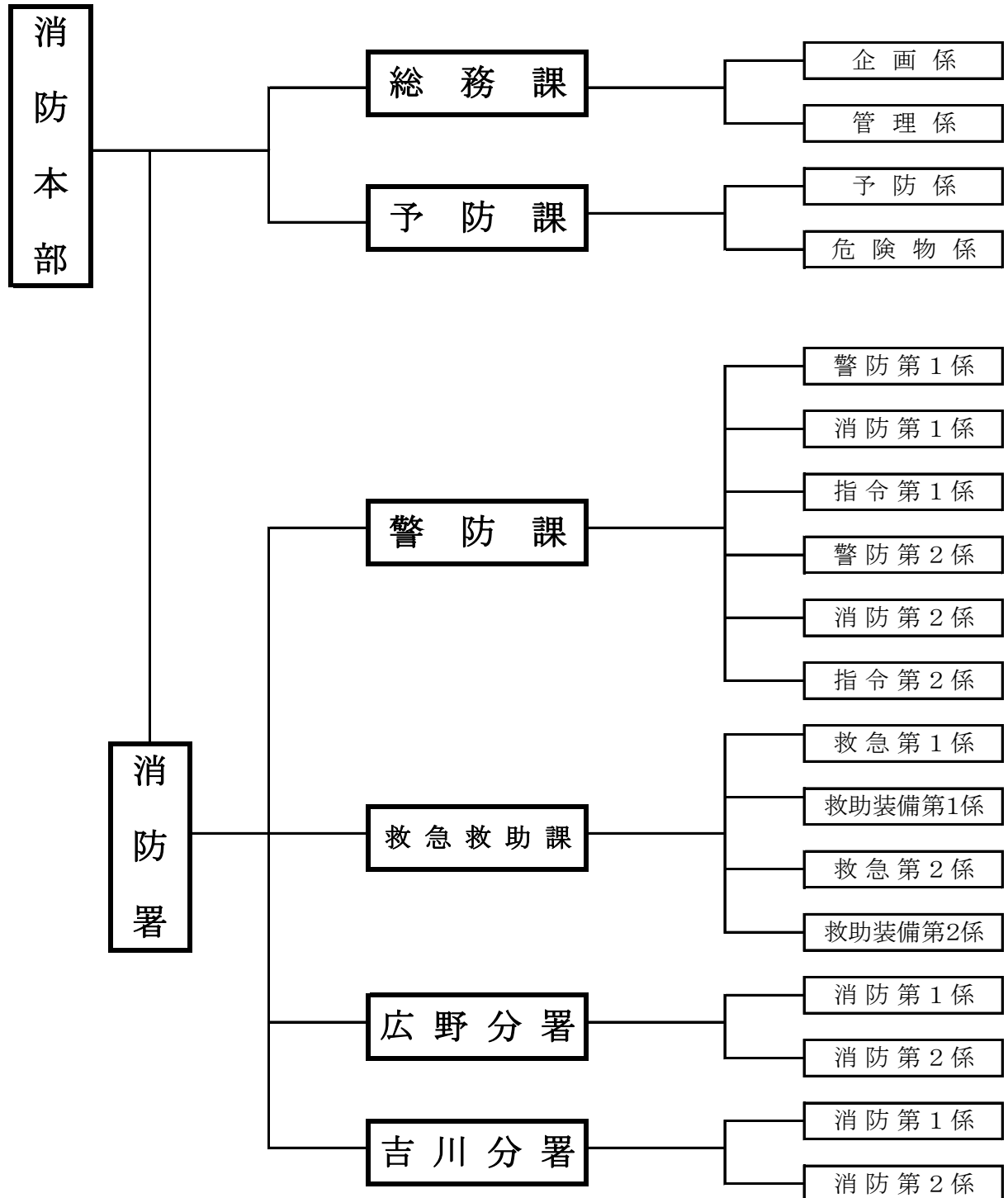
平成 28 年	4 月	平成 25 年から整備を進めてきた消防救急デジタル無線を運用開始。
	10 月	三木第 1 分団与呂木班、細川第 1 分団、口吉川第 2 分団槇班に小型動力ポンプ（B－3 級）を更新配備。 吉川第 6 分団山上班、吉川第 8 分団富岡班に軽四輪積載車を新規及び更新配備。 緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練が奈良県で行われ、東播ブロックの後方支援部隊として参加。 消防署に高規格救急自動車を更新配備。
平成 29 年	11 月	消防署にはしご付消防自動車を更新配備。
	4 月	消防職員 3 名採用（総数 91 名） 兵庫県消防学校に研修教官として職員 1 名を派遣。 組織・機構改革。消防本部「指令係」を消防署「警防課指令係」に組織改正。
平成 30 年	10 月	緊急援助隊近畿ブロック合同訓練が大阪府で行われ、東播ブロックの消火部隊として参加。 志染第 2 分団井上班、吉川第 2 分団奥谷班に小型動力ポンプ（B－3 級）を配備。
	12 月	消防署に消防ポンプ自動車（CD－I 型 C A F S 装置付）を更新配備。
	2 月	三木第 4 分団に CD－I 型消防ポンプ自動車を更新配備。
	3 月	極東開発工業株式会社三木工場に三木市消防団企業連携消防団を発足。
	4 月	消防職員 6 名採用（総数 94 名うち再任用 2 名） 組織・機構改革。消防署「警防第 1 課、警防第 2 課」を「警防課」に組織改正。 警防課長を新設し、「警防 1 部、警防 2 部」に組織改正。
	9 月	三木第 1 分団宿原班、三木第 7 分団鳥町班に小型動力ポンプ（B－3 級）を更新配備。
	11 月	緊急援助隊近畿ブロック合同訓練が福井県で行われ、東播ブロックの後方支援部隊として参加。
	12 月	消防署広野分署に、大規模停電発生時に備えた 72 時間電源確保を目的に非常用発電設備を設置。
平成 31 年	3 月	三木第 8 分団に CD－I 型消防ポンプ自動車を更新配備。 消防署に大型水槽付消防ポンプ自動車を更新配備。
	4 月	消防職員 6 名採用（総数 95 名うち再任用 2 名） 高機能指令システムの更新に伴う実施設計業務を委託。 ゴルフ場におけるドクターヘリ運用の覚書を市内ゴルフ場と締結。
	5 月	消防力の適正配置等に関する調査分析業務を委託。
令和 元年	6 月	第 78 回東播地区警防主幹者会議を三木市消防本部で開催。 消防本部（署）外壁クラック補修工事に着手。
	9 月	三木第 3 分団岩宮班、三木第 5 分団加佐西班、別所第 1 分団小林班、吉川第 2 分団東田班に小型動力ポンプ（B－3 級）を更新配備。 消防本部（署）外壁クラック補修工事完了。
	10 月	小型動力ポンプ付軽四輪積載車を三木第 5 分団加佐西班、吉川第 2 分団東田班に更新配備。
	12 月	消防署に CD－I 型水槽付消防ポンプ自動車を更新配備。 日本消防協会から防災活動車（SUV 型）の寄贈を受け、消防本部に更新配備。
令和 2 年	2 月	消防署に高規格救急自動車を新規配備し、救急予備車（消防 11 号車）運用開始。 消防力の適正配置等に関する調査分析委託完了。
	4 月	消防職員 7 名採用（総数 99 名うち再任用 6 名） 高機能消防指令システムの更新整備を開始。

令和 2年	10月	大栄環境株式会社三木リサイクルセンターに三木市消防団企業連携消防団を発足。 細川第5分団桃津班、吉川第3分団北水上班に小型動力ポンプ（B－3級）を更新 配備。 小型動力ポンプ付軽四輪積載車を三木第5分団加佐東班に更新配備。
	2月	細川機動隊にCD－I型消防ポンプ自動車を更新配備。
令和 3年	3月	三木市消防団に総務大臣から感謝状を授与。
	4月	第18代消防長に林一成氏就任。 消防職員6名採用（総数103名うち再任用7名） 兵庫県消防学校に研修教官として職員1名を派遣。 消防署「吉川分署」の警防人員を14名から18名に増員。 新高機能消防指令システム（NET119・三者間同時通訳・現場映像送信装置 を追加）の運用開始。 消防隊員用個人防火装備を更新。
	9月	消防署に高規格救急自動車を更新配備。 陰圧式搬送装置「アイソレーター」を導入し運用開始。 消防署に資機材搬送車を更新配備。
	10月	吉川第7分団上荒川班に小型動力ポンプ（B－3級）を更新配備。
	12月	緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練が兵庫県で行われ、東播ブロックの消火隊 として参加。
	4月	消防職員3名採用（総数102名うち再任用8名） 市危機管理課に職員1名を派遣。 第5代消防団長に筒井悟氏が就任。
	11月	兵庫県知事表彰により表彰旗を授与。
	12月	細川第5分団金屋班に小型動力ポンプ（B－3級）を更新配備。 消防署広野分署に高規格救急自動車を更新配備。
	4月	消防職員4名採用（総数97名うち再任用5名） 兵庫県消防防災航空隊に職員1名を派遣。 消防署吉川分署庁舎移転工事に着手。（三木市吉川町鍛冶屋143番地） 三木市消防団条例改正。年額及び出動報酬を消防庁が定めた報酬等の基準に基づ いた額とする。
	10月	各種届出における電子申請手続きの運用開始。
令和 5年	12月	三木市第1分団平井班、志染第1分団三津田班、口吉川町第3分団南畑班に小型 動力ポンプ（B－3級）を更新配備。
	1月	能登半島地震の被災地に、1月15日から2月21日の38日間、兵庫県緊急消 防援助隊として、後方支援隊1隊と特殊装備隊1隊を派遣し、22名の隊員が活 動にあたる。
	4月	消防職員4名採用（総数99名うち再任用5名） 市危機管理課に職員1名を派遣。 はしご付消防自動車の点検整備（オーバーホール）を実施。（1月～4月） 三木市消防団員定数を条例改正。消防団員定数の1,360名を1,080名と 定める。
	7月	市制70周年記念式典
	10月	志染第1分団御坂班、志染第4分団安福田班、吉川第3分団南水上班に小型動力 ポンプ（B－3級）を更新配備。
	12月	小型動力ポンプ付軽四輪積載車を吉川第3分団南水上班に更新配備。
	3月	消防署に高規格救急自動車を更新配備。
	4月	第19代消防長に大東成吉氏就任。 消防職員5名採用（総数96名うち再任用3名） 兵庫県消防学校へ職員2名を派遣。

令和 7 年 6月	三木市消防施設整備事業事務処理要綱改正。一部の施設等に対し、補助金の増額を行う。 吉川分署新消防庁舎完成。 新消防庁舎竣工式と市民見学会を実施。（6月5日） 吉川分署新庁舎竣工式（6月5日） 住所：三木市吉川町鍛冶屋 敷地面積：3,972.96㎡ 庁舎（鉄骨造平屋建て延べ面積550.75㎡） 吉川機動隊器具庫兼倉庫（鉄骨造平屋建て延べ面積85.50㎡） 訓練塔（鉄骨造2階建て延べ面積49.60㎡） 新吉川分署供用開始（6月12日）
--------------------------------	---

消防組織

令和7年4月1日現在



事務分掌

総務課	企画係	消防施設整備、補助事務、広報、公聴、県消防協会、団員任免、表彰・災害補償・退職報償事務・教養訓練、北播消防協議会、団事務組織、制度の企画、消防力の整備指針
	管理係	庶務事務連絡調整、渉外事務、文書收受発送配布、予算編成執行調整、決算、収入支出命令、職員給与、物品調達、職員任免・定員・服務・表彰・懲戒事務、人事管理、職員服制・福利厚生・教養訓練計画、消防職員委員会、消防年報編集、職員公務災害、庁舎維持管理
予防課	予防係	設備設置指導、事前協議、消防同意、予防統計、火災予防査察、予防条例、防火管理講習、火災予防運動、消防訓練、住宅用火災警報器設置推進、防火団体の育成指導、防火教室
	危険物係	県移譲事務、立入検査、危険物の許認可及び検査、火災予防条例、危険物統計、防火協会、火災予防思想の普及、消防広報
警防課	警防第1・2係	危機管理情報収集、水防計画、水防資機材整備、火災警報注意報、開発指導、統計、消防水利施設配置計画・管理補修、消防水利の基本計画、災害現場の情報収集及び広報、警防計画、相互応援協定、緊急消防援助隊等広域災害への体制整備
	消防第1・2係	災害防ぎょ活動、水防業務、救急救助活動、地水利調査保全、通信・気象情報、機械器具整備保全、火災原因調査、消防訓練、り災証明、火災統計、震災対策並びに警防業務の推進、防火教室、自主防災組織の訓練等指導、自主防火防災対策の推進
	指令第1・2係	通信施設の設置運用、災害受報及び出動指令、非常招集計画、通信統制・災害情報、気象情報、通信機械器具整備保全、有無線電話の維持管理、災害対応総合ネットワークシステム管理、NET119利用者情報管理登録
救急救助課	救急第1・2係	救急業務計画・運用、救急関係機関との協議調整、救急教育訓練、救急資器材配置保管、救急法指導、救急統計、高度救急業務推進、応急手当普及、救急資器材整備
	救助装備第1・2係	救助業務計画・運用、救助教育訓練、救助統計、消防機械器具の運用及び整備保安、消防自動車の登録検査、機関員及び整備員の養成、機械器具改善、燃料、安全運転、事故防止対策、消防車両の更新及び維持管理
広野分署	消防第1・2係	災害防ぎょ及び救急救助活動、水防業務、通信及び気象情報、機械器具の運用及び整備保全、火災原因及び損害、消防訓練、調査、地水利調査、救急救助訓練、救急救助業務、自主防災組織の訓練等指導
	吉川分署	
吉川分署	消防第1・2係	災害防ぎょ及び救急救助活動、水防業務、通信及び気象情報、機械器具の運用及び整備保全、火災原因及び損害、消防訓練、調査、地水利調査、救急救助訓練、救急救助業務、自主防災組織の訓練等指導

管内図



消防庁舎の概要

庁 舎 名	所 在 地	建 築 年 月 日 構 造	面 積 (㎡)		
			敷 地	建 築	延
三木市消防本部 三木市消防署	三木市福井 1933番15	平成20年 3月31日 鉄筋コンクリート造 地上2階	10,390.000	1,553.357	2,786.852
三木市消防署 広野分署	三木市志染町 広野5丁目1	昭和52年 3月 7日 鉄筋コンクリート造 地上2階	1,828.145	402.705	559.140
三木市消防署 吉川分署(旧)	三木市吉川町 大畑480番地	昭和58年 3月30日 鉄筋コンクリート造 平屋建	1,446.230	419.340	419.340
三木市消防署 吉川分署(新) (令和7年6月12日～)	三木市吉川町 鍛冶屋143	令和 7年 5月28日 鉄骨造 平屋建	3,972.960	550.750	550.750

消防相互応援協定

(令和7年3月31日現在)

市 町 村 等	締 結 年 月 日	改 正 年 月 日
加 古 川 市	昭和42年 7月 1日	平成20年 3月 1日
小 野 市	昭和42年 7月 1日	平成23年 3月14日
神 戸 市	昭和43年10月 1日	平成31年 1月 7日
三 田 市	昭和60年11月 1日	平成22年12月 6日
北はりま消防組合(西脇市・加西市 加東市・多可町)消防相互応援協定	平成23年 6月 6日	
中国道のうち兵庫県のある区域	昭和58年 4月 1日	平成29年 2月 6日
舞鶴若狭自動車道における 消防相互応援協定	昭和63年 3月 24日	平成30年 4月 5日
兵庫県広域消防相互応援協定	昭和63年 8月 1日	令和 5年 3月 7日
山陽自動車道消防相互応援協定	平成 9年 3月 26日	平成30年 4月 1日

令和6年度主要行事

月 日	行 事	内 容
4月7日	三木市消防大会	三木市文化会館駐車場及び三木市文化会館小ホールにて、消防関係者956名が参加し開催した。部隊出動では消防車両の行進、操法の披露、一斉放水を実施、式典では消防功労者及び退職消防団員に表彰及び感謝状を代表授与した。子どもを含め見学者も多く、消防ふれあいコーナーも盛況であった。
4月21日	消防団教養訓練実施	三木市消防本部において、消防団員の教養訓練を実施。訓練礼式、消防ポンプの操作等を行い、団員の技術向上と士気の高揚を図った。
5月26日	令和6年度北播磨消防操法大会三木市代表選考会	三木市消防本部において、各地区からの代表チームが出場した。小型動力ポンプの部に5チーム、消防自動車の部に3チーム出場し、日ごろの練習成果を十分に発揮し、競い合った。
5月29日 ～30日	水防訓練	消防緊急指令システムと三木市水防計画に基づく初動体制の確立、各担当部署の連絡体制の確認訓練、水防工法を実施した。
6月2日 ～8日	危険物安全週間	危険物災害の未然防止を図るため、「次世代へつなごう無事と青い地球」を危険物安全週間推進標語に、ナリス化粧品兵庫工場会社三木工場において消防総合訓練を実施するとともに、ポスター・懸垂幕等による広報活動、危険物施設への立入検査を行い、危険物の取り扱い等に伴う基準適合について指導を実施し危険物の安全管理の徹底に努めた。
7月7日	第31回北播磨地区消防操法大会	兵庫県広域防災センターにおいて開催され、三木市からは小型動力ポンプの部に別所第4分団石野班、消防自動車の部に三木第4分団が出場した。
7月30日	第52回消防救助技術近畿地区指導会	大阪府堺市消防局堺市総合防災センター救助訓練施設の訓練施設で開催された近畿地区指導会にロープブリッジ渡過3名、ロープブリッジ救出1チームが出場した。
8月8日 ～9日	甲種防火管理新規講習	三木市消防本部で2日間にわたり講習会を開催。事業所等から52名が受講し、講習修了証を交付した。
9月8日 ～14日	「救急医療週間」 「救急の日」及び「一日救急隊長救急車同乗実習」	救急医療及び救急業務に対する市民の正しい理解と認識を深めるために、啓発ポスターを市内事業所に配布したり、懸垂幕やのぼり旗による広報を実施した。9月9日の「救急の日」には北播磨総合医療センターから看護師を招き一日救急隊長として救急車同乗実習を行い、FMみつきい出演を通じて救急医療の現状や救急車の適正利用の普及啓発を行った。
9月10日	集団災害救急訓練	多数傷病者発生時に、指揮命令系統の確立、迅速なトリアージ、他隊、他機関との円滑な連携等活動強化を図ることを目的とし、救急現場を想定した実戦的なシミュレーション訓練を実施した。
9月29日	第42回防災フェスティバル 三木市総合防災訓練	第42回防災フェスティバルでは、市民約2,200人が参加し、「火災のない明るいまちづくり運動」の一環として開催し、企業及び市民一人ひとりの防火防災に対する正しい知識の習得と、防災技術の向上を図ることにより自主防災体制を確立し、三木市から災害の絶滅を期することを目的として実施した。三木市総合防災訓練では風水害災害を想定し兵庫県消防防災航空隊との連携訓練も行った。

令和6年度主要行事

月 日	行 事	内 容
11月9日 ～15日 3月1日 ～7日	秋の火災予防運動 春の火災予防運動	『守りたい 未来があるから 火の用心』を統一標語に、三木市総合保健福祉センターにおいて消防総合訓練を実施するとともに、火災予防啓発ポスター入賞作品展示を実施し、火災の未然防止と啓発を行った。
11月11日 ～15日	トライやるウィーク	学校、家庭、地域社会連携のもと、心の教育の充実を図ることを目的として実施されたトライやるウィークで、市内4中学校から6名の中学生を受け入れ、防火・防災に関する知識と防災技術の習得及び各種訓練体験を行った。
12月11日 ～12日	警防錬成会	耐火造5階建て共同住宅4階からの出火という想定で一般公開を行い、市民3名と神戸学院大学社会防災学部の学生13名が見学した。
12月27日 ～1月5日	年末年始火災特別警戒	看板設置・広報パトロール及び消防団夜間特別警戒を実施した。
1月26日	第71回文化財防火デーに伴う消防訓練	市民への火災予防の周知徹底及び防災意識の高揚並びに消防職員の初動体制の確立、消防団との連携を確認するため、別所町東這田「法界寺」で訓練を実施した。
1月23日	東播地区消防本部（局）NBC対応訓練	兵庫県広域消防相互応援協定に基づく、東播地区消防本部（局）の災害対応能力の向上及び連携強化を図るため、三木市立中央図書館及び駐車場で訓練を実施した。
年 間	住宅用火災警報器推進	住宅用火災警報器の設置推進と維持管理の啓発を図るため、職員により主要行事を実施した際に、広報活動を実施した。

総務編



事務事業の現況

市民の安全で安心な暮らしを守るため、「災害に強いまちづくり」を重点施策とし、住民の期待に応えるべく、時代に即した消防体制の充実を始め、救急業務の高度化、高齢化を迎えての防災対策、消防施設整備に取り組んでいます。

令和6年度実施事業は、高規格救急自動車、小型動力ポンプの更新等、消防力の強化を図ると共に、消火栓ボックス、ホース干しの整備など地域防災体制の充実、また、消防職、団員の資質向上のため、兵庫県消防学校等への派遣教育、救急救命士の養成、各種資格の取得及び研修訓練を実施し、防災体制の確立に努めました。

また、吉川分署の移転、建て替えに伴う建設工事を進め、災害に強い消防庁舎の完成まで間近となりました。(令和7年6月12日供用開始)

消防施設整備事業

(令和6年度)

事業名	数量	設置場所
消火栓ボックスセット新設	4	大塚(1)、緑が丘町西(1)、加佐西(1) 荻谷(1)
消火栓ボックス新設	5	長谷(1)、東條町(1)、御坂(2) 新田(1)
ホース干し新設	1	前田(1)
ホース干し修繕	1	楠原(1)
吉川分署新庁舎建設工事	1	吉川町鍛冶屋143
消防器具庫修繕	1	東這田(1)
警鐘台修繕	2	稲田(1)、保木(1)
防火水槽撤去工事	1	平田
小型動力ポンプ(B-3級)	1	御坂・安福田・南水上
軽四輪積載車	1	南水上
高規格救急自動車	1	本署
サイレン新設	1	高篠

消防予算

消防予算年度別比較

(単位：千円)

年度	市一般会計予算	消防予算	比率	常備消防費	非常備消防費	消防施設費	水防費	災害対策費
27	30,470,000	1,005,552	3.3	813,965	95,965	69,976	125	25,521
28	31,020,000	1,093,345	3.5	755,788	99,839	212,558	152	25,008
29	30,880,000	956,757	3.1	755,903	102,881	77,367	136	20,470
30	31,610,000	1,035,888	3.3	807,104	102,424	103,936	136	22,288
R元	32,770,000	1,059,498	3.2	805,440	102,879	129,912	136	21,131
2	33,230,000	1,432,494	4.3	812,380	117,783	401,397	136	100,798
3	33,430,000	950,544	2.9	794,497	109,567	10,564	125	35,791
4	34,380,000	995,392	2.9	814,647	102,856	43,890	88	33,911
5	35,520,000	1,143,976	3.2	817,480	187,858	105,784	130	32,724
6	39,050,000	1,591,129	4.1	873,559	195,269	489,244	174	32,883

消防予算に対する市民負担

区分 年度	消防予算 (千円)	人 口	世帯数	負 担	
				市民一人当たり(円)	一世帯当たり(円)
27	1,005,552	79,014	32,939	12,726	30,528
28	1,093,345	78,516	33,159	13,925	32,973
29	956,757	78,100	33,435	12,250	28,615
30	1,035,888	77,552	33,729	13,357	30,712
R元	1,059,498	76,929	34,033	13,772	31,131
2	1,432,494	76,121	34,242	18,819	41,834
3	950,544	75,571	34,207	12,578	27,788
4	995,392	74,411	34,459	13,377	28,886
5	1,143,976	73,656	34,700	15,531	32,968
6	1,591,129	72,738	34,983	21,875	45,483

消防予算節別比較

目	節 / 年度	令和 6 年度	令和 5 年度	前年度に対する増減
常 備 消 防 費	給 料	356,557	354,105	2,452
	職 員 手 当 等	251,134	245,685	5,449
	共 済 費	117,717	115,655	2,062
	報 償 費	170	183	△13
	旅 費	1,110	1,935	△825
	交 際 費	10	10	0
	需 用 費	35,993	33,576	2,417
	役 務 費	12,417	12,179	238
	委 託 料	78,055	31,884	46,171
	使用料及び賃借料	7,437	6,677	760
	工 事 請 負 費	0	2,900	△2,900
	原 材 料 費	5	5	0
	備 品 購 入 費	3,120	2,700	420
	負担金補助及び交付金	9,130	9,191	△61
	公 課 費	704	795	△91
	小 計	873,559	817,480	56,079
非 常 備 消 防 費	報 酬	47,471	57,147	△9,676
	報 償 費	106,684	85,329	21,355
	旅 費	89	46	43
	需 用 費	2,743	2,450	293
	役 務 費	1,301	1,430	△129
	委 託 料	0	0	0
	使用料及び賃借料	74	70	4
	備 品 購 入 費	363	330	33
	負担金補助及び交付金	36,103	40,502	△4,399
	公 課 費	441	554	△113
	小 計	195,269	187,858	7,411
消 防 施 設 費	需 用 費	1,482	1,681	△199
	役 務 費	356	26	330
	委 託 料	14,300	20,000	△5,700
	使用料及び賃貸料	0	0	0
	工 事 請 負 費	452,200	73,000	379,200
	原 材 料 費	0	15	△15
	公有財産購入費	0	0	0
	備 品 購 入 費	16,209	7,524	8,685
	負担金補助及び交付金	4,690	3,538	1,152
	公 課 費	7	0	7
	小 計	489,244	105,784	383,460
水 防 費	需 用 費	35	130	△95
	原 材 料 費	0	0	0
	備 品 購 入 費	139	0	139
	小 計	35	130	△95
災 害 対 策 費	報 酬	96	96	0
	報 償 費	60	60	0
	旅 費	65	46	19
	需 用 費	12,474	12,890	△416
	役 務 費	1,698	1,298	400
	委 託 料	8,866	3,860	5,006
	使用料及び賃借料	2,875	2,997	△122
	工 事 請 負 費	0	0	0
	備 品 購 入 費	259	4,300	△4,041
	負担金補助及び交付金	6,490	7,177	△687
	公 課 費	0	0	0
	小 計	32,883	32,724	159
合 計		1,590,990	1,143,976	447,014

△印は減少

消防職員

職員の配置状況

(令和7年4月1日現在)

階級 所属			消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	合 計
			1	12	23	24(3)	10	26	96(3)
消 防 本 部	消 防 長		1						1
	次 長			1					1
	総務課	企 画 係		1	1	1	2		18
		管 理 係			1	1	1	1	
		派 遣			2	2		5	
	予防課	予 防 係		1	2	1	1	1	11
		危険物係			2	2	1		
小 計			1	3	8	7	5	7	31

消防署	署 長		1					1
	警防課	警防係	5	1	1			20(2)
		消防係		2	2	1	2	
		指令係		2	2(2)		2	
	救急救助課	救急係	1	2	2	1	1	12(1)
		救助装備係		2	1(1)		2	
	広野分署		1	3	5	1	4	14
	吉川分署		1	3	4	2	8	18
	小 計		9	15	17(3)	5	19	65(3)

※()は再任用

職員年齢構成及び階級別消防吏員数

(令和7年4月1日現在)

階級 年齢	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	小 計
18歳						2	2
19歳						2	2
20歳							0
21歳						2	2
22歳						4	4
23歳						5	5
24歳						4	4
25歳						4	4
26歳					4	3	7
27歳					5		5
28歳				2			2
29歳				2	1		3
30歳				6			6
31歳				2			2
32歳				3			3
33歳				3			3
34歳			1	3			4
35歳			1				1
36歳							0
37歳			1				1
38歳			1				1
39歳			3				3
40歳			3				3
41歳			3				3
42歳			3				3
43歳							0
44歳			2				2
45歳			1				1
46歳			1				1
47歳		1					1
48歳							0
49歳		2					2
50歳		2					2
51歳		3	1				4
52歳			1				1
53歳							0
54歳							0
55歳		1					1
56歳							0
57歳	1						1
58歳		2					2
59歳		1					1
60歳以上			1	3(3)			4(3)
総 数	1	12	23	24(3)	10	26	96(3)
平均年齢	57	52	42	35	27	23	34(63)

※()は再任用

職員資格取得状況

(令和7年4月1日現在)

種別 \ 階級			合計	消 防 司令長	消 防 司令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士
職 員 数			96	1	12	23	24	10	26
予 防	消 防 設 備 士		3	1	0	1	1	0	0
	危険物取扱者	乙 種	56	1	9	20	10	7	9
		丙 種	10	0	7	2	1	0	0
	予防技術資格者 ※()は 認定者	防火査察	44(10)	0	7(3)	17(4)	14(3)	3	3
		消防用設備等	14(10)	0	4(3)	5(2)	3(2)	1	1
		危険物	26(10)	0	8(4)	11(4)	5(2)	1	1
通 信	2 級陸上特殊無線技士		87	1	12	23	24	10	21
技 術	自動車運転免許	大 型	64	1	11	22	21	5	4
		中 型	2	0	1	0	1	0	0
		中型8 t 限定	1	0	0	1	0	0	0
		準中型	0	0	0	0	0	0	0
		準中型5 t 限定	4	0	0	0	2	3	0
		普 通	25	0	0	0	0	3	22
救 急	救 急 隊 員		49	0	3	7	16	9	14
	救 急 救 命 士		41	1	9	16	8	2	5
	指 導 救 命 士		5	0	3	2	0	0	0
	認定救急救命士	気管挿管	36	1	9	16	8	1	1
		薬剤投与	38	1	9	16	8	1	3
		ビデオ喉頭鏡	35	1	9	15	8	0	2
		拡大二行為	35	1	7	15	8	1	3
	応 急 手 当 指 導 員		80	1	9	20	21	10	19
救 助	小型移動式クレーン修了者		34	1	8	14	11	0	0
	玉掛け技能講習修了者		29	1	8	11	9	0	0
	2 級小型船舶操縦士		7	0	2	3	2	0	0
	2 級湖川小出力限定免許		4	0	0	2	2	0	0
	潜 水 士		13	0	3	5	5	0	0
総 務	衛生管理者		3	0	2	1	0	0	0
	衛生推進者		6	1	4	0	1	0	0

※再任用含む

職員研修

消防業務の多様化に伴い、高度な専門的知識及び幅広い見識を持った職員を育成するため、消防学校教育及び各種の研修会等に職員を派遣しています。

(令和6年度)

研 修 名		期 間	人 数
兵庫県消防学校	初任教育	6 ヶ月	4
	専科教育	特殊災害科	10 日
		危険物科	5 日
		火災調査科	10 日
		救急科	38 日
		救助科	22 日
		警防科	10 日
	特別教育	通信指令科	5 日
		中級幹部科	7 日
	実火災体験型訓練		1 日
	救急救命士養成課程		7 ヶ月
	指導救命士養成研修		10 日
	兵庫県災害医療センター救急救命士研修		6 日
兵庫県立加古川医療センター救急救命士研修		6 日	6
医療従事者蘇生トレーニングコース (ICLS)		1 日	2
多数傷病者への対応標準化トレーニングコース (MCLS)		2 日	1
MCLS マネージメントコース		1 日	2
兵庫 JPTEC プロバイダーコース (JPTEC)		2 日	1
大阪市消防局火災調査委託研修		8 日	1
惨事ストレス研修		2 日	1
消防職員安全管理者研修会		2 日	1
安全運転管理者講習		1 日	2
管理職研修		2 日	2
監督職研修 (兵庫県自治研修所)		3 日	1
監督職研修 (播磨内陸広域行政協議会)		2 日	1
衛生推進者養成講習会		1 日	2
若手職員研修 (兵庫県自治研修所)		2 日	2
政策法務研修		1 日	1
人事・労務担当職員研修		1 日	1
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育		1 日	1
小型移動式クレーン運転技能講習会		3 日	4
玉掛け技能講習		3 日	3
パソコン研修		2 日	5

消防表彰等状況

(令和6年度)

種 別 \ 階 級		合 計	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士
消防庁長官表彰	永年勤続功労章	1		1				
全国消防協会会長表彰	全国優良消防職員	0						
兵庫県知事表彰	功労章	2		2				
	永年勤続功労章	1			1			
全国消防長会会長表彰	消防特別功労者	1	1					
	30年永年勤続功労章	0						
三木市長表彰	40年永年勤続職員	0						
	30年永年勤続職員	2		2				
	20年永年勤続職員	0						
三木市消防長表彰	優 良 職 員	6				6		
三木市消防署長表彰	優 良 職 員	5				2	3	

予 防 編



予防行政の現況

全国的に気候変動に伴う少雨の影響や生活様式の変化による電気火災が増加しており、令和2年までは減少傾向であった住宅火災の死者数も増加し、今後も高齢化の進展によって更に増加していく恐れがあるといわれています。

三木市ではこのような状況を踏まえ、住宅防火を推進するため、各地区の防災訓練、文化祭や防災フェスティバル、また広報誌を通じ防火の啓発に努めています。また、事業所の予防査察を推進し、防火管理業務、危険物施設の安全管理の適正化、法令改正の周知等を図り、火災等の災害の未然防止、拡大の抑制に努めています。

防火団体等の現況

(令和6年度)

団 体 名		会員数 隊員数	結 成 年 月 日	活 動 状 況
三 木 防 火 協 会		221	S37. 7. 16	防災フェスティバル 一日消防士研修会
幼 年 消 防 ク ラ ブ	別所幼年消防クラブ	83	S58. 11. 17	避難訓練・地震教室・救急教室
	志染幼年消防クラブ	62	S58. 11. 17	避難訓練・地震教室・救急教室
	エンゼル幼年消防クラブ	159	S58. 11. 17	避難訓練・地震教室・救急教室
	ひろの幼年消防クラブ	163	S58. 11. 17	避難訓練・地震教室・救急教室
	あけぼの幼年消防クラブ	96	S58. 11. 17	避難訓練・地震教室・救急教室
	えびす幼年消防クラブ	170	S59. 6. 5	避難訓練・地震教室・救急教室

予防広報

市民に広く防火を呼びかける広報媒体として活用しています。

(令和6年度)

種 別	回数(回)	種 別	枚数(枚)
広報「みき」掲載	12	防火ポスターの配布	2,000
「防火の日」新聞広告	15	救急の日ポスター配布	180
防火広報パトロール	108		

火災予防講習会等

事業所や自治会等の団体を中心に、防火知識の高揚に努めています。

(令和6年度)

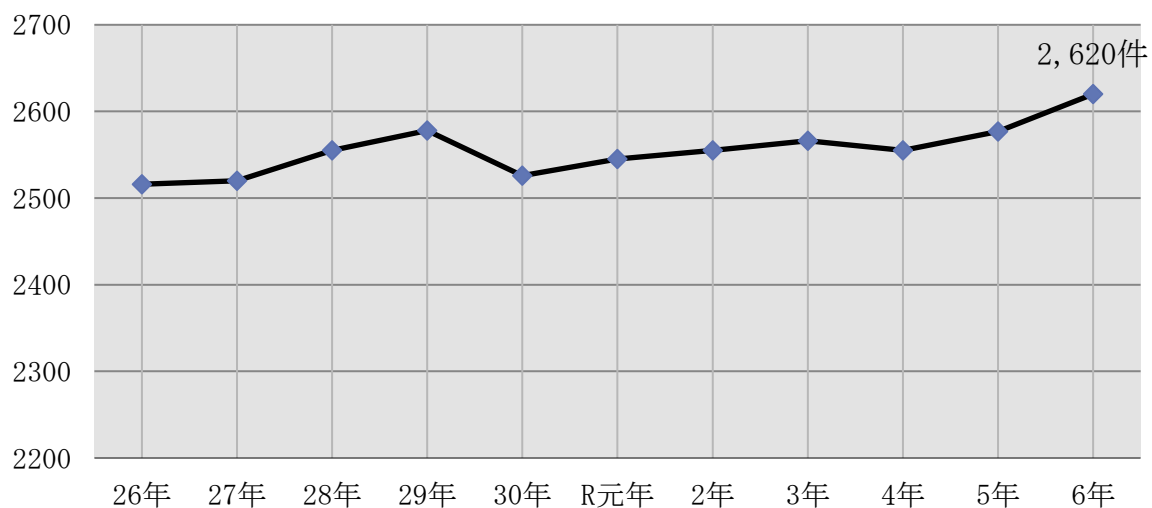
種 別	回数(回)	参加者(人)	備 考
消防訓練等指導	84	5,934	学校・病院・事業所等
防火団体指導	17	2,095	防火クラブ
自治会等指導	30	1,354	自治会・自主防災組織
甲種防火管理新規講習	1	52	R6.8.8～R6.8.8
甲種防火管理再講習	1	15	R6.8.26

防火対象物の状況

(令和6年度)

区 分 用 途			防火対象物数	査察実施件数
合 計			2,620	807
1項	イ	劇場・映画館等	9	11
	ロ	公会堂又は集会場	125	11
2項	イ	キャバレー・カフェー等		
	ロ	遊技場又はダンスホール	4	
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等		
	ニ	カラオケボックス等	2	
3項	イ	待合・料理店等	2	
	ロ	飲食店	54	19
4項		百貨店・マーケット・店舗	110	65
5項	イ	旅館・ホテル又は宿泊所	17	19
	ロ	寄宿舍・下宿又は共同住宅	415	13
6項	イ	病院・診療所又は助産所	51	14
	ロ	養老・救護・更生施設等	37	25
	ハ	老人デイサービスセンター等	65	61
	ニ	幼稚園・特別支援学校	8	16
7項		小・中・高校・大学等	96	77
8項		図書館・博物館・美術館	6	5
9項	イ	蒸気浴場 ・ 熱気浴場		
	ロ	上記以外の公衆浴場	4	2
10項		車両停車場・船舶発着場	2	
11項		神社・寺院・教会等	61	6
12項	イ	工場又は作業場	566	148
	ロ	映画・テレビスタジオ		
13項	イ	自動車車庫又は駐車場	37	17
	ロ	飛行機・ヘリコプター格納庫	1	
14項		倉庫	325	78
15項		前各号に該当しない事業所	389	171
16項	イ	特定防火対象物複合用途	146	37
	ロ	上記以外の複合用途	72	7
16の2		地下街		
16の3		準地下街		
17項		重要文化財等	16	5
18項		延長50m以上のアーケード		
19項		市町村長の指定する山林		
20項		総務省令で定める舟車		

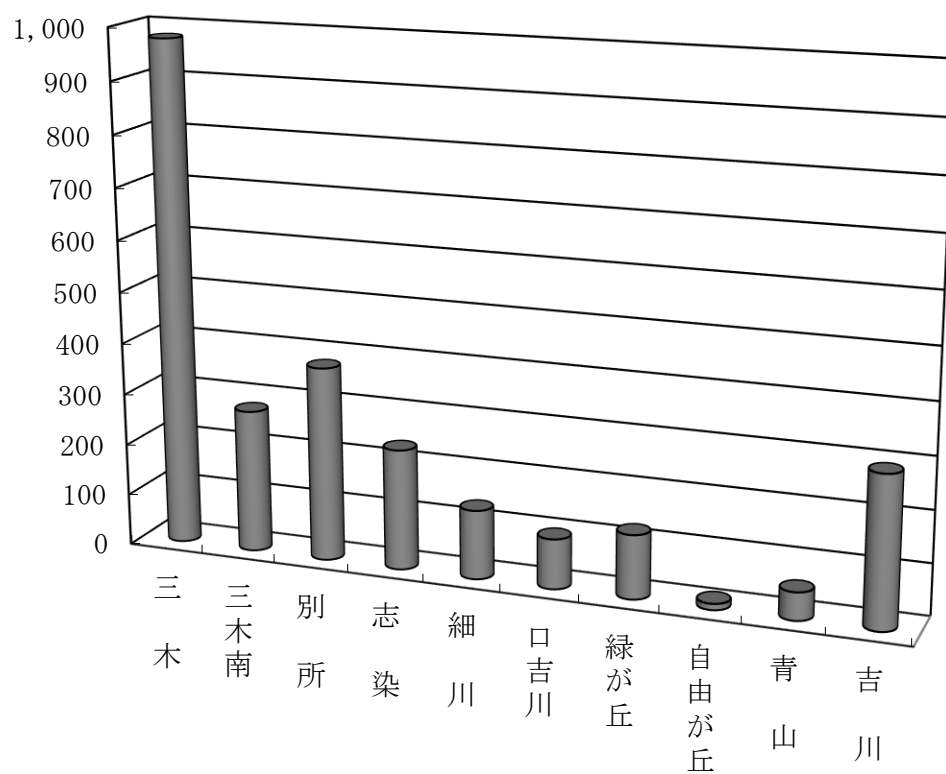
防火対象物の推移



年度	26年	27年	28年	29年	30年	R元年	2年	3年	4年	5年	6年
棟数	2, 516	2, 520	2, 555	2, 578	2, 526	2, 545	2, 555	2, 566	2, 555	2, 577	2, 620

地区別防火対象物の現況

(令和6年度)



地区	三木	三木南	別所	志染	細川	口吉川	緑が丘	自由が丘	青山	吉川
棟数	957	275	395	242	141	103	127	13	61	306

消防用設備等の設置状況

(令和6年度)

用 途		防火対象物の 消防用設備等	防 火 対 象 物 数	自 動 火災報知 設 備	屋内消火 栓 設 備	スプリン ク ラ ー 設 備	屋外消火 栓 設 備
合 計			2,620	1,190	302	69	39
1 項	イ	劇場・映画館等	9	8	7	3	1
	ロ	公会堂又は集会場	125	46	8		
2 項	イ	キャバレー・カフェー等					
	ロ	遊技場又はダンスホール	4	4	3		
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等					
	ニ	カラオケボックス等	2	2			
3 項	イ	待合・料理店等	2	2			
	ロ	飲食店	54	21	3		
4 項		百貨店・マーケット・店舗	110	71	9	12	
5 項	イ	旅館・ホテル又は宿泊所	17	52	4	1	1
	ロ	寄宿舎・下宿又は共同住宅	415	64	2		
6 項	イ	病院・診療所又は助産所	51	27	5	11	
	ロ	養老・救護・更生施設等	37	50	1	35	
	ハ	老人デイサービスセンター等	65	49	1	1	
	ニ	幼稚園・特別支援学校	8	8	4		
7 項		小・中・高校・大学等	96	72	39		
8 項		図書館・博物館・美術館	6	4	2		
9 項	イ	蒸気浴場・熱気浴場					
	ロ	上記以外の公衆浴場	4	4	2		
10 項		車両停車場・船舶発着場	2				
11 項		神社・寺院・教会等	61	1			
12 項	イ	工場又は作業場	566	317	117		32
	ロ	映画・テレビスタジオ					
13 項	イ	自動車車庫又は駐車場	37	14			
	ロ	飛行機・ヘリコプター格納庫	1	1			
14 項		倉庫	325	152	30	1	4
15 項		前各号に該当しない事業所	389	100	52		
16 項	イ	特定防火対象物複合用途	146	82	7	5	1
	ロ	上記以外の複合用途	72	26	5		
16の2		地下街					
16の3		準地下街					
17 項		重要文化財等	16	13	1		
18 項		延長50m以上のアーケード					
19 項		市町村長の指定する山林					
20 項		総務省令で定める舟車					

中高層建築物の現況

建築物の大規模化と用途の多様化が進んでいる状況を表しています。

(令和7年3月31日現在)

区 分 用 途			防 火 対 象 物 数								
			総数	地 上					小計	うち 地下 1階	うち 地下 2階
				3階 未満	3階	4階	5階	6階 以上			
合 計			2,620	2,158	312	72	63	15	60	58	2
1項	イ	劇場・映画館等	9	7	2				5	5	
	ロ	公会堂又は集会場	125	123		2			1	1	
2項	イ	キャバレー・カフェー等									
	ロ	遊技場又はダンスホール	4	4							
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等									
	ニ	カラオケボックス等	2	2							
3項	イ	待合・料理店等	2	2							
	ロ	飲食店	54	53	1				1	1	
4項		百貨店・マーケット・店舗	110	105	4	1			5	5	
5項	イ	旅館・ホテル又は宿泊所	17	9	5	1		2	1	1	
	ロ	寄宿舎・下宿又は共同住宅	415	256	89	19	47	4			
6項	イ	病院・診療所又は助産所	51	38	7	2	3	1	1	1	
	ロ	養老・救護・更生施設等	37	26	7	2		2	4	4	
	ハ	老人デイサービスセンター等	65	60	4	1			1	1	
	ニ	幼稚園・特別支援学校	8	6	2						
7項		小・中・高校・大学等	96	61	15	16	2	2	1	1	
8項		図書館・博物館・美術館	6	5	1						
9項	イ	蒸気浴場・熱気浴場									
	ロ	上記以外の公衆浴場	4	4					1	1	
10項		車両停車場・船舶発着場	2	2							
11項		神社・寺院・教会等	61	59	2				1	1	
12項	イ	工場又は作業場	566	526	32	4	1	3	5	5	
	ロ	映画・テレビスタジオ									
13項	イ	自動車車庫又は駐車場	37	34		2	1				
	ロ	飛行機・ヘリコプター格納庫	1	1							
14項		倉庫	325	297	25	2	1		1	1	
15項		前各号に該当しない事業所	389	322	55	8	3	1	27	25	2
16項	イ	特定防火対象物複合用途	146	95	42	7	2		3	3	
	ロ	上記以外の複合用途	72	45	19	5	3		2	2	
16の2		地下街									
16の3		準地下街									
17項		重要文化財等	16	16							
18項		延長50m以上のアーケード									
19項		市町村長の指定する山林									
20項		総務省令で定める舟車									

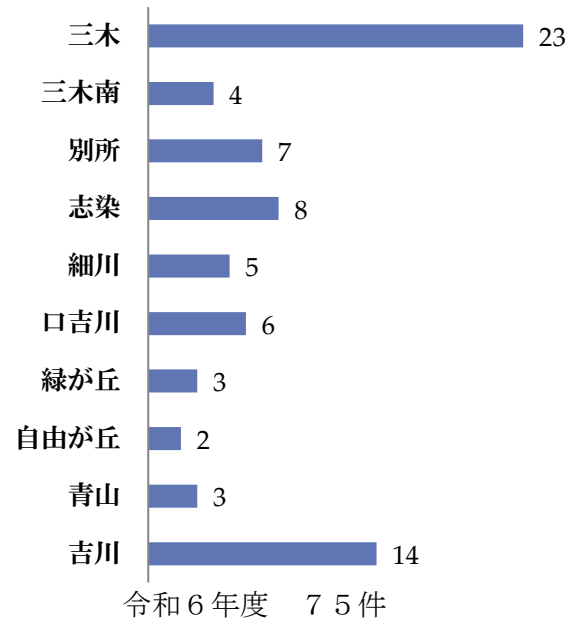
用途別同意件数と工事別処理状況

(令和6年度)

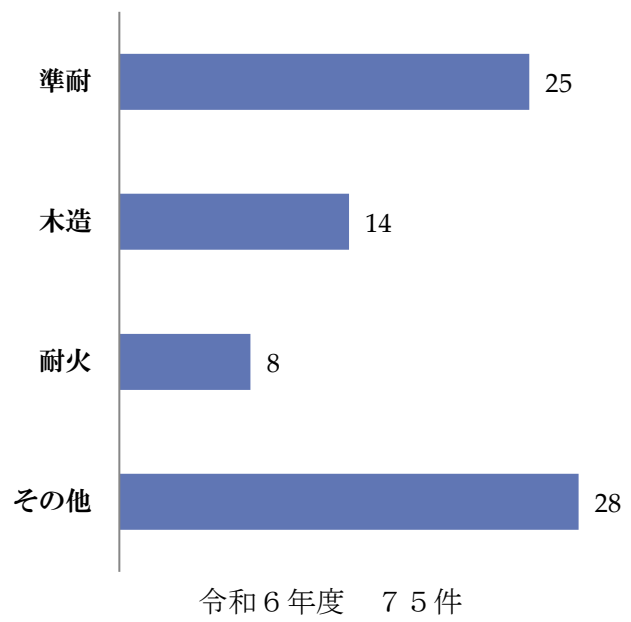
用途			区分	合計	新築	増築	改築	用変	その他
合計				75	51	19	2	3	
1項	イ	劇場・映画館等							
	ロ	公会堂又は集会場		3	2	1			
2項	イ	キャバレー・カフェー等							
	ロ	遊技場又はダンスホール							
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等							
	ニ	カラオケボックス等							
3項	イ	待合・料理店等							
	ロ	飲食店		2	2				
4項		百貨店・マーケット・店舗		7	4	1	1	1	
5項	イ	旅館・ホテル又は宿泊所							
	ロ	寄宿舍・下宿又は共同住宅		8	8				
6項	イ	病院・診療所又は助産所							
	ロ	養老・救護・更生施設等		1	1				
	ハ	老人デイサービスセンター等		2		2			
	ニ	幼稚園・特別支援学校							
7項		小・中・高校・大学等							
8項		図書館・博物館・美術館							
9項	イ	蒸気浴場・熱気浴場							
	ロ	上記以外の公衆浴場							
10項		車両停車場・船舶発着場							
11項		神社・寺院・教会等							
12項	イ	工場又は作業場		9	2	7			
	ロ	映画・テレビスタジオ							
13項	イ	自動車車庫又は駐車場		2	2				
	ロ	飛行機・ヘリコプター格納庫							
14項		倉庫		12	7	4	1		
15項		前各号に該当しない事業所		12	9	2		1	
16項	イ	特定防火対象物複合用途		3	2			1	
	ロ	上記以外の複合用途							
16の2		地下街							
16の3		準地下街							
17項		重要文化財等							
18項		延長50m以上のアーケード							
		住	宅	3	3				
		長	屋	5	4	1			
		納	屋	6	5	1			
		危	険						
		工	作						
		そ	の						

建築同意処理状況

地区別建築同意状況



構造別建築同意状況



予防関係届出状況

(令和6年度)

届出の種類	受付件数	届出の種類	受付件数
防火対象物使用開始届	88	少量危険物貯蔵廃止届	7
消防用設備等着工届	81	圧縮アセチレンガス等の貯蔵・廃止	7
消防用設備等工事計画書	54	発電設備	8
防火対象物変更届	49	変電設備	17
防火管理者選解任届	142	蓄電池設備	2
消防計画作成変更届	185	給湯設備・ボイラー	7
改修計画	147	炉・かまど	1
消防用設備等点検結果報告	713	火花を生じる設備	0
防火対象物点検結果報告	71	自衛消防組織設置変更届	1
自衛消防訓練通知	418	防災管理者選解任届	1
自衛消防訓練実施結果報告	168	気球・水素ガス	0
消防用設備等特例適用願	1	煙火打ち上げ	11
危険物品持込・喫煙承認	24	催し物開催	39
少量危険物貯蔵取扱	7	露店等の開設届	91

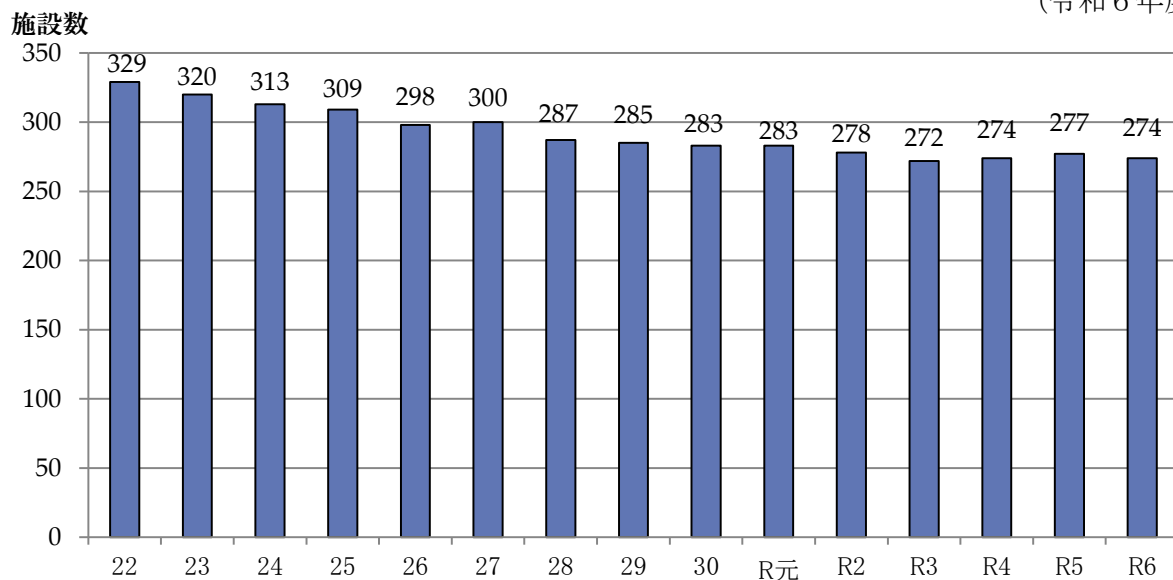
製造所等の状況

(令和6年度)

製造所等の区分 区 分			計	製 造 所	貯 蔵 所						取 扱 所		所 一	
					屋 内	貯 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	蔵 地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	所 移 動 タ ン ク	屋 外	取 給 油		扱 販 売
施 設 数			274	3	72	9	1	54		27	2	71		35
数 量 別	5 倍以下		121		40	2	1	35		18	1	13		11
	5 倍を超え 1 0 倍以下		35		8	1		8				6		12
	1 0 " 5 0 "		65		9	4		7		4	1	29		11
	5 0 " 1 0 0 "		15	3	2	2		1		5		2		
	1 0 0 " 1 5 0 "		17		13			1				2		1
	1 5 0 " 2 0 0 "		5					2				3		
	2 0 0 " 1 0 0 0 "		16									16		
	1 0 0 0 " 5 0 0 0 "													
	5 0 0 0 " 1 0 0 0 0 "													
	1 0 0 0 0 倍を超えるもの													
類 独 別	単	第 1 類												
		第 2 類												
		第 3 類	1		1									
	独	第 4 類	267	3	67	9	1	54		27	2	71		33
		第 5 類	1		1									
		第 6 類												
	混 在		5		3									2

危険物製造所等の推移

(令和6年度)



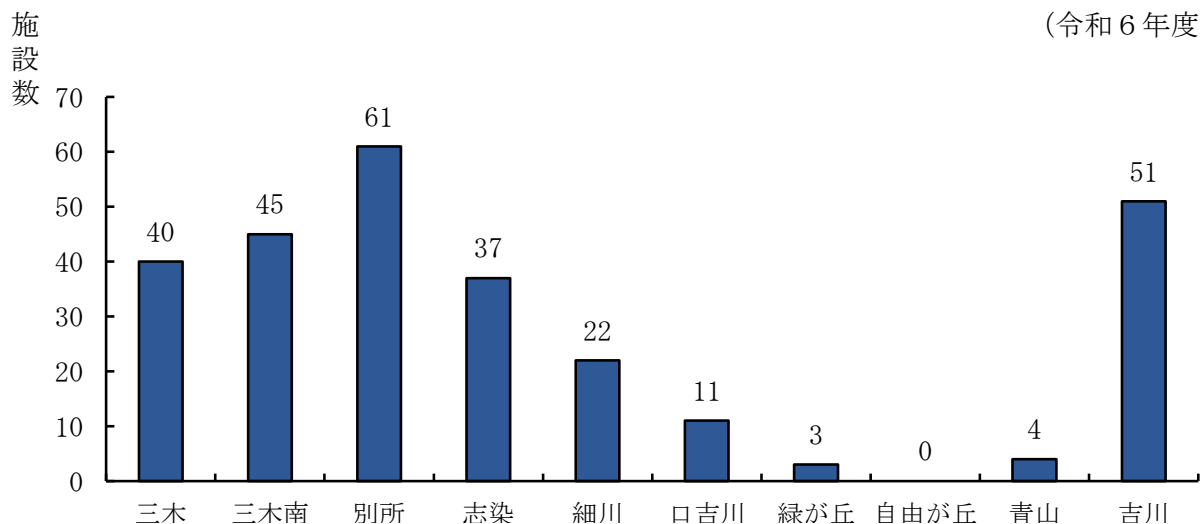
危険物製造所等の設置状況

(令和6年度)

製造所の 区分 施設数		計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			
				屋 内	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外	給 油	販 売		一 般
												第 一 種	第 二 種	
R 5 年 度 末 数		277	3	73	10	1	56		25	2	70			37
R6年度	新 設 (転入含む)	3							2		1			
	廃 止 (転出含む)	6		1	1		2							2
R 6 年 度 末 数		274	3	72	9	1	54		27	2	71			35

地区別危険物施設設置状況

(令和6年度)



危険物製造所等の申請・届出処理状況

(令和6年度)

製造所等の 区分 種 別		計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			許 可 施 設 外
				屋 内	屋 外 タンク	屋 内 タンク	地 下 タンク	簡 易 タンク	移 動 タンク	屋 外	給 油	販 売	一 般	
許可	設 置	1									1			
	変 更	13	1				1		2		4		5	
完 成 検 査	設 置	1									1			
	変 更	14	1				1		2		4		6	
仮 使 用		11					1				4		6	
水圧・水張検査		146												146
廃止（転出含む）		6		1	1		2						2	
種類数量変更		3		1			2							
軽微変更		72	5	8			7		6		43		3	
保 安 監督者	選 任	20		5	2		2				9		2	
	解 任	20		5	2		2				9		2	
休 止														
定期点検報告		28					18				10			
仮貯蔵・仮取扱		13											2	11
そ の 他		106	6	14	4		22		2		47		11	

製造所等の各種調査及び検査状況

立入検査を通して施設の適正管理について指導を行っています。

(令和6年度)

製造所等の 区分 種 別		計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			許 可 施 設 外
				屋 内	屋 外 タンク	屋 内 タンク	地 下 タンク	簡 易 タンク	移 動 タンク	屋 外	給 油	販 売	一 般	
立 入 検 査		142	3	14	3		14		28		62		18	
完 成 検 査		15	1				1		2		5		6	
完成検査前検査（水圧・水張）		146												146
中間検査（地下配管・タンク防水）		5					1				4			
仮貯蔵 ・ 仮取扱調査		10												10
各種届出に伴う現地調査		78	5	9	1		9		6		43		5	

液体危険物タンクの完成検査前検査実施状況

(令和6年度)

合 計	水 張 検 査				
	小計	10KL以下	10KLを超え 1,000KL以下	1,000KLを超え 2,000KL以下	2,000KLを 超えるもの
145	3	2	1		
	水 圧 検 査				
	小計	600 L以下	600Lを超え 10KL以下	10KLを超え 20KL以下	20KLを 超えるもの
	142		27	87	28

手数料収入額（単位：千円）

(令和6年度)

区 分	合 計	製造所等の許可・完成検査 及び完成検査前検査				仮貯蔵・仮取扱及び仮使用		
		許 可		完成検査	完成検査 前検査	仮貯蔵	仮取扱	仮使用
		設置	変更					
件 数	198	1	13	14	146	0	13	11
収入額	2,761	0	293	160	2,179	0	70	59

移譲事務関係の届出及び検査状況

(令和6年度)

種別 施設又は 建築物	計	映画館・公会堂	キャバレー・遊技場	料理飲料店	百貨店・マーケット	旅館・共同住宅	病院・診療所	各種学校	図書館・博物館	その他の施設
液化石油ガス設備工事届出	3							2		1
液化石油ガス設備事前協議	0									
設備工事届出に伴う立入検査	0									
一般高圧ガス立入検査	7					3		2		2

三木防火協会の現況

三木防火協会は、消防諸般の研究と防火思想の普及徹底及び自主保安体制の整備を図り、火災による災害防止と被害の軽減に万全を期することを目的として設立され、防災フェスティバルを始めとする多くの事業を通じて、地域社会の安全・安心に寄与する団体です。

現在の会員数は、221事業所で組織の充実を図り安全で災害に強いまちづくりを目指しています。

【沿革】

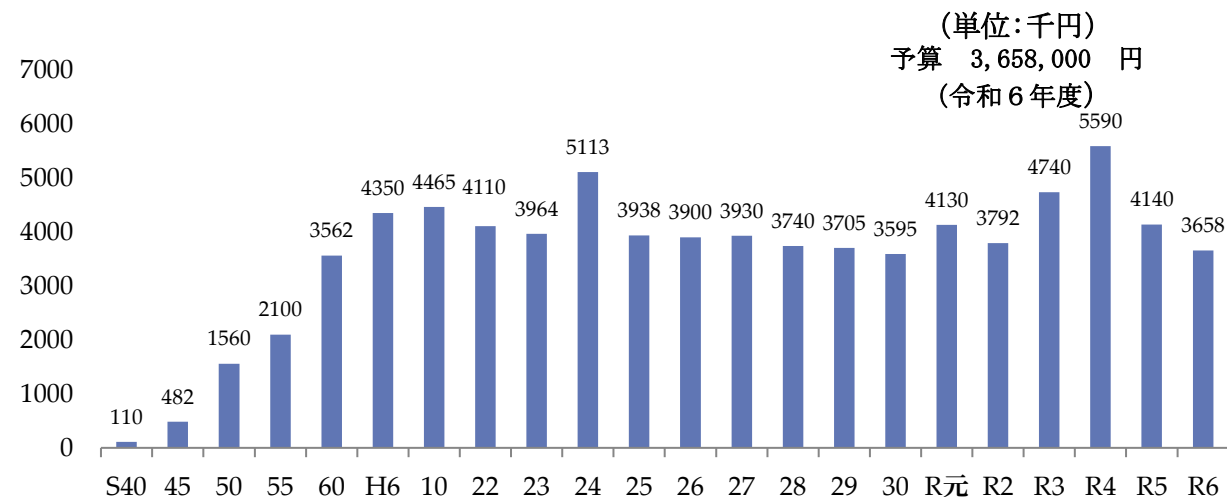
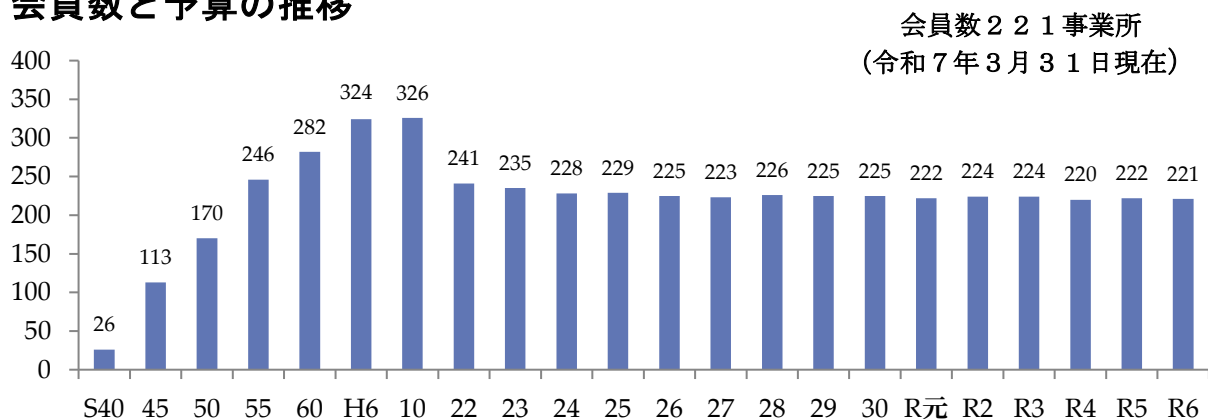
昭和37年7月16日 「兵庫県危険物安全協会三木支部」設立

昭和40年4月1日 三木市消防本部（署）発足に伴い、事務局を消防本部内に置く。

昭和50年5月12日 「兵庫県危険物安全協会三木支部」を解散、危険物施設事業所及び一般事業所を対象とした「三木市防火協会」に発展的改組する。

昭和58年6月2日 東播磨危険物安全協会と合併「三木防火協会」に名称変更

会員数と予算の推移



令和6年度の主要行事

- | | |
|---------|---------------|
| 5月23日 | 三木防火協会定例総会 |
| 6月2日～8日 | 危険物安全週間推進事業 |
| 6月18日 | 兵庫県危険物安全・安心大会 |
| 7月12日 | 自衛消防訓練教養研修 |
| 8月8日～9日 | 甲種防火管理新規講習 |
| 8月26日 | 甲種防火管理再規講習 |
| 9月29日 | 第42回防災フェスティバル |
| 11月12日 | 先進地視察研修 |
| 11月20日 | 一日消防士研修会 |
| 2月21日 | 危険物取扱者養成講習会 |

警 防 編



消防車両配置状況

(令和7年3月31日現在)

	車名等	車両名	車種	製作会社名	年式	級別	ポンプ形式	出力PS	備考
消防本部	査察車		スズキ	スズキ	H30			49	リース
	資材搬送車	消防80	日野	藤井ポンプ	H24			136	市単
	資材搬送車	消防21	スズキ	スズキ	H20			48	寄贈
	防火広報車	消防23	トヨタ	トヨタ	H20			133	〃
	広報車		日産	日産	R1			147	(寄) 日本消防協会
	消火通報訓練指導車		マツダ	マツダ	H17			100	(寄) 日本宝くじ協会
	連絡車		日産	日産	R6			143	リース
	〃		スズキ	スズキ	H18			-	市単
消防署	化学車	消防1	日野	日本機械	H19	A2	二段バランス	220	国補
	ポンプ車	消防3	〃	(株)モリタ	H29	〃	一段タービン	145	市単
	はしご車	消防4	〃	(株)モリタ	H28			313	〃
	タンク車	消防6	〃	長野ポンプ	R1	A2	二段タービン	150	国補
	指揮車	消防7	三菱	三菱自動車	H16			136	石対
	救助工作車	消防8	日野	日本機械	H24			220	国補
	水槽車	消防30	〃	〃	H31	A2	二段バランス	380	市単
	救急車	消防10	トヨタ	トヨタ	H28	高規		151	〃
	〃	消防11	トヨタ	トヨタ	R7	〃		151	〃
	〃	消防12	トヨタ	トヨタ	R2	〃		151	〃
	小型動力ポンプ	(消防1)	ラビット	富士ロビン	H19	C1	一段タービン	11	国補
広野分署	〃	(消防3)	〃	シバウラ	H29	〃	〃	9	市単
	資材搬送車	消防20	スズキ	スズキ	H20			48	寄贈
	ポンプ車	消防52	日野	(株)モリタ	H27	A2	一段ボリュート式	150	国補
	タンク車	消防53	日野	日本機械	H22	〃	二段バランス	227	〃
	救急車	消防60	トヨタ	トヨタ	R4	高規		151	市単
	小型動力ポンプ	(消防52)	ラビット	シバウラ	H27	C1	一段タービン	9	国補
吉川分署	〃	(消防53)	トーハツ	トーハツ	H22	〃	〃	9	市単
	資材搬送車	消防22	ダイハツ	ダイハツ	R3			46	市単
	ポンプ車	消防81	日野	(株)モリタ	H27	A2	一段ボリュート式	145	国補
	タンク車	消防82	日野	日本機械	H18	〃	二段バランス	220	市単
	連絡車		スズキ	スズキ	H14			48	〃
	救急車	消防90	トヨタ	トヨタ	R3	高規		151	国補
	小型動力ポンプ	(消防81)	トーハツ	トーハツ	H27	C1	一段タービン	10	〃
	〃	(消防82)	ラビット	富士ロビン	H18	〃	〃	11	市単

消防機械器具保有状況

(令和7年3月31日現在)

	種 類	保 有 数		
		本署	広野	吉川
救 急 救 助	空気呼吸器	26	8	7
	エンジンカッター	4	2	2
	ウレタンボート			1
	ゴムボート	1		
	船外機	1		
	救助幕	1		
	油圧救助器具	4	2	4
	エアークラウリング器具	2	1	1
	ガス溶断機	1		
	スローダン	2		
	チルホール	2	2	1
	救命索発射銃	1		
	エンジン チェーンソー	1	1	
	削岩機	1		
	排煙機	2		
	赤外線スコープ	1	1	1

	種 類	保 有 数		
		本署	広野	吉川
消 火	簡易水そう	3		
	東消式高発泡装置	3	1	1
	ジェットシューター	7	4	8
	インパルス	1		
照 明	発電機	5	2	2
	投光器	6	3	3
そ の 他	有毒ガス検知器	2	1	1
	放射線測定器	1		
	煙発生器	1		
	ホーン測定器	1		
予 防	漏電計	1		
	プレッシャーゲイジ	1		
	絶縁抵抗計	1		
	静電気チェッカー	1		
	膜厚計	1		

消防車両等修理状況

(令和7年3月31日現在)

所属	車 両 区 分	修理回数
消 防 本 部 ・ 署	消 防 1	1
	〃 3	1
	〃 4	1
	〃 5	
	〃 6	
	〃 7	1
	〃 8	1
	〃 10	7
	〃 11	
	〃 12	
	〃 20	
	〃 21	
	〃 22	
	〃 23	
	〃 30	2
	〃 52	
	〃 53	1
	〃 60	2
	〃 80	
	〃 81	2
	〃 82	2
	〃 90	1
	査察車	
	団広報車	1
	計	23

所属	修理箇所別	修理回数
消 防 本 部 ・ 署	ポンプ系統	1
	エンジン系統	6
	電気系統	5
	動力伝達系統	1
	外装系統	3
	その他	7
	計	23

所属	地 区 名	修理回数
消 防 団	三 木 地 区	2
	別 所 地 区	
	志 染 地 区	2
	細 川 地 区	2
	口 吉 川 地 区	1
	吉 川 地 区	4
	計	11
	修理箇所別	修理回数
	ポンプ系統	
	エンジン系統	
	電気系統	
	動力伝達系統	
	その他	1
	計	1

管内消防水利の現況（消火栓）

（令和 7 年 3 月 3 1 日現在）

地区別	公私	50mm	65mm	75mm	100mm	125mm	150mm	200mm	250mm	300mm	350mm	400mm	450mm	計
三 木	公設	1		165	141		137	54	10	12	4			524
	私設			1			6							7
三 木 南	公設	1		64	37		53	19	4			2		180
	私設			7				1						8
別 所	公設	0		79	47		42	27	8					203
	私設													0
志 染	公設	5	1	76	75	1	46	4	3		1			212
	私設													0
細 川	公設	9		42	35	2	21	5	3					117
	私設		1	3	4		2							10
口 吉 川	公設	18		33	15		22	2						90
	私設													0
自由が丘	公設			110	92		48	31	1	7				289
	私設													0
緑 が 丘	公設			24	82		40	9	9					164
	私設													0
青 山	公設			8	51		45	19	3	3			2	131
	私設													0
吉 川	公設	14		116	66	5	87	47	23	6	1			365
	私設				2		1							3
小 計	公設	48	1	717	641	8	541	217	64	28	6	2	2	2, 275
	私設	0	1	11	6	0	9	1	0	0	0	0	0	28
合 計		48	2	728	647	8	550	218	64	28	6	2	2	2, 303

管内消防水利の現況（防火水そう）

（令和 7 年 3 月 3 1 日現在）

地区別	公私	20 t 未満	20t以上40t未満	40t以上	計
三 木	公設	1	13	95	109
	私設		2	76	78
三 木 南	公設		3	33	36
	私設		2	43	45
別 所	公設	1	1	46	48
	私設		1	45	46
志 染	公設	2	7	45	54
	私設		2	33	35
細 川	公設	1	1	19	21
	私設		1	40	41
口 吉 川	公設		1	10	11
	私設			17	17
自由が丘	公設		2	64	66
	私設			6	6
緑 が 丘	公設			24	24
	私設			8	8
青 山	公設			21	21
	私設			14	14
吉 川	公設		2	26	28
	私設			59	59
小 計	公設	5	30	383	418
	私設	0	8	341	349
合 計		5	38	724	767

各種届出等受理状況

(令和6年中)

各 種 届 出	受 理 件 数
道路工事届	146
火災とまぎらわしい煙・火災を発するおそれのある行為の届	295
水道の断水又は減水届	18
要望・苦情・相談願	24
火災損害届（事故届出含む）	28
り災証明等交付申請	21
り災証明等発行	38
都計法関係届	28
計	598

消防活動状況

(令和6年中)

種 別 区 分	火 災	救 急	救 助	風 水 害	警 戒	偵 察	非 常 招 集	地 水 利 調 査	警 防 調 査 等	パ 広 ト ロ 報 ー ル	原 因 調 査	警 備	応 援	計
出 動 回 数	23	4,544	86	3	182	88	82	275	34	108	23	12	11	5,471
出動延べ人員	205	14,160	659	6	508	366	375	411	89	177	96	62	56	17,170

訓練実施状況

(令和6年中)

訓 練 種 別	場 所 等	回 数	出動延べ人員	車両台数
基本・応用訓練	本署・広野分署・吉川分署	617	3,682	341
救助訓練	本署	111	695	47
危険物安全週間に伴う訓練	株式会社ナリス化粧品 兵庫工場	1	23	7
火災予防運動に伴う訓練	三木市総合保健福祉センター	1	23	9
三木市総合防災訓練	三木山総合公園	1	13	5
文化財防火デーに伴う訓練	法界寺	1	16	7
水防訓練	本署・広野分署・吉川分署	4	66	4
ボート取扱訓練	通り池・その他	4	49	10
機関員訓練(年度)	管内道路等	128	256	108
計		868	4,823	538

消防訓練等指導状況

(令和6年中)

種 別	回 数	参 加 人 員	職員派遣人員
普通救命講習	23	267	26
救急法講習	90	2,769	100
自主防災訓練	31	1,494	64
庁舎見学	28	797	65

気象情報発令状況

(令和6年中)

警報・注意報		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
警 報	洪水					7			5					12
	大雨					8	10		13					31
	暴風								13					13
	暴風雪													0
	大雪													0
	波浪													0
	高潮													0
計		0	0	0	0	15	10	0	31	0	0	0	0	56

注 意 報	波浪													0
	乾燥	31	13	39	17	12					11	17	63	203
	雷	6		15	24	24	47	71	154	81	27	23	15	487
	大雨			2	4	6	26	8	22	6	4	8		86
	洪水					2	10		9		4	5		30
	強風	24	8	32	43	28	13	15	41	16	27	43	39	329
	高潮													0
	濃霧	1	1	5	7		1	3					2	20
	霜			18										18
	大雪	3												3
	大風	6												6
	着雪													0
	雪崩													0
	津波													0
	低温													0
計		71	22	111	95	72	97	97	226	103	73	96	119	1182

情 報	台風								18	2				20
	大雨					4	16	5	3	6	4	1		39
	大雪	6		1									6	13
	高雪				1						1			2
	竜巻				4		5	16	9			4	4	42
	地震	10	1		1		1		2					15
	梅雨								18	2				20
	土砂													0
	その他	6	3	10	6	2	5	24	10		5	8	2	81
計		22	4	11	12	6	27	45	60	10	10	13	12	232

火災気象通報	32	22	48	29	31	19	3	13	9	21	34	60	321
--------	----	----	----	----	----	----	---	----	---	----	----	----	-----

水防指令					3								3
------	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	---

月別気象状況

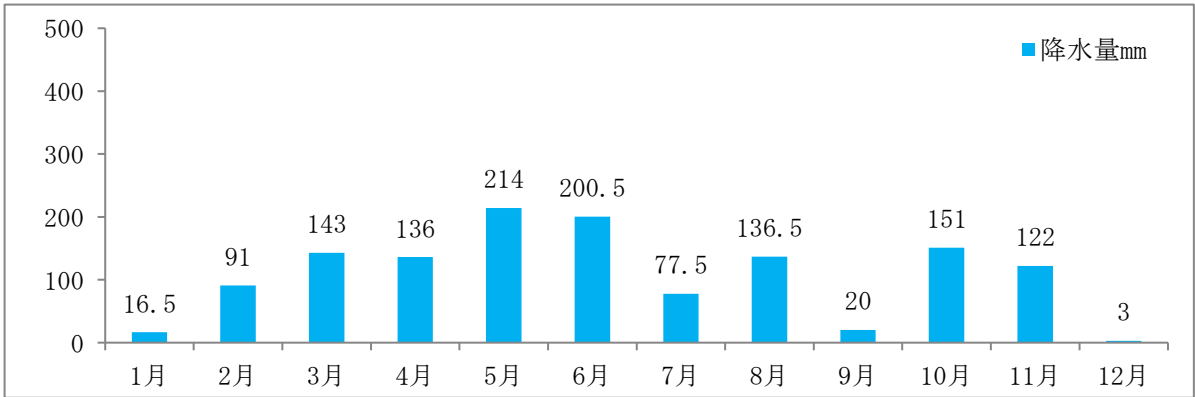
(令和6年中・三木市消防本部調べ)

種別 月	気 温 °C			湿 度 %			実効湿度 %		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
1	13.4	-3.8	4.8	98.0	28.8	71.3	78.1	61.5	71.1
2	17.2	-2.0	6.4	98.8	35.2	74.4	84.8	64.0	74.8
3	22.0	-3.3	7.8	98.0	16.1	69.7	83.5	63.1	69.4
4	25.9	2.8	16.2	98.6	13.6	71.8	83.8	59.8	70.5
5	27.9	6.3	17.8	98.6	13.6	71.8	83.9	62.9	72.0
6	32.4	12.9	22.5	98.6	33.8	78.7	88.4	68.8	77.7
7	35.5	21.5	27.9	98.8	44.4	81.6	92.4	75.0	82.3
8	36.3	23.2	28.9	98.6	38.8	75.9	82.7	69.5	75.2
9	34.9	18.2	27.1	98.0	38.6	76.1	81.7	71.5	76.4
10	29.8	10.5	20.0	98.8	35.8	79.3	84.3	73.4	78.6
11	24.2	1.5	12.4	98.8	31.1	76.5	87.2	67.7	77.4
12	17.5	-3.1	5.5	97.5	26.9	70.7	74.8	62.3	70.5
年間平均	16.4			74.8			74.7		

月別降水量

(年間降水量 1,311 mm)

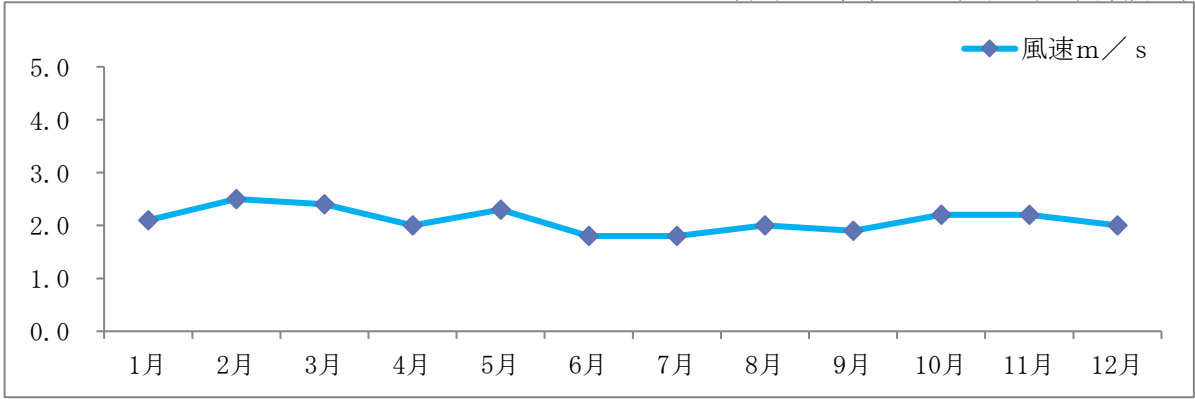
(令和6年中・三木市消防本部調べ)



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
降水量mm	16.5	91	143	136	214	200.5	77.5	136.5	20	151	122	3

月別平均風速

(令和6年中・三木市消防本部調べ)



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
風速m/s	2.1	2.5	2.4	2.0	2.3	1.8	1.8	2.0	1.9	2.2	2.2	2.0

水防資器材備蓄状況

(令和7年3月31日現在)

場所 備蓄 資器材	消 防 本 部	広 野 分 署	吉 川 分 署	末 広	大 塚	福 井 二 丁 目	岩 宮	別 所	志 染	細 川	口 吉 川	吉 川	計
土のう袋	9,000	2,500	1,200	3,000	2,000	3,000	3,000	1,000	1,900	1,500	1,200	900	30,200
作製済土のう	240	40	120										400
スコップ	36	29	13	20	10	20	10	10	10	14	10	15	197
ウォーターゲル	320	77	40		30	160							627
麻袋					20				30		10		60
ブルーシート	45	13	15	50	20	30	12	25	21	18	20	15	284
麻シート				6		10	5						21
Pロープ	14	1	2	12	25	12	6	10	1	15	2		100
木杭	86	102	19	30	180	1,000	600	750	480	450	200		3,897
鉄杭	230	12	23	25		40	30	20	24	30	22	20	476
むしろ				13	2	36	3	5	170	5			234
ハンマー	6	2	4	2	21	3	3	2	2	4	2		51
カケヤ	18	24	8	10	20	22	5	5	5	5	3	9	134
つるはし	7	7	7		5	4						4	34
平鍬	4		2	2	3							9	20
カスガイ	79	33	11		5								128
ジョレン	2	4	2	3	1	2	2	2	2	2	2	1	25
片刃ノコギリ	33	2	5		4		2			2		20	68
両刃ノコギリ	6	1	7	2	2		2	2	2	1	2	3	30
薄鎌	25	2	2	9	20	3	2	5	2		2	27	99
木鎌	6	12	6	1		1	4					22	52
なた	10	16	3		5	5	1	1	1		1	10	53
草刈り機	8	1	2										11
釘 (箱)	1			1		1		2		1	1		7
金槌	2	2	5	1		1	1	1	1	1	1	3	19
釘抜き	2	1			1								4
針金	4		1	1	5	15	1	1	1	1	1		31
ペンチ	5	1		1	10	1		1	1	1	1	2	24
プライヤー	2		1										3
クリッパー	2		1		1	1		1	1			4	11
かます											35		35
番線	4	1	4	1	1	2	2	1	1		1	1	19
しの	17	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1		29
コンパネ	5			11	15	9							40
たる木	1			19									20
杉板	54		10	34			20						118
ナワ						20	5		3		4		32
携帯用ライト	10	10										45	65
巾ビロ				1		1	1	1	1		1		6
胴付長ぐつ	8		3										11
一輪車	5	3	1	5	2			1	1	1			19
縫針	12	6	3	2	1	4					2	4	34

火災編



過去の主な火災

()は負傷者

発生年月日	覚知時間	場 所	火元用途	焼損面積	死 者
S48. 8. 11	0:03	緑が丘町東 3 丁目	住宅	100m ²	4
S48. 8. 17	15:00	福井八幡谷	山林	30ha	
S50. 2. 18	18:10	加佐	作業所	511m ²	
S52. 3. 12	13:40	志染町四合谷	山林	30ha	
S53. 1. 9	17:55	大塚 2 丁目	学校	617m ²	
S54. 4. 18	14:35	芝町	酒造会社	1,309m ²	
S54. 9. 6	1:00	加佐	住宅	110m ²	4
S59. 2. 14	0:00	吉川町新田	養鶏舎	626m ²	
S59. 5. 8	21:06	別所町下石野	屋外物品集積所	古タイヤ2万本	
H5. 11. 15	14:32	吉川町金会	タンクローリー	3台	
H10. 9. 6	1:20	別所町興治	廃車車両	約250台	
H12. 3. 6	20:35	志染町三津田	工場	676m ²	
H12. 4. 30	13:07	細川町細川中	納屋	352m ²	1
H15. 3. 6	1:54	緑が丘町中 2 丁目	住宅・店舗	544m ²	1
H17. 7. 28	18:11	吉川町豊岡	住宅・納屋	23m ²	2
H17. 9. 24	7:03	志染町窟屋	住宅	571m ²	
H23. 12. 18	16:29	口吉川町笹原	住宅兼店舗	880m ²	
H24. 3. 28	19:52	福井 1 丁目	住宅	239m ²	1
H24. 6. 18	19:42	志染町西自由が丘 2 丁目	共同住宅	24m ²	1
H24. 8. 28	11:11	吉川町古市	林野	4 a	1
H25. 5. 25	14:47	吉川町稲田	住宅	277m ²	(1)
H27. 3. 25	13:43	鳥町	住宅	276m ²	(1)
H27. 10. 4	13:11	吉川町渡瀬	住宅	300m ²	(2)
H28. 2. 11	6:49	本町 3 丁目	住宅	85m ²	1
H29. 2. 2	2:20	細川町垂穂	普通乗用車	1台	1
H29. 3. 21	7:11	本町 1 丁目	住宅	116m ²	1(1)
H29. 12. 8	19:45	別所町東這田	住宅	260m ²	1(1)
H30. 1. 4	22:05	本町 3 丁目	住宅	250m ²	(3)
H30. 3. 4	17:58	末広 1 丁目	住宅	駅舎他 592m ²	1
R元. 9. 25	19:33	別所町高木	作業所・工場	1,072m ²	
R2. 12. 25	2:20	君が峰町	住宅	169m ²	1
R2. 12. 26	22:46	本町 2 丁目	店舗兼住宅	126m ²	(1)
R3. 2. 14	13:49	志染町戸田	林野	8.2ha	(1)
R3. 11. 4	14:35	吉川町上松	住宅	291m ²	(1)
R4. 1. 23	8:41	宿原	住宅	254m ²	1
R4. 1. 29	4:39	福井 2 丁目	住宅	171m ²	1
R4. 2. 20	13:39	福井 2 丁目	住宅	81m ²	1
R4. 6. 14	14:38	別所町石野	工場	1,603m ²	
R4. 6. 28	23:01	志染町西自由が丘 1 丁目	住宅	114m ²	1
R5. 11. 6	1:15	別所町下石野	金属スクラップ	2,000m ²	

令和 6 年中の主な火災

()は負傷者

発生年月日	覚知時間	場 所	火元用途	焼損面積	死 者
R6. 1. 10	10:58	岩宮	住宅	131m ²	
R6. 4. 8	4:59	鳥町	住宅	255m ²	
R6. 7. 25	22:31	口吉川町大島	倉庫	114m ²	

火災概要（対前年比）

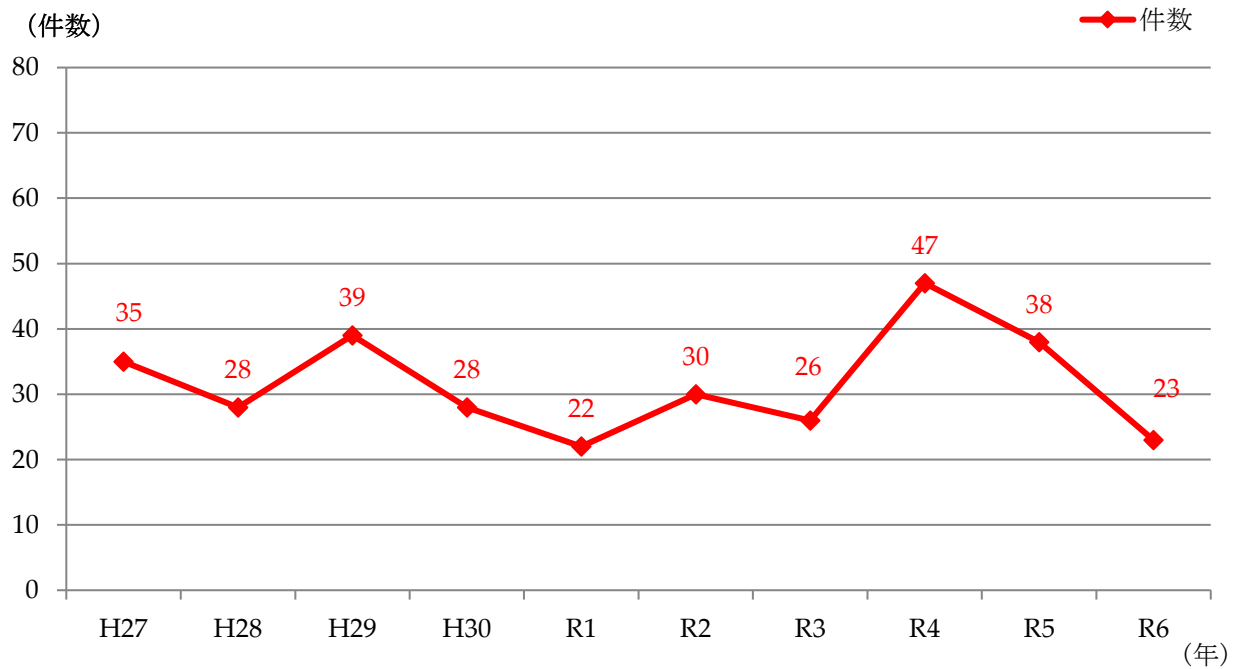
出火件数は前年と比べ１５件減少。

車両火災が５件、その他火災が１０件減少し、建物火災、林野火災に増減はありませんでした。

区 分				単 位	令和 6 年	令和 5 年	増 減
出 火 件 数	建 物			件	23	38	△ 15
	内 訳	住 宅	〃	13	13		
		工 場	〃	6	6		
		その他	〃	3	2	1	
	林 野			〃	4	5	△ 1
	車 両			〃	1	1	
	船 舶			〃	2	7	△ 5
	そ の 他			〃	0	0	
	そ の 他			〃	7	17	△ 10
損 害 額	建 物			千円	84,873	74,983	9,890
	内 訳	建 物	〃	84,402	53,444	30,958	
		収容物	〃	45,314	48,001	△ 2,687	
		収容物	〃	39,088	5,443	33,645	
	林 野			〃	0	0	
	車 両			〃	463	12,969	△ 12,506
	船 舶			〃	0	0	
	そ の 他			〃	8	8,570	△ 8,562
	爆 発			〃	0	0	
建 物 焼 損 棟 数	建 物 焼 損 棟 数			棟	19	20	△ 1
	全 焼			〃	7	4	3
	半 焼			〃	0	0	
	部 分 焼			〃	5	6	△ 1
	ぼ や			〃	7	10	△ 3
爆 損	損害棟数			棟	0	0	
	車両等数			台	0	0	
焼 損	建物床面積			m ²	1,073	321	752
	建物表面積			m ²	131	72	59
	林 野			a	9	21	△ 12
	車 両			台	2	7	△ 5
	船 舶			艇	0	0	
負 傷 者				人	3	6	△ 3
死 者				〃	0	0	
り 災 世 帯	り 災 世 帯			世帯	11	8	3
	全 損			〃	2	0	2
	半 損			〃	0	0	
	小 損			〃	9	8	1
り 災 人 員				人	26	18	8
建物 1 件当りの損害額				千円	6,492	4,111	2,381
〃 焼損床面積				m ²	83	25	58

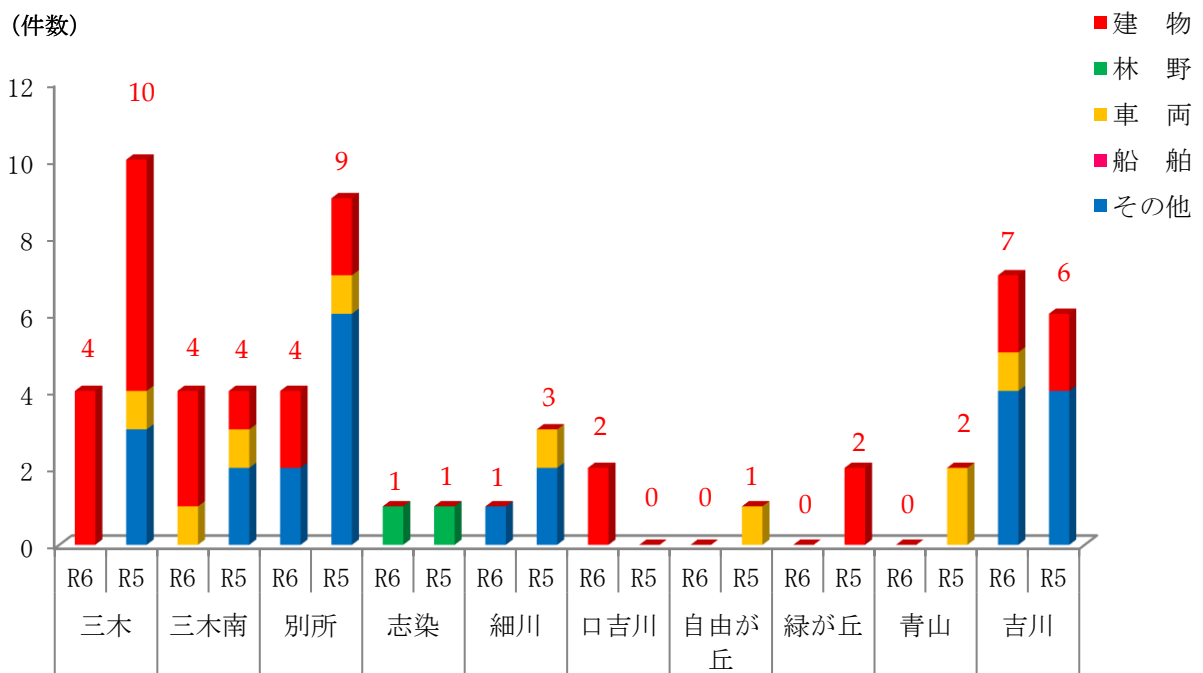
△印は減少

火災件数の推移

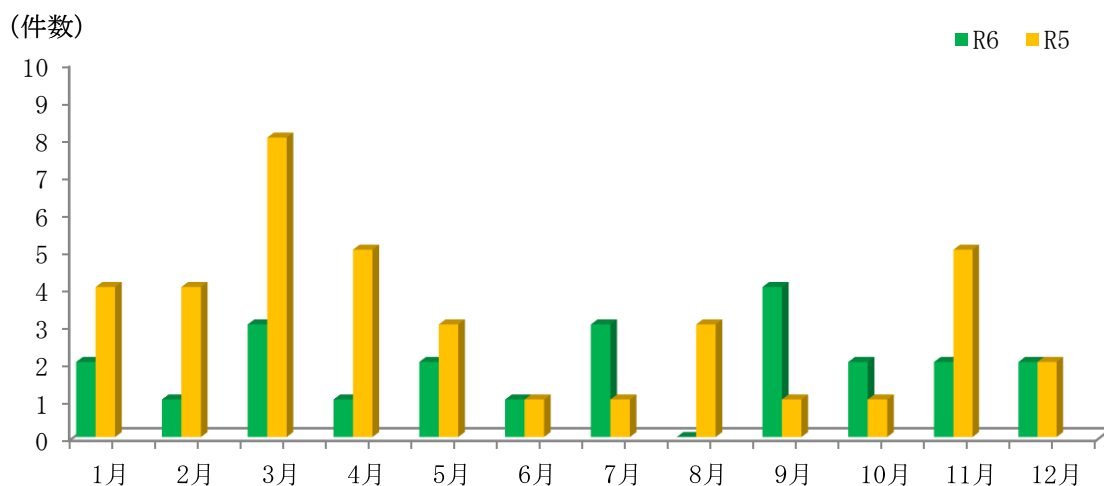


地区別火災件数

前年と比較すると、口吉川地区、吉川地区が増加、三木地区、別所地区、細川地区、自由が丘地区、緑が丘地区、青山地区が減少しています。三木南地区、志染地区は増減はありませんでした。

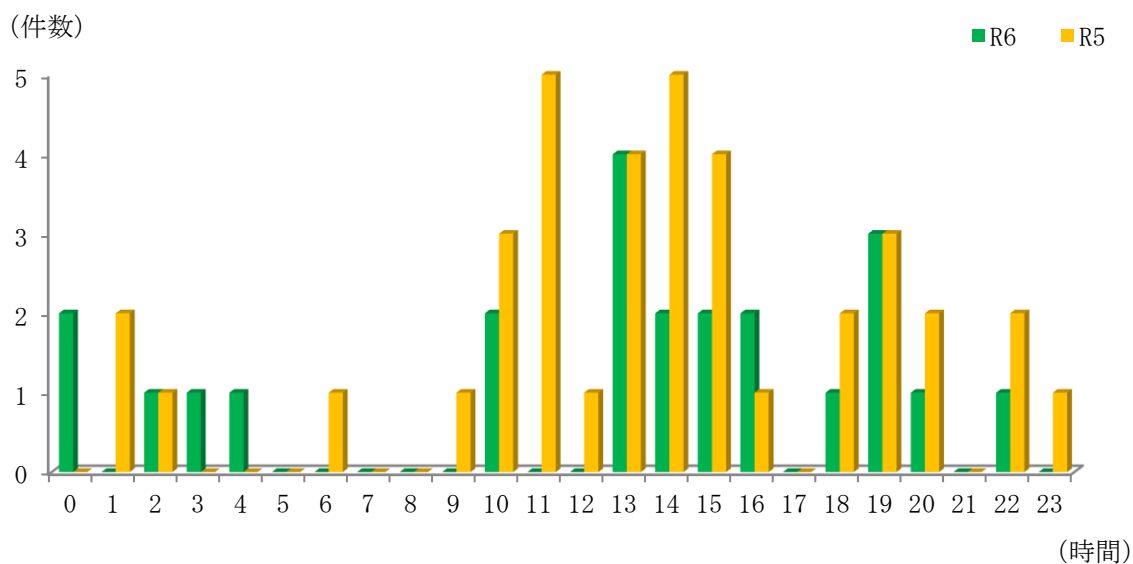


月別火災件数



年 \ 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
R6	2	1	3	1	2	1	3	0	4	2	2	2	23
R5	4	4	8	5	3	1	1	3	1	1	5	2	38

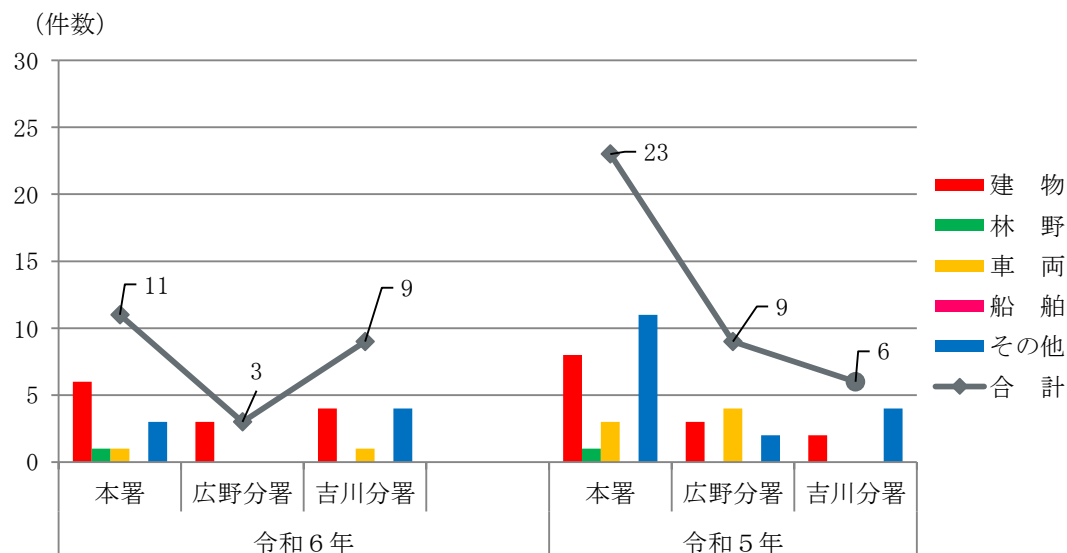
時間別火災件数



年 \ 時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
R6	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	4	2	2	2	0	1	3	1	0	1	0	23
R5	0	2	1	0	0	0	1	0	0	1	3	5	1	4	5	4	1	0	2	3	2	0	2	1	38

署別火災件数

前年と比較して、本署は火災件数が12件減少、広野分署は6件減少、吉川分署は3件増加となっています。

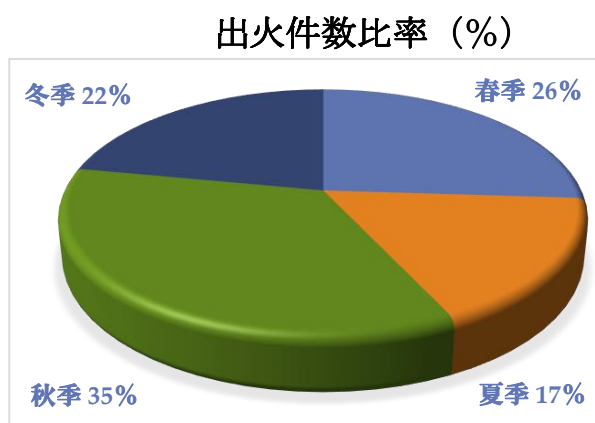


種別	令和6年			令和5年		
	本署	広野分署	吉川分署	本署	広野分署	吉川分署
建物	6	3	4	8	3	2
林野	1	0	0	1	0	0
車両	1	0	1	3	4	0
船舶	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	4	11	2	4
合計	11	3	9	23	9	6

四季別火災件数

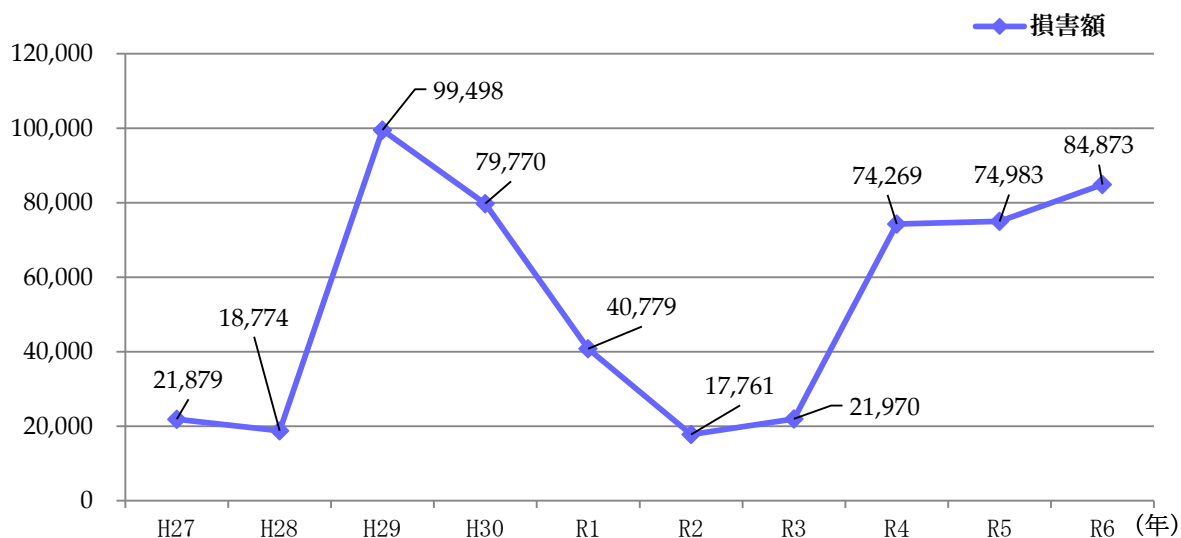
(令和6年中)

春季(3・4・5月)	6件
夏季(6・7・8月)	4件
秋季(9・10・11月)	8件
冬季(12・1・2月)	5件
合計	23件



火災損害額の推移

(損害額単位：千円)



火災損害額

(損害額単位：千円)

年		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
火災損害額	内訳	21,879	18,727	99,498	79,770	40,779	17,761	21,970	74,269	74,983	84,873
	建物	18,234	15,039	94,687	74,185	38,406	16,818	21,408	59,088	53,444	84,402
	林野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車両	1,577	3,555	1,361	4,520	1,863	915	10	12,407	12,969	463
	船舶	0	0	0	0	0	0	0	75	0	0
	その他	2,068	133	3,450	1,065	510	28	552	2,699	8,570	8
1件当たり損害額		625	670	2,551	2,849	1,854	592	845	1,580	1,973	3,690
出火件数	内訳	35	28	39	28	22	30	26	47	38	23
	建物	18	9	18	18	10	10	15	23	13	13
	林野	2	4	2	1	4	7	3	8	1	1
	車両	4	5	6	4	4	4	1	6	7	2
	船舶	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	11	9	13	5	4	9	7	10	17	7

初期消火の状況

令和6年に発生した23件の火災の中で、初期消火が行われたのは17件です。
そのうち有効な消火活動となったのは7件です。

年	令和6年		令和5年	
	実施	有効	実施	有効
消火器以外の消防用設備	0	0	0	0
水バケツ	2	1	5	1
消火器	6	3	8	3
水道・浴槽・汲み置きの水	7	3	4	2
寝具・衣類等をかけた	0	0	2	0
もみ消した	0	0	2	0
その他	2	0	2	2
合計	17	7	23	8
初期消火なし	6		15	

出火原因別件数

出火原因は「たき火」の6件が多く、全体の約26%を占めています。

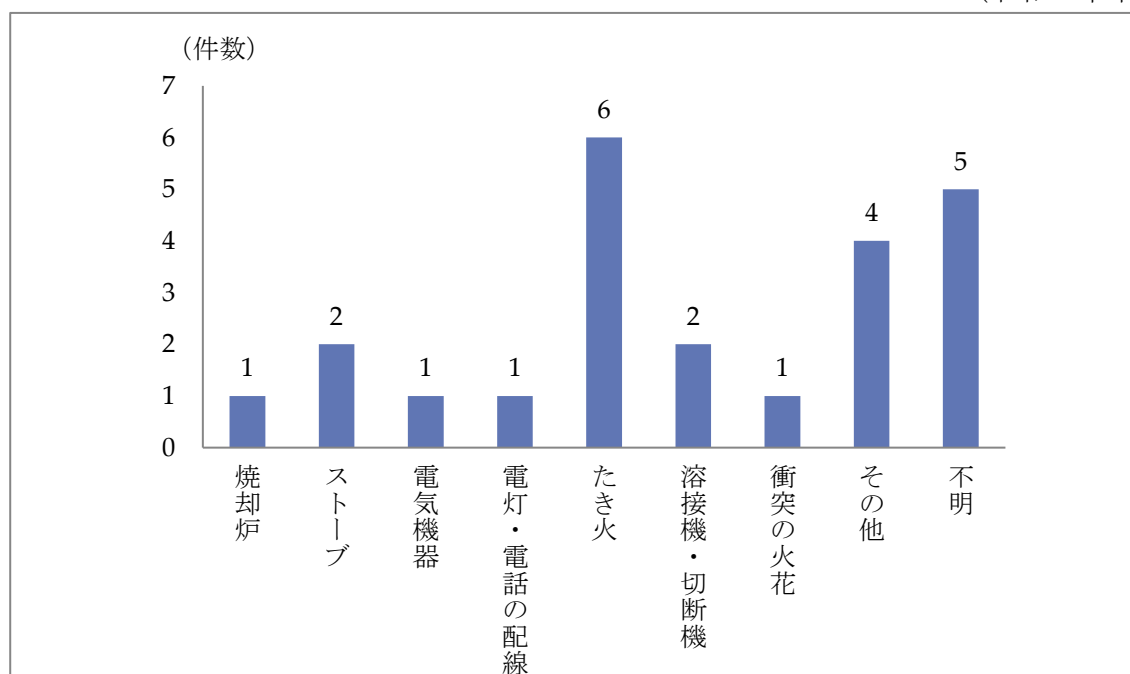
出 火 原 因	R6	R5	増 減
たばこ		3	△ 3
こんろ			
風呂かまど			
炉			
焼却炉	1		1
ストーブ	2	1	1
こたつ			
ボイラー			
煙突・煙道			
排気管			
電気機器	1	2	△ 1
電気装置		1	△ 1
電灯・電話等の配線	1	4	△ 3
内燃機関			
配線器具			
火あそび			
マッチ・ライター			
たき火	6	8	△ 2
溶接機・切断機	2	1	1
灯 火			
衝突の火花	1	1	
取 灰			
火入れ			
放 火		1	△ 1
放火の疑い			
その他	4	13	△ 9
不明	5	3	2
合 計	23	38	△ 15

△印は減少

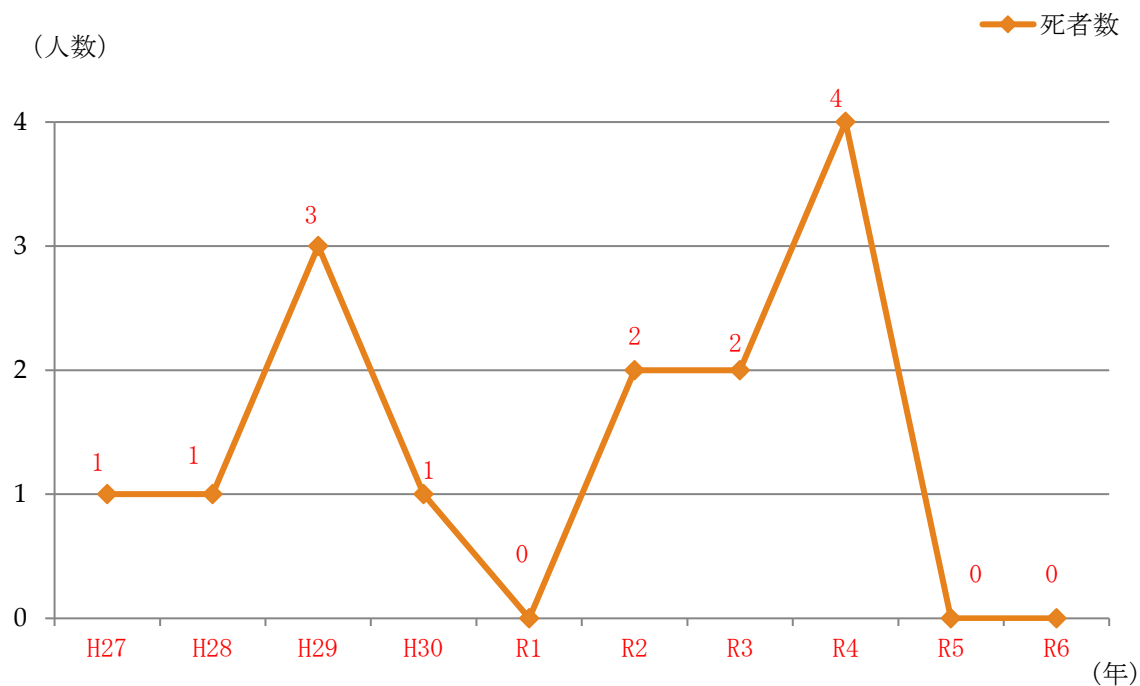
たき火欄 内訳	R6	R5
た き 火	4	3
虫 焼 火	2	5
合 計	6	8

その他欄 内訳	R6	R5
その他の移動可能な電熱器		1
その他の固定の電熱器		1
ガスフライヤー		1
バーナー		1
炭火		1
線香	1	
火のついた紙		1
その他の裸火（器に入っていないもの）		1
粉碎機の火花		1
金属と金属の衝撃火花		1
プロペラシャフト	1	
赤熱した切粉	1	
ブレーキライトニング		2
金属粉		2
その他の静電スパーク	1	
合 計	4	13

（令和6年中）



火災による死者数の推移



消防部隊出動状況

部隊出動件数は、昨年より14件減の284件となっています。

(令和6年中)

種 別 \ 署 別	本 署	広 野 分 署	吉 川 分 署	合 計	対 前 年 比
偵 察	44	18	26	88	0
災 害	68	40	74	182	△ 24
応 援	11	0	0	11	8
風 水 害	1	0	2	3	2
合 計	124	58	102	284	△ 14

(△印は減少)

※ 「偵察」 偵察・統計外火災・煙火・自火報・誤報・いたずら・捜索

「災害」 救急支援・油処理・危険物漏洩・ガス漏洩・その他 ※水防除く

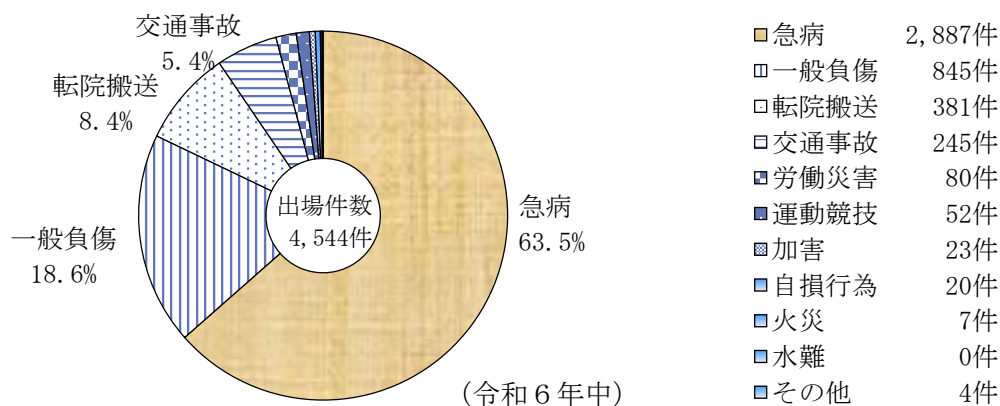
「応援」 近隣応援(境界、管轄高速道の出動)・兵庫県広域応援・緊急消防援助隊

救急編



救急出場件数

救急出場件数 4,544 件のうち急病が 2,886 件で 6 割以上を占め、続いて一般負傷 845 件、転院搬送 381 件の順となっています。



発生地区別出場件数

三木地区が最も多く、続いて自由が丘地区となっています。

地区 \ 年	令和 6 年	令和 5 年	令和 4 年
出 場 件 数	4,544	4,420	4,460
三 木	1,308	1,286	1,345
三 木 南	440	401	423
別 所	396	397	370
志 染	351	302	300
細 川	149	160	149
口 吉 川	103	100	84
緑 が 丘	488	459	474
自由が丘	638	608	660
青 山	178	225	186
吉 川	451	436	430
高 速 道	37	39	33
そ の 他	5	7	6

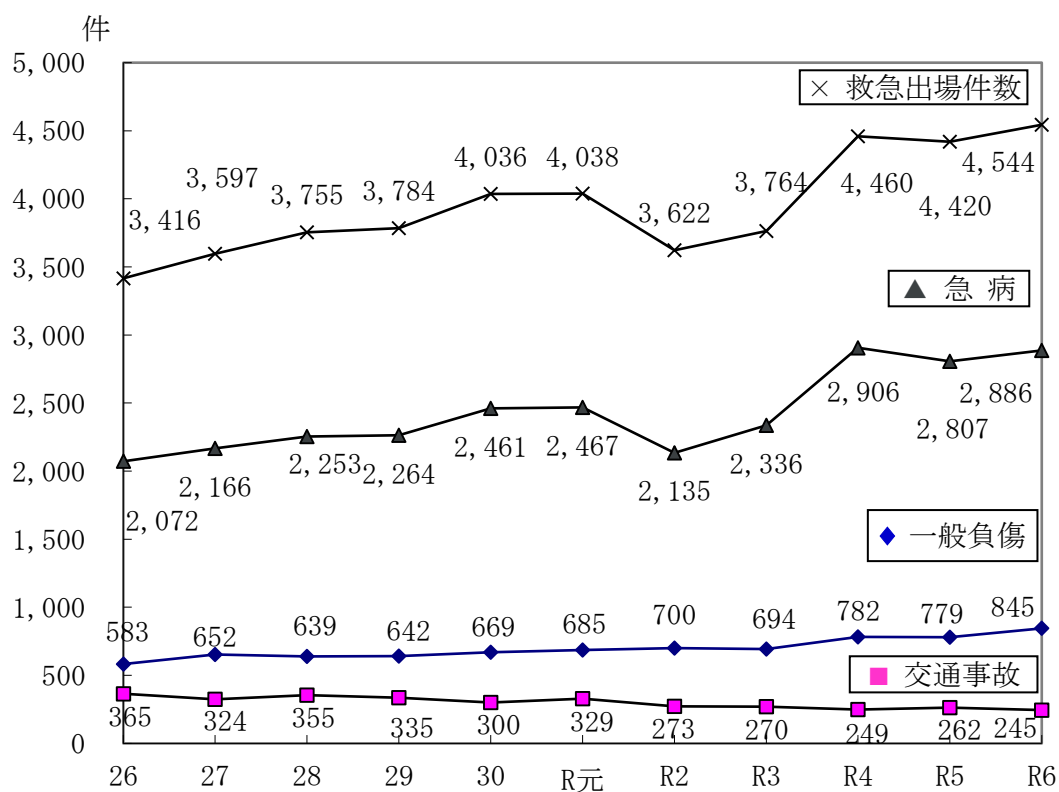
署別救急出場件数

本署 53.6%、広野分署 34.1%、吉川分署 12.3% の出場割合となっています。

事故種別 \ 署別	本 署	広 野	吉 川
火 災	5	1	1
自 然 災 害			
水 難			
交 通 事 故	145	61	39
労 働 災 害	45	14	21
運 動 競 技	29	17	6
一 般 負 傷	431	306	108
加 害	12	9	2
自 損 行 為	15	4	1
急 病	1,529	1,012	346
そ の 他	224	127	34
計	2,435	1,551	558

救急出場件数の推移

救急出場件数は4,544件で前年比124件増加となっています。



事故種別救急出場件数

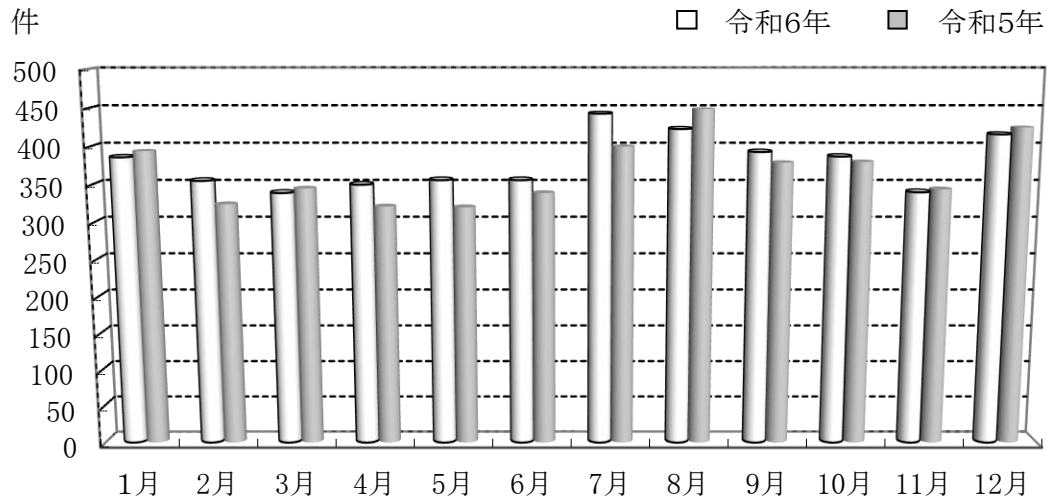
運動競技が昨年より24件減少し、急病が80件増加しています。

年		令和6年	令和5年	増 減
事故種別	火災	7	8	△ 1
	自然災害			
	水難			
	交通事故	245	262	△ 17
	労働災害	80	85	△ 5
	運動競技	52	76	△ 24
	一般負傷	845	779	66
	加害	23	15	8
	自損行為	20	37	△ 17
その他	急病	2,887	2,807	80
	転院搬送	381	340	41
	医師搬送			
	資器材搬送			
	その他	4	11	△ 7
計		4,544	4,420	124

△印は減少

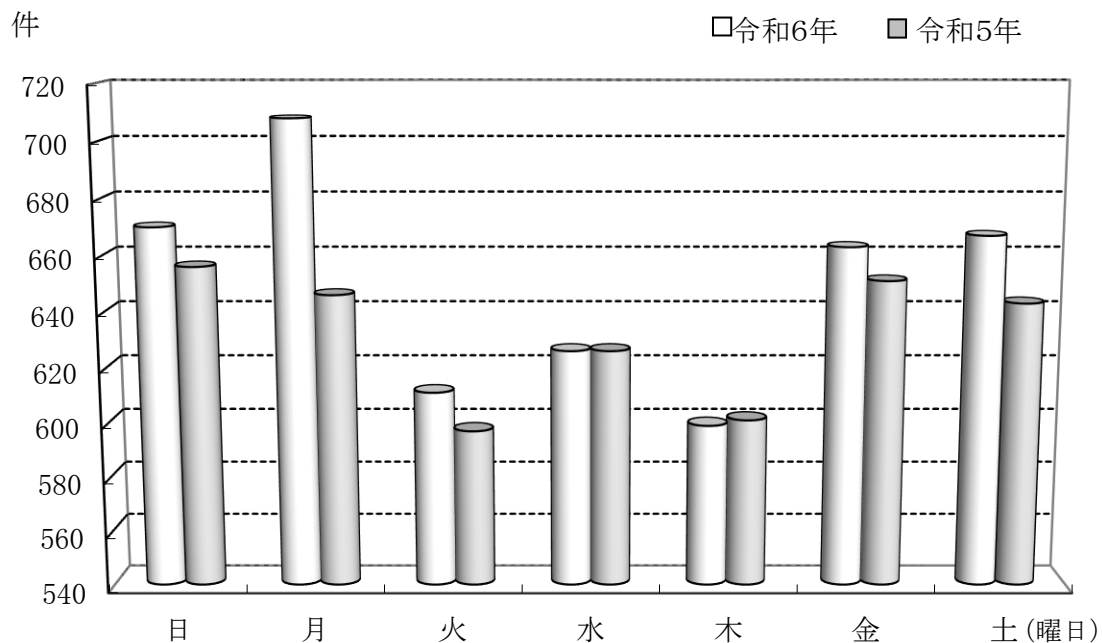
月別救急出場件数

7月が最も多く、続いて8月となっています。最も少ないのは3月です。
1ヶ月平均378.7件、1日平均12.4件の出場です。



曜日別救急出場件数

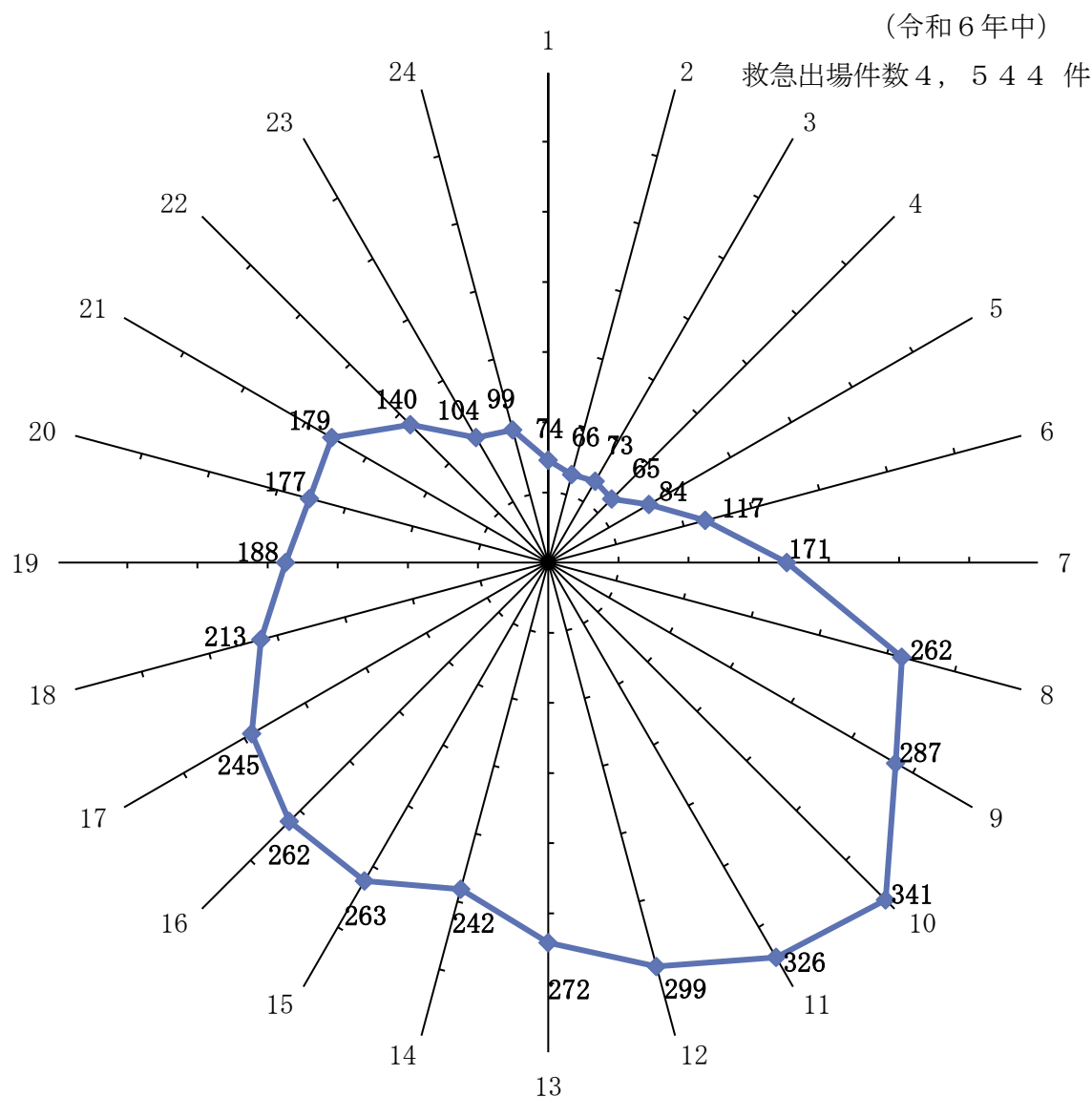
月曜日が最も多く、続いて日曜日となっています。最も少ないのは木曜日です。



年 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	合 計
令和6年	670	708	611	626	599	663	667	4,544
令和5年	656	646	597	626	601	651	643	4,420

時間別救急出場件数

10時台が最も多く、最も少ないのは4時台となっています。



現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）

現場到着所要時間の平均は8.6分です。5分以上10分未満で現場到着したものが2,909件で最も多くなっています。

(令和6年中)

事故種別 \ 所要時間	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	計	平均時間 (分)
急 病	9	152	1,903	764	58	2,886	8.5
交通事故	3	15	126	93	8	245	9.3
一般負傷	3	49	547	220	26	845	8.8
そ の 他	4	99	333	116	16	568	8.5
計	19	315	2,909	1,193	108	4,544	8.6

病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）

病院収容所要時間の平均は44.5分で、最も多いのが30分以上60分未満の2,836人で全体の68.6%を占めています。

（令和6年中）

所要時間 事故種別	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	計	平均時間 (分)
急病		11	429	1,849	303	19	2,611	43.1
交通事故		2	10	134	67	2	215	53.7
一般負傷		2	75	490	191	9	767	50.1
その他		1	125	363	49	2	540	39.5
計		16	639	2,836	610	32	4,133	44.5

事故種別救急搬送人員

急病と一般負傷の増加が目立っています。

（令和6年中）

事故種別 年	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
令和6年	1			215	80	50	767	16	12	2,611	381	4,133
令和5年	6			242	82	74	691	13	26	2,533	339	4,006
増減	△5			△27	△2	△24	76	3	△14	78	42	127

（△印は減少）

傷病程度別救急搬送人員

軽症2,185人（52.9%）、中等症1,763人（42.7%）、重症142人（3.4%）、死亡43人（1.0%）の順となっています。

（令和6年中）

傷病程度 事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
死亡				2			2		2	36	1	43
重症				15	3	2	8		3	97	14	142
中等症				49	26	7	286	4	4	1,026	361	1,763
軽症	1			149	51	41	471	12	3	1,452	5	2,185
その他												
計	1			215	80	50	767	16	12	2,611	381	4,133

発生場所別救急出場件数

住宅での発生が2, 662件で全体の58. 6%です。
そのうち急病が2, 142件で80. 5%を占めています。

(令和6年中)

発生場所 事故種別	住宅	公衆出入 場 所	仕事場	道路	その他	計
急 病	2, 142	552	53	93	46	2, 886
交通事故	2	13	1	221	8	245
一般負傷	490	160	3	130	62	845
そ の 他	28	456	69	8	7	568
計	2, 662	1, 181	126	452	123	4, 544

年齢別事故種別搬送人員

高齢者（65歳以上）の搬送は2, 840人で全体の68. 7%です。
そのうち急病が1, 857人で65. 4%を占めています。

(令和6年中)

年齢別 事故種	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
新生児（28日未満）	1				1
乳幼児（28日～6歳）	110	1	31	2	144
少 年（7歳～17歳）	60	18	31	30	139
成 人（18歳～64歳）	583	130	119	177	1, 009
高齢者（65歳以上）	1, 857	66	586	331	2, 840
計	2, 611	215	767	540	4, 133

性別科目別搬送人員

性別では、男性が多くなっています。科目別では内科が2, 277人で最も多く、
整形外科、脳神経外科の順となっています。

(令和6年中)

科目別	外科		整形外科		脳神経外科		内科		小児科		精神神経科	
性 別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	138	65	316	381	392	297	1, 213	1, 064	91	71		4
科目別	産婦人科		眼科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		その他		合計	
性 別	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	25		9	2	6	8	33	11	4	3	2, 202	1, 931

高速道路における救急活動状況

(令和6年中)

事故種別 高速道別		急病	交通事故	一般負傷	その他	計
中国道	出動件数	3	1			4
	搬送人員	3				3
	不搬送		1			1
舞鶴道	出動件数	1		1		2
	搬送人員	1		1		2
	不搬送					
山陽道	出動件数	23	4	4		31
	搬送人員	20	6	4		30
	不搬送	3				3
計	出動件数	27	5	5		37
	搬送人員	24	6	5		35
	不搬送	3	1			4

応急処置件数

(令和6年中)

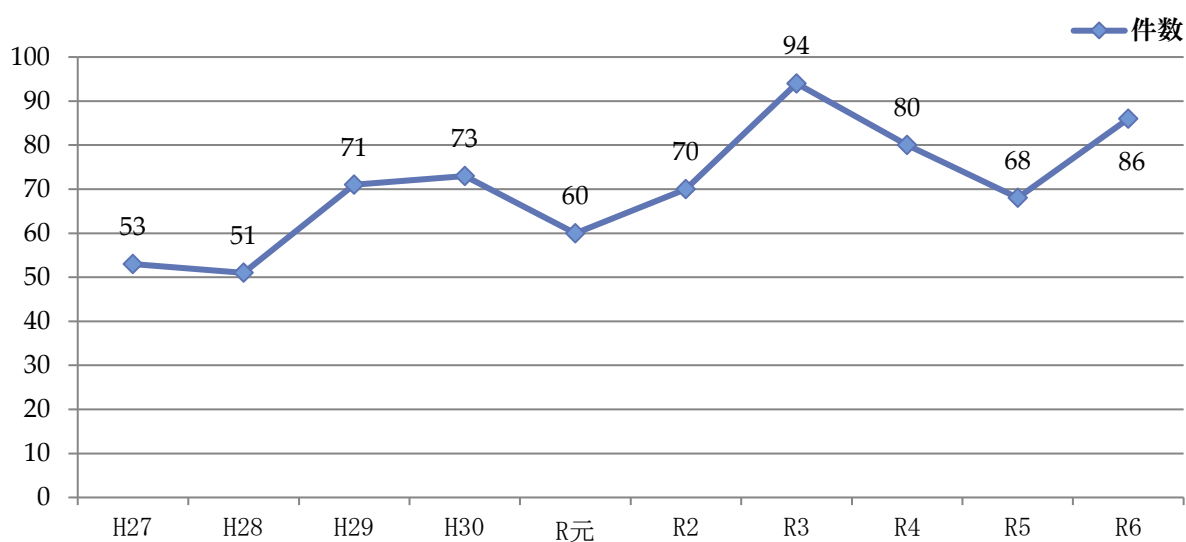
事故種別 応急処置		急病	交通事故	一般負傷	その他	計
応急処置対象人員(人)		2,611	215	767	540	4,133
止	血	12	25	78	18	133
被	覆	8	37	159	42	246
固	定	13	90	89	27	219
保	温	62	16	6	8	92
酸	素 吸 入	495	24	44	119	682
人	工 呼 吸					
胸	骨 圧 迫					
心	肺 蘇 生	76	3	6	5	90
在	宅 療 法 継 続	34		2		36
血	圧 測 定	2,525	212	760	535	4,032
聴	診 器	442	65	54	55	616
血	中酸素飽和度測定	2,551	212	762	535	4,060
心	電 図 測 定	1,924	87	304	330	2,645
気	道 確 保	136	5	13	12	166
	経鼻エアウェイ	3				3
	喉頭鏡・鉗子			1	1	2
	* ランゲアルマスク等	49		1	3	53
	* 気管挿管	3	1	4	3	11
	以 外	81	5	8	5	99
除	細 動	11				11
* 静	脈 路 確 保	64	6	6	5	81
	* うち心肺機能停止前	9	4	1	3	17
	* うち心肺機能停止後	55	2	5	2	64
* 薬	剤 投 与	31		4	1	36
* 血	糖 測 定	5				5
* ブ	ドウ糖 投 与	1				1
そ	の 他	2,608	213	765	547	4,133
計		10,998	995	3,052	2,239	17,284

*印は、救急救命士の特定行為

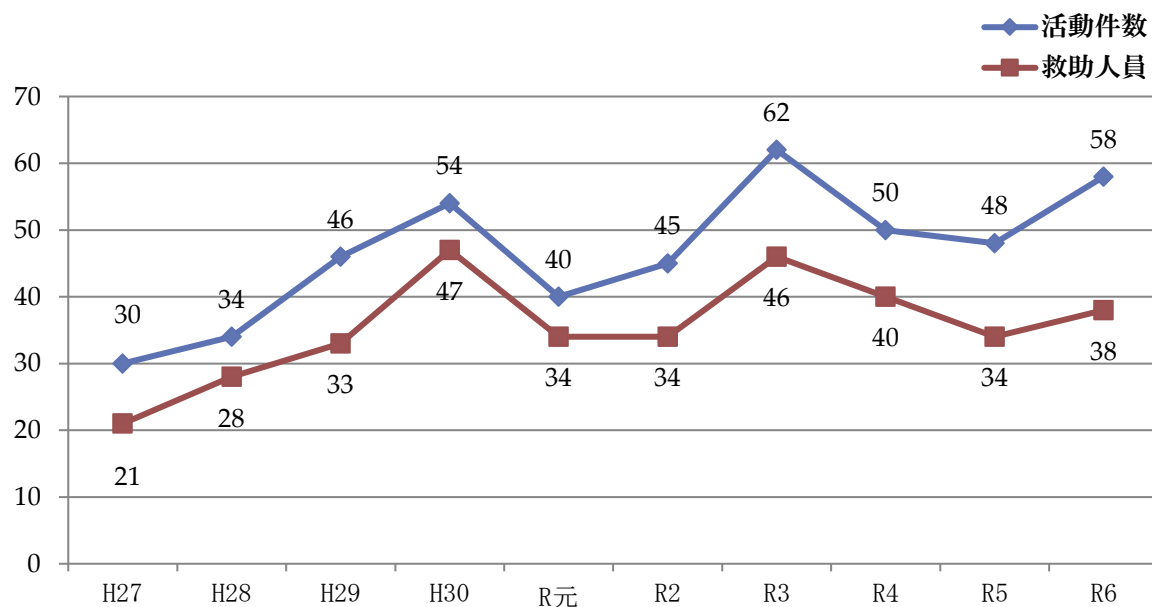
救助編



救助出動件数の推移



救助活動件数・救助人員の推移



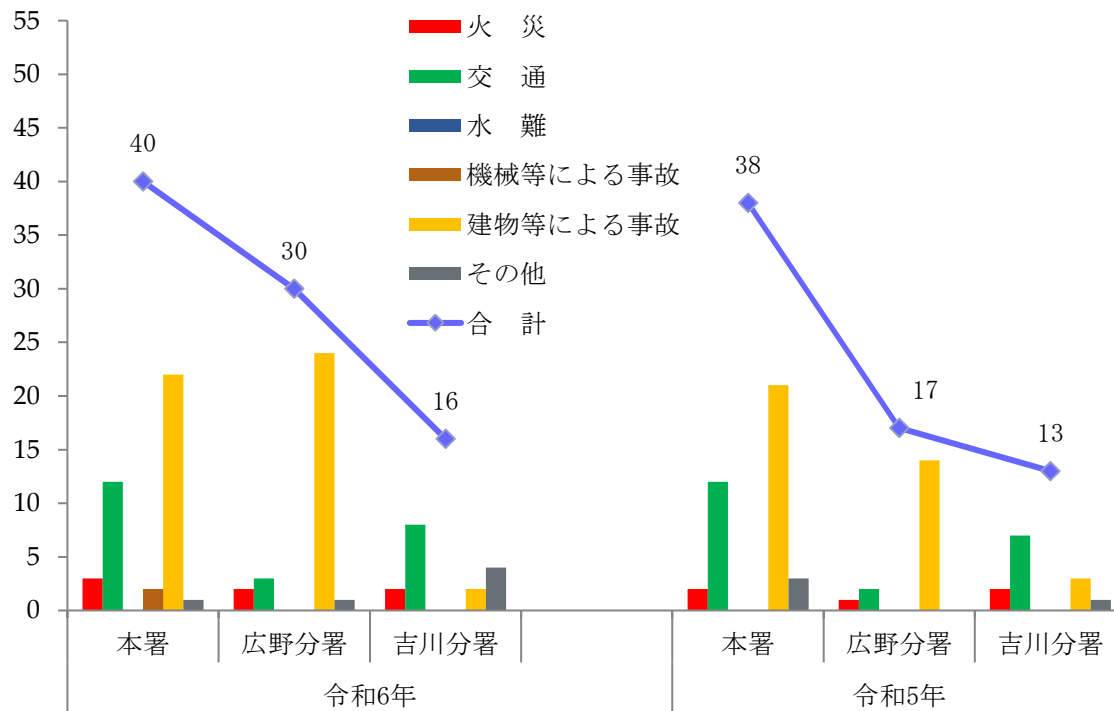
救助出動状況

出動件数 86 件で、前年比 18 件増加、救助人員についても 38 人で、前年比 4 人増加となっています。

年 \ 区分	出動件数 (件)	活動件数 (件)	救助人員 (人)	出動台数 (台)	出動人員 (人)
令和 6 年	86	58	38	230	659
令和 5 年	68	48	34	201	573

署別救助出動件数

本署の救助件数は2件増加、広野分署は13件の増加、吉川分署は3件の減少となりました。



地区別救助出動件数

三木地区が24件と最も多く、続いて自由が丘地区12件、三木南地区11件の順となっています。事故種別では、建物等による事故が48件と最も多く、続いて交通事故が23件となっています。

(令和6年中)

種別		火災	交通事故	水難事故	機械による事故	建物等による事故	その他	合計
地区	三木	3	2		1	18		24
	三木南	2	4			5		11
	別所		3		1	4		8
	志染		4			2		6
	細川		1				2	3
	口吉川	2	2				1	5
	緑が丘		1			5	1	7
	自由が丘		1			11		12
	青山					1		1
	吉川		5			2	2	9
	管外							0
	その他							0
計	出動件数	7	23	0	2	48	6	86
	活動件数	7	16	0	1	30	4	58
	救助人員	0	16	0	1	16	5	38

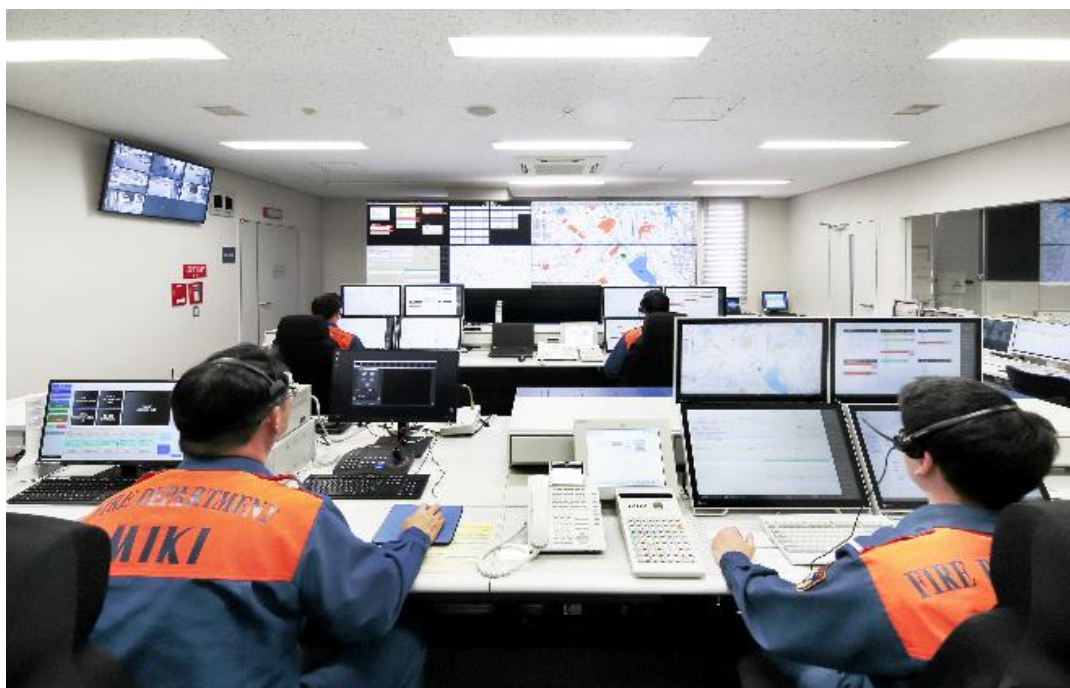
発生場所別救助出動件数

住居での事故等が５１件（５９．３％）で、道路での事故が２０件（２３．３％）となっています。

（令和６年中）

場所 \ 種別		火災	交通事故	水難事故	機械による事故	建物等による事故	その他	合計
屋内	住居	3			1	47		51
	その他	4						4
屋外	高速道							0
	道路		19				1	20
	池川等		3					3
	その他		1		1	1	5	8
地下								0
その他								0
合計		7	23	0	2	48	6	86

指令編



指令業務

119番受信件数

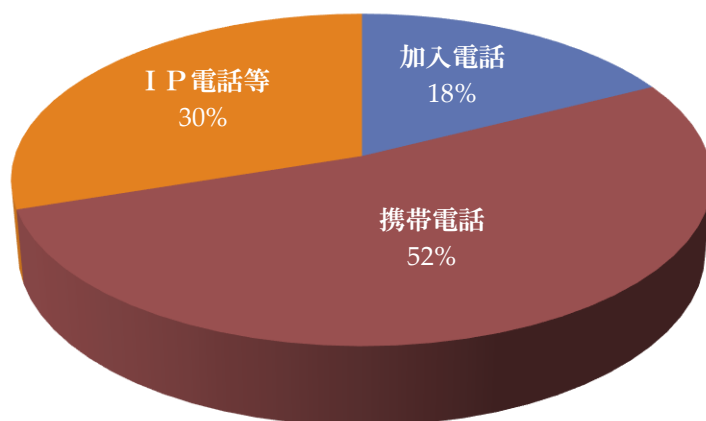
種 別	年別・構成比	令和6年 (件)	構成比 (%)	令和5年 (件)	構成比 (%)	前年比 (件)
火 災		47	0.7	55	0.8	△ 8
救 急		3,798	58.3	4,015	57.8	△ 217
そ の 他 災 害		78	1.2	76	1.1	2
火災・救急問い合わせ		528	8.1	482	6.9	46
病 院 紹 介		987	15.1	1,149	16.5	△ 162
ま ち が い		590	9.1	730	10.5	△ 140
い た ず ら		18	0.3	11	0.2	7
訓 練 通 報		271	4.2	291	4.2	△ 20
テ ス ト		202	3.1	136	2.0	66
計		6,519	100	6,945	100	△ 426

※ その他災害とは、火災・救急に含まれない救助・水防等の災害です。

(△印は減少)

119番通報件数（回線区分別）

総通報件数 6,519 件



(令和6年中)

加入電話	1,143
携帯電話	3,415
I P 電話等	1,961
総通報件数	6,519

通信指令系統

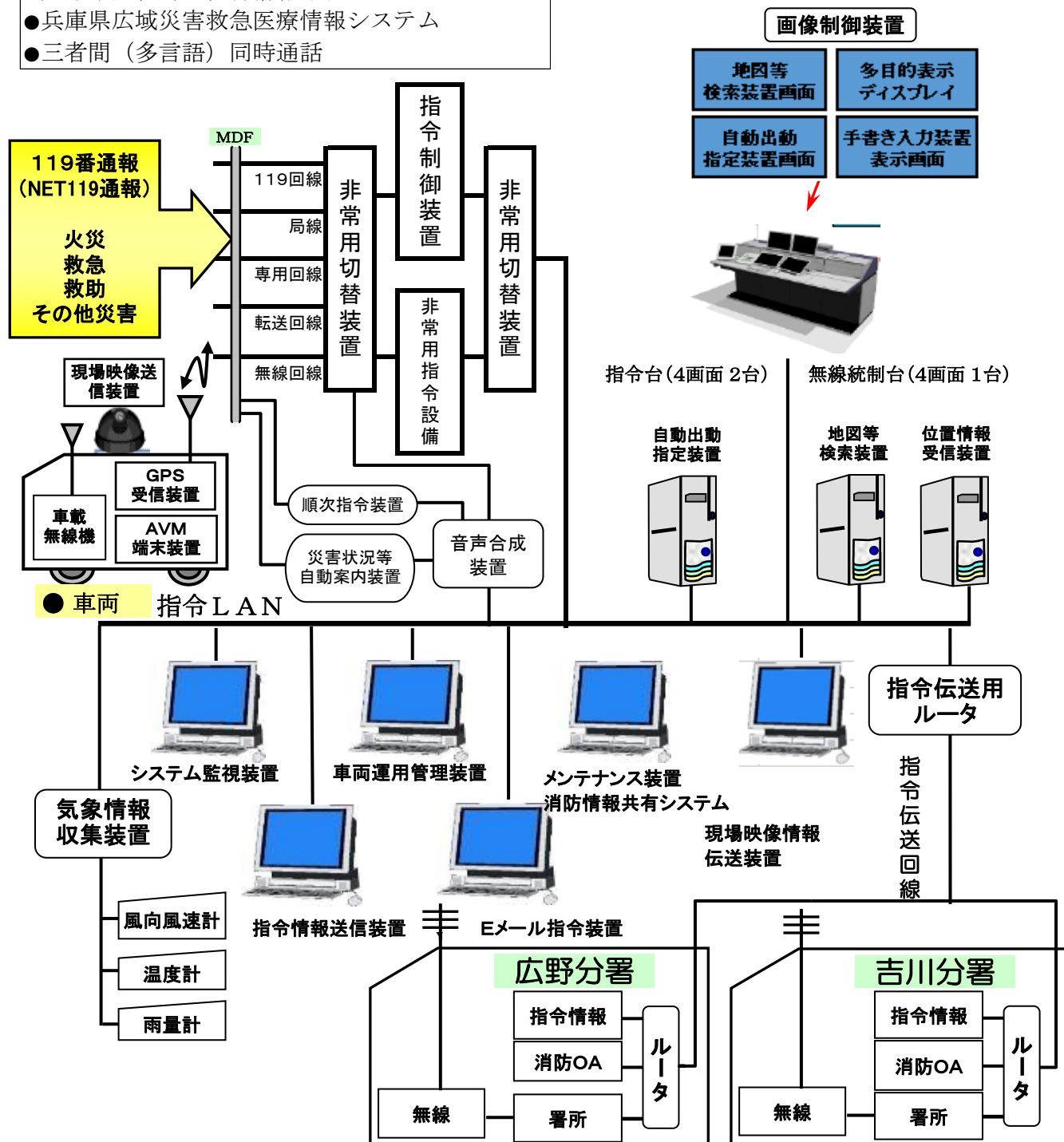
三木市消防本部では、119番通報の位置情報通知システム（統合型）などの機能を備えた高機能消防指令システムを導入しています。

同システムでは、携帯電話・固定電話・IP電話等からの119番通報があった場合、位置情報通知システムにより短時間で通報者の位置情報がモニター画面に表示されます。

こうした機能により、消防隊や救急隊が災害現場に到着するまでの時間が短縮され、また初動体制の強化が図られ、災害による被害の軽減・救命率の向上などが期待されます。

通信系統図

- 兵庫県衛星通信ネットワークシステム
- 兵庫県災害対応総合情報ネットワークシステム
- 兵庫県広域災害救急医療情報システム
- 三者間（多言語）同時通話



高機能消防指令システム機器一覧

(令和6年中)

	機 器 名	数 量	備 考
1	指令装置		
	(1) 指令台	2 台	輻輳時、最大4事案同時対応
	(2) 自動出動指定装置		
	ア 制御処理装置	1 式	サーバ (制御処理装置)
	イ ディスプレイ	2 面	23インチ、ワイドタッチセンサー液晶
	(3) 地図等検索装置		
	ア 地図等検索装置	1 式	
	イ 地図用ディスプレイ	2 台	23インチ、ワイドタッチセンサー液晶
	(4) 多目的情報処理装置		
	ア 多目的情報処理装置	1 式	
	イ 地図用ディスプレイ	2 面	23インチ、ワイドタッチセンサー液晶
	(5) 手書き入力装置	2 台	事案処理時のメモ書き
	(6) 指令操作端末	4 台	ハードキー操作装置
	(7) 長時間録音装置	1 台	通話録音時間3万時間程度
	(8) 指令制御装置	1 式	多重系
	(9) 非常指令装置	1 式	指令制御装置障害発生時のバックアップ
	(10) 携帯電話・IP電話受信転送装置	1式	
2	無線統制台		
	(1) 無線統制台	1 台	輻輳時、最大2事案同時対応
	(2) 自動出動指定装置		
	ア 制御処理装置		指令台に含む
	イ ディスプレイ	1 面	23インチ、ワイドタッチセンサー液晶
	(3) 地図等検索装置		
	ア 地図等検索装置		指令台に含む
	イ 地図用ディスプレイ	1 面	23インチ、ワイドタッチセンサー液晶
	(4) 多目的情報処理装置	1 式	
	ア 多目的情報処理装置	1 式	
	イ 地図用ディスプレイ	1 面	23インチ、ワイドタッチセンサー液晶
	(5) 手書き入力装置	1 台	事案処理時のメモ書き
	(6) 指令操作端末	2 台	ハードキー操作装置
3	表示盤		
	(1) 車両運用表示盤	1 式	46インチ4面マルチ×2
	(2) 支援情報表示盤	1 式	
	(3) 多目的情報表示装置	1 式	
	(4) 映像制御装置	1 式	
4	指令電送装置		
	(1) 指令情報送信装置	1 式	自動地図サーバに含む
	(2) 指令情報出力装置	3 式	本署・広野分署・吉川分署
5	気象情報収集装置	1 式	

	機 器 名	数 量	備 考
6	災害状況等自動案内装置	1 式	
7	順次指令装置	1 式	音声合成装置及びメーラー斉指令装置と連動
8	音声合成装置	1 式	
9	出動車両運用管理装置		
	(1) 管理装置	1 式	
	(2) 車両運用端末装置	2 2 台	Ⅲ型 A V M
	(3) 車外設定端末装置	1 2 台	
10	システム監視装置	1 式	
11	データメンテナンス装置	1 式	
12	電源設備		
	(1) 無停電電源装置 本部	4 台	指令台、各署所端末
	(2) 直流電源装置 (DC48V系)	1 台	
	(3) 非常用発電機 本部	3 台	本署、広野分署、吉川分署
13	消防無線電話装置		
	(1) デジタル無線		
	ア 260MHz無線電話装置 (遠隔制御器付)	6 台	活動波 1・活動波 2・共通波・統制波 1・2・3
	イ 無線電話装置	3 台	吉川分署 (活動波 1・活動波 2・共通波)
	ウ 空中線	8 基	スリーブ型 (本署：4 吉川：4)
	エ 妨害波除去フィルタ	2 式	本署・吉川総合公園
	オ 同軸避雷器	4 台	
14	ネットワーク装置	1 式	
15	セキュリティ装置	1 式	
16	統合型位置情報通知装置	1 式	二重化構成
17	補助受付装置	1 台	電話機相当
18	メーラー斉指令装置	1 式	通信指令、順次指令装置と連動
19	駆け込み通報装置	2 式	広野分署、吉川分署
20	F A X119受信装置	1 式	
21	N E T119システム	1 式	
22	監視カメラ		屋外用 4 台 屋内用 1 台
	(1) 旋回監視カメラ	7 台	
	(2) 画像収集制御装置	1 式	
	(3) 監視画像表示盤	1 面	空中線付き 署所設置
23	消防 O A システム		
	(1) 消防 O A 制御装置	1 式	DBサーバ/APサーバ
	(2) 消防 O A バックアップサーバ	1 台	
	(3) 消防 O A 端末装置	2 2 台	査察・救急兼用端末含む
24	消防庁内放送設備		
	(1) 非常用放送設備	3 式	本部、広野、吉川
25	無給電非常用受付装置	1 式	
26	現場画像映像情報伝送装置		
	(1) 車載映像受信装置	1 式	指令室
	(2) 車載映像送信装置	4 式	車載カメラ、送信装置
	(3) 現場映像送信装置	4 台	救急タブレット

消防通信施設状況

(令和7年3月31日現在)

区分	回線種別	回線数	区分	回線種別	回線数
指令装置	119番受付回線	4	指令装置	順次指令回線	2
	119番携帯電話受付回線	4		Eメール指令回線	1
	指令台加入電話回線	2		無線前進基地局専用回線	6
	衛星通信回線	2		兵庫県災害対応総合情報ネットワーク回線	1
	高速道専用回線	1		兵庫県広域災害・救急医療情報システム回線	1
	災害問合せ回線	2		消防無線モニターシステム回線	1

デジタル無線

(令和7年3月31日現在)

消防無線	基地局	みきしょうほんぶ 【三木市消防本部】 活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1・2・3	10W	1基
	前進基地局	みきしょうよかわ 【吉川総合公園】 活動波1ch、活動波2ch、主運用通波	10W	1基
	陸上移動局（車載用）	活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1.2.3、防災相互波	5W	22局
	陸上移動局（携帯用）	活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1.2.3	1W	20局
	陸上移動局（可搬型）	活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1.2.3	5W	1局
	陸上移動局（卓上型）	活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1.2.3	5W	2局

アナログ無線

(令和7年3月31日現在)

署活系	本署	署活1、署活2、県波、防災相互波	1W	33局
	広野	署活1、署活2、県波、防災相互波	1W	7局
	吉川	署活1、署活2、県波、防災相互波	1W	7局

火災出動体制

(令和7年3月31日現在)

出動区分	偵察出動			第1出動			第2出動			第3出動			特命出動	応援出動
管内区分	本署管内	広野管内	吉川管内	本署管内	広野管内	吉川管内	本署管内	広野管内	吉川管内	本署管内	広野管内	吉川管内	管内全域	隣接地応援
出動部隊数	本部						1	1	1	2	2	2	特命により必要な部隊数	要請部隊数
	本署	1		2	1	1	3	2	2	3	3	2		
	広野		1	1	2		1	2		2	2	1		
	吉川			1		2			2			2		
基準出動隊数	1			3			5			7				

消防無線通信施設

(令和7年3月31日現在)

署所	無線局種別	呼出名称	配置場所	方式	空中線電力	メーカー	購入年月日	備考
消防本部	基地局	みきしょうほんぶ	指令室	デジタル	10W	NEC	平成26年 3月31日	市単
	前進基地局	みきしょうよかわ	吉川総合公園	デジタル	10W	NEC	平成26年 3月31日	市単
	陸上移動局(車載用)	〃 5	団 広報車 積載	デジ・アナ	5W	NEC	平成26年 3月31日	市単
	〃	〃 2 1	消防21号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 2 3	消防23号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
消防署	陸上移動局(車載用)	みきしょう 1	消防 1号車積載	デジ・アナ	5W	NEC	平成26年 3月31日	市単
	〃	〃 3	消防 3号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 4	消防 4号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 6	消防 6号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 7	消防 7号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 8	消防 8号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 1 0	消防10号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 1 1	消防11号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 1 2	消防12号車積載	〃	〃	〃	令和元年12月12日	〃
	〃	〃 3 0	消防30号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 8 0	消防80号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	陸上移動局(可搬型)	みきしょう 3 0 0	消防 7号車積載	デジタル	5W	NEC	平成26年 7月31日	市単
	陸上移動局(携帯用)	みきしょう 2 0 1	消防署	デジタル	1W	NEC	平成26年 7月31日	市単
	〃	〃 2 0 2	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 0 3	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 0 4	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 0 5	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 0 6	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 0 7	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 0 8	消防署	〃	〃	〃	平成28年12月15日	〃
	〃	〃 2 0 9	消防署	〃	〃	〃	平成29年12月20日	〃
	〃	〃 2 1 0	消防署	〃	〃	〃	平成31年 3月25日	〃
	〃	〃 2 1 1	消防署	〃	〃	〃	令和元年12月12日	〃
	〃	〃 2 1 2	消防署	〃	〃	〃	令和元年12月12日	〃
	陸上移動局(署活系)	みきほんしょ No, 1～2 3	消防署	アナログ	1W	ICOM	平成28年 1月18日	市単
	〃	No, 2 4、2 5	消防署	〃	〃	〃	平成29年12月25日	〃
	〃	No, 2 6～2 8	消防署	〃	〃	〃	平成31年 3月25日	〃
	〃	No, 2 9～3 3	消防署	〃	〃	〃	令和元年12月12日	〃

消防団編

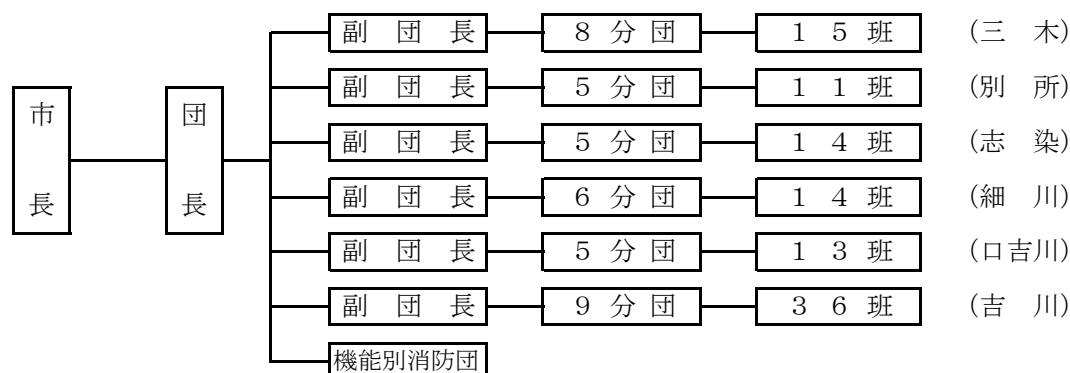


消防団の現況

消防団は、本業を持ちながら「自分たちのまちは自分たちで守る」という強い精神で、地域の安全・安心を守るため活躍している人の集団です。

団長以下1,050名の団員が消防・防災に関する知識や技術を習得し、各種災害から地域住民の生命や財産を守るために活躍しています。

機 構



令和6年度消防団の主な行事

4月 7日	三木市消防大会
4月21日	正副分団長会議、機関員・新入団員教養訓練
5月24日	北播消防協議会総会
5月26日	北播消防操法大会三木市代表選考会
7月 7日	北播消防操法大会
7月29日	企業連携消防団訓練①(大栄環境㈱三木リサイクルセンター)
7月29日	緊急自動車安全運転講習会
9月29日	三木市総合防災訓練・防災フェスティバル
10月18日	正副分団長会議
11月 1日～12月 8日	秋の訓練強化月間に伴う各地区消防訓練
11月 2日～11月 3日	消防団員指揮幹部科(分団指揮課程)
11月 5日	企業連携消防団訓練②(極東開発工業㈱三木工場)
11月 9日～11月15日	秋季全国火災予防運動実施
11月14日	企業連携消防団訓練③(大栄環境㈱三木リサイクルセンター)
11月16日	ひょうご消防のつどい2024
12月18日	企業連携消防団訓練④(極東開発工業㈱三木工場)
12月29日～12月30日	年末火災特別警戒
1月19日	自由が丘連合自主防災訓練
1月26日	文化財防火デー消防訓練
1月31日	企業連携消防団訓練⑤(大栄環境㈱三木リサイクルセンター)
2月 7日	若手消防団員意見交換会
2月19日	企業連携消防団訓練⑥(極東開発工業㈱三木工場)
3月 1日～3月 7日	春季全国火災予防運動実施
3月 2日	機動隊合同訓練
3月 8日～3月 9日	消防団員指揮幹部科(現場指揮課程)
3月16日	専任分団長等教養訓練

消防団員在職年数

(令和7年4月1日現在)

在職年数	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	総計
05年未満	0	0	2	4	11	10	100	127
05年～09年	0	0	11	16	21	23	110	181
10年～14年	0	0	13	12	21	18	131	195
15年～19年	0	0	4	17	18	18	132	189
20年～24年	0	2	8	10	10	16	92	138
25年～29年	1	3	4	11	11	13	89	132
30年以上	0	1	0	2	9	3	73	88
総計	1	6	42	72	101	101	727	1,050

消防団員年齢調べ

(令和7年4月1日現在)

年齢区分	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	総計
18才～19才	0	0	0	0	0	0	1	1
20才～24才	0	0	0	0	2	1	13	16
25才～29才	0	0	2	2	8	4	37	53
30才～34才	0	0	7	7	9	9	78	110
35才～39才	0	0	11	16	20	27	98	172
40才～44才	0	1	6	17	14	18	166	222
45才～49才	0	3	4	20	21	25	140	213
50才～54才	1	2	11	8	21	13	105	161
55才～59才	0	0	1	2	5	2	55	65
60才～64才	0	0	0	0	1	1	27	29
65才以上	0	0	0	0	0	1	7	8
総計	1	6	42	72	101	101	727	1,050
平均年齢	52.0	47.7	41.7	42.3	42.7	42.4	43.7	43.3

消防団分団・階級別実員数

(令和7年4月1日現在)

分団・班名			階 級	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	計
団 本 部				1	6					29	36
三 木	第 1 分団	宿原・与呂木・平井				1	2	3	3	15	24
	第 2 分 団					1	1	1	1	13	17
	第 3 分団	岩宮・久留美				1	1	2	2	17	23
	第 4 分 団					1	1	1	1	10	14
	第 5 分団	跡部・加佐東・加佐西				2	2	3	3	22	32
	第 6 分 団					1	1	1	1	13	17
	第 7 分団	平田・大村・鳥町				1	2	3	3	28	37
	第 8 分 団					1	1	1	1	13	17
	小 計			0	0	9	11	15	15	131	181
別 所	第 1 分団	高木・小林				1	1	2	2	23	29
	第 2 分団	東這田・興治				2	1	2	2	24	31
	第 3 分団	西這田北・西這田南・花尻				1	2	3	3	24	33
	第 4 分団	石野・下石野				1	1	2	2	28	34
	第 5 分団	正法寺・和田				1		1	1	7	10
	小 計			0	0	6	5	10	10	106	137
志 染	第 1 分団	戸田・三津田・御坂				1	2	3	3	33	42
	第 2 分団	大谷・井上・志染中				1	2	3	3	19	28
	第 3 分団	窟屋・高男寺・細目				1	3	3	3	19	29
	第 4 分団	安福田・東吉田・吉田				1	2	3	3	23	32
	第 5 分団	四合谷・広野				1	1	2	2	12	18
	小 計			0	0	5	10	14	14	106	149
細 川	第 1 分 団					1	1	1	1	11	15
	第 2 分 団					1	1	0	0	4	6
	第 3 分 団					1	1	1	1	11	15
	第 4 分団	増田・豊地・佐野				1	2	3	3	16	25
	第 5 分団	金屋・桃津・高篠・高畑				2	2	4	4	33	45
	第 6 分団	細川中上・細川中・西・脇川				1	3	4	4	23	35
	小 計			0	0	7	10	13	13	98	141
口 吉 川	第 1 分団	久次・里脇				1	1	2	2	14	20
	第 2 分団	槇・大島				2	1	2	2	22	29
	第 3 分団	笹原・殿畑・南畑				1	2	3	3	13	22
	第 4 分団	保木・楮原・三和				1	2	3	3	18	27
	第 5 分団	東中・西中・桃坂				1	2	3	3	16	25
	小 計			0	0	6	8	13	13	83	123
吉 川	第 1 分団	稲田・金会・福吉・毘沙門				1	3	4	4	25	37
	第 2 分団	市野瀬・東田・楠原・奥谷				1	4	4	4	18	31
	第 3 分団	豊岡・南豊岡・南水上・北水上				1	3	4	4	24	36
	第 4 分団	吉安上・吉安下大沢・大畑・西奥・米田				1	4	5	5	21	36
	第 5 分団	鍛冶屋・貸潮・渡瀬法光寺・出晴				1	3	4	4	21	33
	第 6 分団	山上・長谷・上松・田谷・湯谷				1	4	5	5	17	32
	第 7 分団	新田・上荒川・畑枝福井				1	2	3	3	16	25
	第 8 分団	富岡・前田・上中				1	2	3	3	17	26
	第 9 分団	古川・実楽・古市・有安				1	3	4	4	15	27
	小 計			0	0	9	28	36	36	174	283
合 計			1	6	42	72	101	101	727	1,050	

消防団ポンプ現勢一覧表

(令和7年4月1日現在)

所 属		消防ポンプ	機 種	経年	ポンプの性能		配置年月	
地区	分団・班				形 式	級		
三 木	1	宿原	小型動力ポンプ	シバウラ	06/07	一段タービン	B 3	H30.09
		与呂木	小型動力ポンプ	シバウラ	08/06	一段タービン	B 3	H28.10
		平井	軽四輪積載車	スズキ	16/05	搬送車タイプ	—	H20.11
			小型動力ポンプ	トーハツ	01/03	一段タービン	B 3	R06.01
	第 2 分 団	積載車	ニッサン	15/08	—	—	H21.08	
		小型動力ポンプ	ラビット	21/05	一段タービン	B 3	H15.11	
	3	岩宮	軽四輪積載車	スズキ	18/02	搬送車タイプ	—	H19.02
			小型動力ポンプ	トーハツ	05/07	一段タービン	B 3	R01.09
		久留美	小型動力ポンプ	トーハツ	12/05	一段タービン	B 3	H24.11
	第 4 分 団	消防ポンプ自動車	イスズ	07/02	二段バランスタービン	A 2	H30.02	
	5	跡部	小型動力ポンプ	ラビット	27/05	一段タービン	B 3	H09.11
		加佐東	軽四輪積載車	ダイハツ	04/05	搬送車タイプ	—	R02.11
			小型動力ポンプ	トーハツ	19/02	一段タービン	B 3	H18.02
		加佐西	軽四輪積載車	ダイハツ	05/07	デッキタイプ	—	R01.09
	小型動力ポンプ		トーハツ	05/07	一段タービン	B 3	R01.09	
	第 6 分 団	積載車	ニッサン	13/07	—	—	H23.09	
		小型動力ポンプ	ラビット	15/02	一段タービン	B 3	H22.02	
	7	平田	小型動力ポンプ	トーハツ	18/02	一段タービン	B 3	H19.02
		大村	小型動力ポンプ	ラビット	26/05	一段タービン	B 3	H10.11
		鳥町	小型動力ポンプ	シバウラ	06/07	一段タービン	B 3	H30.09
		第 8 分 団	消防ポンプ自動車	トヨタ	06/02	二段バランスタービン	A 2	H31.02

別 所	1	高木	軽四輪積載車	スズキ	09/05	—	—	H27.11
			小型動力ポンプ	シバウラ	14/06	一段タービン	B 3	H22.10
		小林	軽四輪積載車	ダイハツ	27/12	搬送車タイプ	—	H09.04
			小型動力ポンプ	ラビット	28/05	一段タービン	B 3	H08.11
	2	東這田	小型動力ポンプ	トーハツ	05/07	一段タービン	B 3	R01.09
			軽四輪積載車	スズキ	17/05	搬送車タイプ	—	H19.11
		興治	小型動力ポンプ	シバウラ	11/05	一段タービン	B 3	H25.11
			軽四輪積載車	スズキ	16/05	搬送車タイプ	—	H20.11
	3	西這田北	小型動力ポンプ	ラビット	31/05	一段タービン	B 3	H05.11
			軽四輪積載車	ダイハツ	21/04	搬送車タイプ	—	H15.12
		西這田南	小型動力ポンプ	ラビット	23/05	一段タービン	B 3	H13.11
			軽四輪積載車	スズキ	17/01	搬送車タイプ	—	H20.03
		花尻	小型動力ポンプ	ラビット	28/05	一段タービン	B 3	H08.11
			軽四輪積載車	スズキ	18/02	搬送車タイプ	—	H19.02
	4	別所機動隊	小型動力ポンプ	ラビット	20/04	一段タービン	B 3	H16.12
			積載車	ニッサン	14/07	—	—	H22.09
		石野	小型動力ポンプ	トーハツ	14/07	一段タービン	B 3	H22.09
			軽四輪積載車	ダイハツ	30/05	一段タービン	B 3	H06.11
			小型動力ポンプ	ラビット	19/02	搬送車タイプ	—	H18.02
			軽四輪積載車	ダイハツ	10/06	一段タービン	B 3	H26.10
志 染	5	下石野	小型動力ポンプ	ラビット	27/05	一段タービン	B 3	H09.11
			軽四輪積載車	ダイハツ	32/05	一段タービン	B 3	H04.11
		正法寺	小型動力ポンプ	ラビット	13/06	搬送車タイプ	—	H23.10
			軽四輪積載車	ダイハツ	12/05	一段タービン	B 3	H24.11

志 染	1	戸田	軽四輪積載車	ダイハツ	15/08	搬送車タイプ	—	H21.08
			小型動力ポンプ	シバウラ	11/05	一段タービン	B 3	H25.11
		三津田	小型動力ポンプ	トーハツ	01/03	一段タービン	B 3	R06.01
			軽四輪積載車	ダイハツ	15/08	搬送車タイプ	—	H21.08
	2	御坂	小型動力ポンプ	シバウラ	00/05	一段タービン	B 3	R06.11
			軽四輪積載車	三菱	38/05	トラックタイプ	—	S61.11
		大谷	小型動力ポンプ	ラビット	38/06	一段タービン	B 3	S61.10
			軽四輪積載車	シバウラ	07/07	一段タービン	B 3	H29.09
		志染機動隊	救助資機材搭載	イスズ	14/07	—	—	H22.09
		志染中	小型動力ポンプ	シバウラ	14/07	一段タービン	B 2	H22.09

所 属		消防ポンプ	機 種	経年	ポンプの性能		配置年月	
地区	分団・班				形 式	級		
志 染	3	窟屋	軽四輪積載車	スズキ	16/05	搬送車タイプ	B 3	H20. 11
			小型動力ポンプ	トーハツ	17/04	一段タービン	B 3	H19. 12
		高男寺	小型動力ポンプ	ラビット	24/05	一段タービン	B 3	H12. 11
		細目	小型動力ポンプ	ラビット	29/04	一段タービン	B 3	H07. 12
	4	安福田	小型動力ポンプ	シバウラ	00/05	一段タービン	B 3	R06. 11
		東吉田	小型動力ポンプ	ラビット	10/06	一段タービン	B 3	H26. 10
		吉田	小型動力ポンプ	ラビット	31/05	一段タービン	B 3	H05. 11
	5	四合谷	小型動力ポンプ	シバウラ	14/06	一段タービン	B 3	H22. 10
		広野	小型動力ポンプ	ラビット	28/05	一段タービン	B 3	H08. 11

細 川	第 1 分団		軽四輪積載車	スズキ	20/01	搬送車タイプ	—	H17. 03
			小型動力ポンプ	シバウラ	08/06	一段タービン	B 3	H28. 10
			小型動力ポンプ	ラビット	13/05	一段タービン	B 3	H23. 11
	第 2 分団		小型動力ポンプ	トーハツ	16/05	一段タービン	B 3	H20. 11
			小型動力ポンプ	シバウラ	14/05	一段タービン	B 3	H22. 11
	第 3 分団		小型動力ポンプ	ラビット	29/04	一段タービン	B 3	H07. 12
		増田	小型動力ポンプ	ラビット	29/04	一段タービン	B 3	H07. 12
		細川機動隊	消防ポンプ自動車	イスズ	04/03	二段バランスタービン	A 2	R03. 01
	4	豊地	小型動力ポンプ	シバウラ	04/08	一段タービン	C 1	R02. 08
		佐野	小型動力ポンプ	ラビット	31/05	一段タービン	B 3	H05. 11
	5	金屋	小型動力ポンプ	ラビット	02/04	一段タービン	B 3	R04. 12
		桃津	小型動力ポンプ	シバウラ	04/06	一段タービン	B 3	R02. 10
		高篠	小型動力ポンプ	トーハツ	09/05	一段タービン	B 3	H27. 11
		高畑	小型動力ポンプ	ラビット	23/05	一段タービン	B 3	H13. 11
	6	細川中上	小型動力ポンプ	ラビット	24/05	一段タービン	B 3	H12. 11
		細川中	小型動力ポンプ	ラビット	30/05	一段タービン	B 3	H06. 11
		西	小型動力ポンプ	ラビット	32/05	一段タービン	B 3	H04. 11
		脇川	軽四輪積載車	ダイハツ	23/01	搬送車タイプ	—	H14. 03
			小型動力ポンプ	ラビット	27/05	一段タービン	B 3	H09. 11

吉 川	1	久次	軽四輪積載車	スズキ	17/01	搬送車タイプ	—	H20. 03
			小型動力ポンプ	ラビット	29/04	一段タービン	B 3	H07. 12
		里脇	軽四輪積載車	スズキ	14/04	搬送車タイプ	—	H22. 12
			小型動力ポンプ	ラビット	24/05	一段タービン	B 3	H12. 11
	2	槇	軽四輪積載車	ダイハツ	21/04	搬送車タイプ	—	H15. 12
			小型動力ポンプ	シバウラ	08/06	一段タービン	B 3	H28. 10
		大島	軽四輪積載車	ダイハツ	19/02	搬送車タイプ	—	H18. 02
			小型動力ポンプ	ラビット	21/05	一段タービン	B 3	H15. 11
	3	笹原	軽四輪積載車	スバル	34/08	トラックタイプ	—	H02. 08
			小型動力ポンプ	ラビット	34/05	一段タービン	B 3	H02. 11
		殿畑	軽四輪積載車	スズキ	17/05	搬送車タイプ	—	H19. 11
			小型動力ポンプ	トーハツ	11/02	一段タービン	B 3	H19. 02
		南畑	軽四輪積載車	スズキ	17/01	搬送車タイプ	—	H20. 03
			小型動力ポンプ	トーハツ	01/03	一段タービン	B 3	R06. 01
	4	保木	軽四輪積載車	スズキ	18/02	搬送車タイプ	—	H19. 02
			小型動力ポンプ	ラビット	31/05	一段タービン	B 3	H05. 11
		裾原	軽四輪積載車	スバル	23/03	トラックタイプ	—	H14. 01
			小型動力ポンプ	ラビット	23/03	一段タービン	B 3	H14. 01
		三和	小型動力ポンプ	トーハツ	18/02	一段タービン	B 3	H19. 02
	5	東中	軽四輪積載車	スズキ	10/05	搬送車タイプ	—	H26. 11
			小型動力ポンプ	トーハツ	19/02	一段タービン	B 3	H18. 02
		西中	軽四輪積載車	スズキ	10/05	搬送車タイプ	—	H26. 11
			小型動力ポンプ	ラビット	23/02	一段タービン	B 3	H14. 02
		桃坂	軽四輪積載車	スズキ	17/01	搬送車タイプ	—	H20. 03
			小型動力ポンプ	ラビット	25/05	一段タービン	B 3	H11. 11
	口吉川機動隊		積載車	日産	16/05	—	—	H20. 11
			小型動力ポンプ	トーハツ	18/02	一段タービン	B 3	H19. 02

所 属		消防ポンプ	機 種	経年	ポンプの性能		配置年月		
地区	分団・班				形 式	級			
吉 川	1	稲田	軽四輪積載車	ミツビシ	37/03	トラックタイプ	—	S63.01	
			小型動力ポンプ	トーハツ	09/05	一段タービン	B 3	H27.11	
		金会	積載車	ニッサン	34/09	—————	—	H02.07	
			小型動力ポンプ	ラビット	34/09	一段タービン	B 2	H02.07	
		福吉	軽四輪積載車	スバル	27/05	トラックタイプ	—	H09.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	10/06	一段タービン	B 3	H26.10	
		毘沙門	軽四輪積載車	スバル	31/05	トラックタイプ	—	H05.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	13/05	一段タービン	B 3	H23.11	
	2	市野瀬	軽四輪積載車	スバル	22/05	トラックタイプ	—	H14.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	22/05	一段タービン	B 2	H14.11	
		東田	軽四輪積載車	ダイハツ	05/07	搬送車タイプ	—	R01.09	
			小型動力ポンプ	トーハツ	05/07	一段タービン	B 3	R01.09	
		楠原	軽四輪積載車	スバル	21/05	トラックタイプ	—	H15.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	21/05	一段タービン	B 2	H15.11	
		奥谷	軽四輪積載車	スバル	34/01	トラックタイプ	—	H03.03	
			小型動力ポンプ	シバウラ	07/07	一段タービン	B 3	H29.09	
	3	豊岡	軽四輪積載車	スバル	23/06	トラックタイプ	—	H13.10	
			小型動力ポンプ	トーハツ	17/04	一段タービン	B 3	H19.12	
		南豊岡	軽四輪積載車	スバル	21/05	トラックタイプ	—	H15.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	21/05	一段タービン	B 2	H15.11	
		南水上	軽四輪積載車	ダイハツ	00/05	トラックタイプ	—	R07.01	
			小型動力ポンプ	シバウラ	00/05	一段タービン	B 3	R06.11	
		北水上	軽四輪積載車	スバル	00/05	トラックタイプ	—	R06.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	04/06	一段タービン	B 3	R02.10	
	4	吉安上	軽四輪積載車	スズキ	14/05	搬送車タイプ	—	H22.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	27/04	一段タービン	B 2	H09.12	
		吉安下・大沢	軽四輪積載車	スバル	31/04	トラックタイプ	—	H05.12	
			小型動力ポンプ	ラビット	31/04	一段タービン	B 2	H05.12	
		大畑	軽四輪積載車	スバル	31/04	トラックタイプ	—	H05.12	
			小型動力ポンプ	ラビット	31/04	一段タービン	B 2	H05.12	
		西奥	積載車	ニッサン	32/02	—————	—	H05.02	
			小型動力ポンプ	シバウラ	11/05	一段タービン	B 3	H25.11	
		米田	軽四輪積載車	スバル	31/04	トラックタイプ	—	H05.12	
			小型動力ポンプ	ラビット	23/06	一段タービン	B 2	H13.10	
	5	鍛冶屋	軽四輪積載車	ミツビシ	43/01	トラックタイプ	—	S57.03	
			小型動力ポンプ	ラビット	27/04	一段タービン	B 2	H09.12	
		貸潮	軽四輪積載車	スバル	25/05	トラックタイプ	—	H11.11	
			小型動力ポンプ	トーハツ	12/05	一段タービン	B 3	H24.11	
		渡瀬・法光寺	軽四輪積載車	ダイハツ	13/06	搬送車タイプ	—	H23.10	
			小型動力ポンプ	ラビット	22/06	一段タービン	B 3	H14.10	
		出晴	軽四輪積載車	スバル	21/05	トラックタイプ	—	H15.11	
			小型動力ポンプ	トーハツ	21/05	一段タービン	B 3	H15.11	
		6	山上	軽四輪積載車	ダイハツ	08/06	搬送車タイプ	—	H28.10
				小型動力ポンプ	ラビット	25/05	一段タービン	B 3	H11.11
			長谷	軽四輪積載車	スバル	27/04	トラックタイプ	—	H09.12
				小型動力ポンプ	ラビット	27/04	一段タービン	B 2	H09.12
			上松	軽四輪積載車	スバル	30/06	トラックタイプ	—	H06.10
				小型動力ポンプ	ラビット	30/06	一段タービン	B 2	H06.10
田谷	軽四輪積載車		ダイハツ	21/05	トラックタイプ	—	H15.11		
	小型動力ポンプ		ラビット	21/05	一段タービン	B 3	H15.11		
湯谷	軽四輪積載車	スバル	20/02	トラックタイプ	—	H17.02			
	小型動力ポンプ	ラビット	24/05	一段タービン	B 3	H12.10			

所 属		消防ポンプ	機 種	経年	ポンプの性能		配置年月	
地区	分団・班				形 式	級		
吉	7	新田	軽四輪積載車	スバル	25/04	トラックタイプ	—	H09. 12
			小型動力ポンプ	ラビット	11/05	一段タービン	B 3	H23. 11
		上荒川	軽四輪積載車	スズキ	09/05	搬送車タイプ	—	H25. 11
			小型動力ポンプ	トーハツ	01/06	一段タービン	B 3	R03. 10
		畑枝・福井	軽四輪積載車	スバル	20/05	トラックタイプ	—	H14. 11
			小型動力ポンプ	ラビット	13/02	一段タービン	B 3	H22. 02
	8	富岡	軽四輪積載車	ダイハツ	06/05	搬送車タイプ	—	H28. 11
			小型動力ポンプ	シバウラ	09/05	一段タービン	B 3	H25. 11
		前田	積載車	トヨタ	25/04	—	—	H09. 12
			小型動力ポンプ	トーハツ	14/05	一段タービン	B 3	H20. 11
上中		軽四輪積載車	スバル	29/04	トラックタイプ	—	H05. 12	
		小型動力ポンプ	ラビット	29/04	一段タービン	B 2	H05. 12	
川	9	古川	積載車	ニッサン	26/04	—	—	H08. 12
			小型動力ポンプ	トーハツ	14/04	一段タービン	B 3	H20. 12
		実楽	軽四輪積載車	スバル	18/02	トラックタイプ	—	H17. 02
			小型動力ポンプ	ラビット	18/01	一段タービン	B 3	H17. 02
		古市	小型動力ポンプ	ラビット	27/05	一段タービン	B 2	H07. 11
		有安	小型動力ポンプ	ラビット	30/04	一段タービン	B 2	H04. 12
		吉川機動隊	救助資機材搭載	イスズ	10/01	—	—	H25. 03
			小型動力ポンプ	トーハツ	10/01	一段タービン	B 2	H25. 03

消防団員報酬・退職・新任状況

報 酬

(令和7年4月1日現在)

役 職	団 長	副団長	専任分団長・分団長	副分団長	部長・班長	団 員
報酬額(年)	207,000	126,000	50,500	45,500	37,000	36,500

退職事由

(令和7年4月1日現在)

退職団員数	退		職		事		由
	自己都合	定年等	傷病		死 亡		統合整理
			公 務	そ の 他	公 務	そ の 他	
55	54					1	

退職団員の在職年数

(令和7年4月1日現在)

退職団員数	退 職 団 員 在 職 年 数						
	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
55	11	4	5	11	4	5	15

新入団員年齢別

(令和7年4月1日現在)

新任団員数	入 団 年 齢								新入団員 の中で41 歳以上の 再入団
	21歳 未満	21 ～25	26 ～30	31 ～35	36 ～40	41 ～45	46 ～50	51歳 以上	
46	3	6	3	6	4	3	3	18	17

消防団員出動状況

火災出動及び火災シーズン中における警戒、各種災害への対応、並びに各種教養訓練等を行っています。

(令和6年中)

種別 区 分	火 災	水 防	警 戒	訓練等
回 数	192	2	0	1,649
人 員	363	9	0	5,998
平 均 出 動 人 員	1.9	4.5	0.0	3.6

消防団員関係表彰状況

郷土愛護の精神に基づき、崇高かつ重大な責務に対し特に自ら進んで、その使命達成に努められた功績により表彰を授与されました。

(令和6年度)

種別			階級	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	計
消防庁長官表彰		永年勤続功労章			1						1
日本消防 協会長表彰	特 別 功 労 賞										0
	功 績 章								1		1
	精 績 章					1		1		1	3
	勤 続 章				1	1		1	2	12	17
兵庫県知事表彰	功 労 章										0
	永年勤続功労章								1	2	3
	親子二代の賞										0
	家族の賞							2	1	5	8
兵 庫 県 消 防 協 会 長 表 彰	功 績 章					1	3				4
	精 績 章					1	2			3	6
	勤 続 章						3	2	1	12	18
	精 勤 章					2	3			7	12
	家族の賞	3 0 年								3	3
北 播 消 防 協 議 会 長 表 彰	優 良 綬		細川第4分団豊地班								
	功 績 章						2			2	4
	功 労 章					3	2	2		5	12
三 木 市 長 表 彰						5	1			1	7
三 木 市 長 家 族 の 賞						2		1		2	5
三 木 市 消 防 長 表 彰						1	1		1	3	6
三 木 市 消 防 署 長 表 彰						4				3	7
三 木 市 消 防 団 長 表 彰							4	6	7	27	44
三 木 市 消 防 団 長 分 団 表 彰			三木8・西這田・志染中・脇川・殿畑・水上								
計					2	21	21	15	13	89	161

令和6年版 消防年報

〒673-0433
兵庫県 三木市福井1933番15
三木市 消防本部

TEL 0794-82-0119
FAX 0794-82-9167